

在リ而シテ贗造ノ刑罰ヲ定ムルニ當リ法律カ原料ニ制限アル
 變造ト其制限ナキ偽造トヲ分チタル所以ハ是レ草案ニモ説明
 セルカ如ク一ハ其原料ノ常ニ貨幣ト云フ範圍内ニ制限セラル
 、カ故ニ一時ニ多數ヲ製出スルコトヲ得サルノ結果其害自ラ
 小ナルト他ハ原料ニ制限ナキカ故ニ器械等ヲ使用シテ一時ニ
 多數ヲ製造シ得ルノ結果其害自ラ大ナルトニ在ルモノニシテ
 (法文ニ偽造ノ器械ヲ想像スルニモ拘ハラズ變造ノ器械ヲ想像
 セサル所以亦茲ニ存ス)已ニ變造ト云ヘハソレ自身貨幣ヨリ贗
 造セラル、コトヲ意味スルト同時ニ其原料ハ業ニ已ニ貨幣ト
 云フ一定ノ範圍内ニ制限セラル、カ故ニ尙ホ之ヲ制限シテ製
 出物ト原料トノ同一ナラサルコトヲ要セサル可カラサルノ理
 由アラサレハナリ

論シテ茲ニ至レハ沿革上ヨリスルモ理論上ヨリスルモ「變造」
 トハ原料ニ係ラシメタルノ語ニ非スシテ製出物ニ係ラシメタ
 ルモノナルコト毫モ疑ヲ容ル、ノ餘地アルヲ見サレハ學者
 カソノ之ヲ以テ原料ニ係ラシメタルノ語ナリト思惟シタルハ
 大ナル誤ニシテ其此ヨリ出テタル論決ハ亦到底誤謬タラサル
 ヲ得サルナリ

二 變造ノ何タルヲ知ラサルコト 我所謂實貨變造ノ何タルヲ
 知ラフニハ先ツ抽象的ニ夫ノ所謂偽造及ヒ變造テフコトノ如
 何ナルコトナルヤヲ知ラサル可カラス我輩ノ見ル所ニヨレハ
 信用罪ニ付テ抽象的ニ偽造又ハ變造テフコトヲ定義セハ偽造
 トハ全ク新規ナル材料ヲ以テ眞物ニ類似シタル物ヲ製作スル
 ノ義ニシテ變造トハ眞正ナル物ノ上ニ信用ヲ害ス可キ工作ヲ

施スノ義ナリ約言スレハ二者何レモ物ノ上ニ技術ヲ施シ以テ或信用ヲ有スル物ノ眞實ヲ僞ハルノ所爲ナレトモ二者其相異ル所ハ單ニ其依テ信用ヲ害セラル可キ物自体ヲ基礎トシテ之ヲ利用シタルト否トニ存ス然リ而シテ凡ソ此變造ナルモノハ毎ニ二様ノ方法ヲ以テ行ハル一ハ物自体ヲ物質的ニ増減變更スルモノ(即チ物質的又ハ有形の變更)他ハ物ノ保有セル性質ヲ無形のニ變更スルモノ(即チ性質的又ハ無形の變更)是ナリ尙ホ之ヲ詳説セシニ物質的又ハ有形の變更トハ貨幣ニ付テ之ヲ云ハハ例ヘハ鋸其他ノ器具ヲ以テ貨幣ノ縁邊ヲ削リ以テ其分量ヲ減殺シ又ハ電氣ヲ應用シテ其成分ヲ吸取シ去ルカ如キ紙幣又ハ文書ニ付テハ穴ヲ穿チ又ハ之ヲ切斷スルノ所爲ナレトモ通常此等ノ所爲ハ信用ヲ害スル方法タルヲ得サルカ故ニ紙

紙幣又ハ文書等ニハ信用罪上所謂物質的變更ナルモノアルコトナシ(信用ヲ害スルノ目的偏ニ其物自体ノ形狀ヲ變更スルニ在ルモノニシテ性質的又ハ無形の變更トハ貨幣ニ付テ云ヘハ例ヘハ半錢銅貨ヲ五圓又ハ二十錢ノ金銀貨タラシメカ爲メ其記額ヲ改竄シ又ハ其縁邊ニ鏽目ヲ附シテ之ニ金若クハ銀ヲ鏽スルカ如キ)鏽目ヲ附スルハ物質的又ハ有形の變更ト云フ可キカ如キモ此場合ニ在リテハ其所爲偏ヘニ物量ヲ減殺スルニ在ラスシテ其物ノ性質ヲ變更セントスルニ存スルモノナルカ故ニ性質的又ハ無形の變更タリヲ云ヒ紙幣又ハ文書ニ付テ之ヲ云ヘハ二十錢紙幣ノ二ヲ五トシテ其色合ヲ五十錢ノモノニ恰當セシメ五十圓ノ借用證書ヲ六十圓ト變更シ又ハ無利息ノ證書ニ利息ヲ書キ加フル如キ(文書「document」ノ性質的又ハ無形

的變更ハ通常文字又ハ筆蹟(Écriture; Schrift; Writing)ノ物質的又ハ有形的變更ナルカ故ニ文書ノ性質的又ハ無形的變更ハ亦之ヲ文字又ハ筆蹟ノ物質的又ハ有形的變更トス(物自体ノ形ヲ變更スルヲ目的トスルニ非スシテ物ノ保有セル性質ヲ變更スルコトヲ目的トスルモノヲ云フ)

〔附言〕一、佛國ニ於テハ「Contrefaçon; Falsification; Altération」等ノ文字アリテ「Contrefaçon」ハ偽造「Falsification; Altération」ハ變造ニ該當ス而シテ「Falsification; Altération」ハ共ニ何レモ夫ノ「Faute」ナル文字カ通常過失テフ意義ニ用ヒラル、ニモ拘ハラズ時トシテハ過失ト犯行トニ論ナク凡テ行爲者ノ責任ニ歸ス可キ失行テフ意義ニモ用ヒラル、コトアルト同シク時トシテハ物質的變更ニモ性質的變更ニモ混用セラルレトモ特ニ區別シ

テ用ヒラル、トキハ「Falsification」ハ性質的變更ヲ「Altération」ハ性質的變更ヲ意味スルカ如シ

二、余ハ茲ニ變造ノ種類ニ付キ一ヲ物質的他ヲ性質的變更ト名ケタレトモ或ハ又之ヲ內容的變更若クハ外觀的變更ト名クルモ可ナラン、要偏ニ此種別アルヲ明ニスルニ在ルカ故ニ名稱ノ如キハ讀者ノ採ル所ニ委スヘシ

我刑法所謂貨幣(狹義)ノ偽造トハ眞ノ所謂偽造即チ新規ナル材料ヲ以テ眞物ニ類似シタル物ヲ作製スルコトノミヲ指シ變更トハ物質的ト性質的ノ變更トヲ併セ稱スルモノナルヤ抑モ亦或學者カ主張スルカ如ク偽造トハ眞ノ所謂偽造ト性質的變更トヲ意味シ變造トハ單ニ物質的變更ノミヲ指スモノナルヤ

第一 前ニモ述ヘタルカ如ク草案ニ於テ紙幣ノ變造ト共ニ夫ノ

貨幣ノ記額並ニ其色ヲ變更シタルモノ詳言スレハ其性質的ノ變更ヲモ尙ホ之ヲ變造ト名ケタルニ因テ之ヲ觀レハ其之ヲ繼承シテ同一ノ文字ヲ使用シタル現行法ノ變造テフ文字力之ヲ含ム能ハサルノ理由ナキト(此點ニ付テハ或ハ成程草案ニ於テハ明カニ予カ右ニ示シタルカ如キ場合ヲモ尙ホ貨幣變造トセリト雖モ此等ノ變更ハ法律上之ヲ以テ眞ノ變造ト云フヲ得ス單ニ詐欺取財ノ手段タルニ止マルハ學說並ニ判例ノ一般ニ認ムル所ニシテ現行法ハ草案ト異リ此等ノ變更ハ之ヲ變造トセズ隨テ草案ニ之レ有リトテ直チニ草案ニ對スル筆法ヲ以テ現行法ヲ解釋シ現行法ノ貨幣變造ハ貨幣ノ性質的變更ヲモ包含スルモノナリト云フハ些カ杜撰ナラスヤト論駁スル者アルヘシト雖モ是レ認見ナリ何トナレハ現行法上學說ニ於テ判例ニ

於テ一般ニ草案ニ例示シタルカ如キ場合ハ之ヲ變造ト云フ可カラストシタルハ是レ其變更ノ僅ニ特定シタル或一二ノ人ヲ欺キ得ルニ止マルノミニシテ未タ以テ一般ニ社會公衆ヲ欺キ得ルノ程度ニ達セサルカ故ノミ決シテ之ヲ以テ現行法ノ下ニ於テハ草案ト異リテ貨幣ノ性質上ノ變更ヲ變造トセスト論決スルコトヲ得ス蓋シ若シ夫レ論者ノ如ク云フトキハ物質上ノ變更ト雖モ例ヘハ貨幣ヲ削リ取リテ之ヲ三角又ハ四角トシタラソニハ變造ト云フヲ得スト云フテ理由トシテ遂ニ貨幣ノ物質上ノ變更ヲモ法律ハ尙ホ之ヲ變造トセスト論決セサルヲ得サルモノニシテ要スルニ余カ茲ニ言ハント欲スル所ノモノハ假令草案ニ掲ケタル性質上ノ變更ハ決シテ現行法上之ヲ以テ變造ト云フヲ得サルモ現行法ハ右ノ如キ種類ニ屬スル變更換

言スレハ性質上ノ變更ノ或程度ニ於ケル變更スラ尙ホ之ヲ變
造トシタル草案ヲ繼承シテ彼ト同一ナル變造テフ文字ヲ用ヒ
タルカ故ニ若シ夫レ此種ノ變更ニシテ能ク社會一般ノ公衆ヲ
瞞着シ得ルノ程度ニ達シナハ無論變造トスルモノタリト解セ
サル可カラスト云フニ在レハナリ

第二 法文ニ於テ明ニ貨幣ニ付テモ紙幣ニ付テモ共ニ均シク變
造ナル文字ヲ使用セル以上ハ少クトモ其變更ノ方法ノ或モノ
ハ彼此共通セルモノアル可ク貨幣ト紙幣トノ間彼ニ在テハ物
質的ノモノニ限リ此ニ在テハ性質的ノモノニ限ルト云フカ如
ク同一ノ文字ヲ二様ニ使用スルノ理由ナキト

第三 紙幣ニモ貨幣ニモ皆共ニ記額紋章色合及ヒ形狀アリ而シ
テ凡ソ法文謂フ所ノ紙幣ノ變造ハ性質的變更即チ記額紋章又

ハ色合等ノ變更ヲ指スモノタルハ何人モ疑ヲ容レサル所ナリ
(尤モ或一二ノ學者ハ記額又ハ紋章ノミノ變更ハ變造ナレトモ
尙ホ之ニ加ヘテ着色ノ變更ヲモ爲シタルトキハ變造ニ非スシ
テ偽造ナリト云フト雖モ記額ノミ又ハ着色ノミノ變更ハ夫ノ
草案ニ掲ケタル所ノ貨幣ノ記額又ハ着色等ヲ變更シタル場合
ト同シク依然明ニ舊紙幣タルノ徵表ヲ存スルカ故ニ到底之ヲ
以テ變造ト云フヲ得サルノミナラス假令之ヲ以テ變造トスル
モ記額又ハ着色等ノ一種ノ變更ハ變造タルモ二種以上ノ變更
ハ偽造タリトハ毫モ論據ナキ決定ナリト云ハサル可カラス但
シ若シ夫レ此決定ニシテ二種以上ノ變更ハ已ニ全ク舊紙幣ノ
原体ヲ失ハシメ以テ新ニ工ヲ加ヘタリト見ルコトヲ得ルカ故
ニ之ヲ偽造トセサル可カラストニ在ラハソハ後ニモ述フル如

ク事實ノ判定上ニ於ケル各自ノ斷定ニ過キサルカ故ニ法律上ノ問題トハ全ク別個ノモノトス(隨テ若シ夫レ之ヲ以テ前ニ揭ケタル所ノ或學者ノ如ク是レ皆僞造ナリ紙幣ニハ變造ナシト云フ)立法論タルノ點ハ暫ク之ヲ恕スルトシテ)トキハ格別荷モ法文ニ準據シ之ヲ以テ變造ナリトセハ貨幣ニ對スル同一ノ所爲モ亦之ヲ變造ト云ハスシハアル可カラス換言セハ彼此同一ノ所爲ナルニ彼ニ在テハ之ヲ變造トスルモ此ニ在テハ之ヲ變造トスルヲ得サルノ理由ナキト

ニ依リテ之ヲ觀レハ貨幣ノ變造ハ物質上ノ變更ハ勿論性質上ノ變更ヲモ亦之ヲ包含スルモノタルヤ炳然火ヲ賭ルカ如シ然ラハ其彼等學者カ或ハ凡ソ寶貨ノ變造トハ物質上ノモノ、ミヲ指スモノナルカ故ニ單ニ性質上ノ變更ノミヲ施シ得可キ紙

幣ニハ僞造アルモ變造アルコトナシ或ハ貨幣ノ變造トハ單ニ物質上ノ變更ノミヲ指スモノニシテ其性質上ノ變更ハ僞造ナリト主張スルハ大ナル誤ナリ畢竟彼等カ右ノ如キ謬説ヲ主張スルニ至リタル所以ノモノハ是レ偏ニ(一)或ハ獨國一派ノ學說ヲ取次キテ我法條ヲ說明セント試ミタルカ(二)若クハ佛國法ノ規定及ヒ其學說並ニ判例ニ眩惑シ之ヲ以テ直チニ我規定ヲ解釋セント欲シタルニ因ラスンハアラス

〔附言〕一、獨國一派ノ學說ニ從ヒ寶貨ノ性質的變更ハ僞造ナリトスルノ說ニ就テ、此說ハ前ニモ述ヘタルカ如ク我規定ノ解釋論トシテハ鏹半文ノ價ヲモ有セス唯單ニ立法論トシテ些カ論評ノ價アルノミ、抑立法論トシテ其價值如何ト云フニ此說ハ寶貨ノ性質的變更ハ畢竟是レ一部ノ僞造ニ過キスト

云フニ在ルモノニシテ固ヨリ誤ニハ非スト雖モ若シ此論法ヲ逐フトキハ物質的ノ變更モ亦一種ノ偽造ナルカ故ニ畢竟寶貨ノ變造ナルモノアルコトナシト云ハスノハ論理ヲ一貫セサルヘシ是レ此說ノ欠點トス

二、佛國法ノ規定及ヒ其學說并ニ判例ニ依リ紙幣ニハ性質的變更ニヨル變造アリト雖モ貨幣ニハ之レ有ルコトナシ其性質的變更ハ皆偽造ナリトスル說ニ就テ、一成程佛國一般ノ學說并ニ判例ニ於テハ論者ノ云フカ如ク貨幣ノ變造トハ單ニ物質的變更ニ限ルノ稱トシ其性質的變更ハ皆之ヲ偽造ナリトセリト雖モ是レ畢竟佛國法ニ於テハ貨幣ノ變造ニハ「Alteration」ナル文字ヲ紙幣ノ變造ニハ「Falsification」ナル文字ヲ使用シアリテ暗ニ貨幣ハ物質的變更ニ紙幣ハ性質的變更ニ

限ルコトヲ表白セルカ故ナルカ若クハ佛國法ニ於テハ偽造變造共ニ其刑ヲ同フスルカ故ニ何レニ屬スルモノトシテ判決セラル、モ被告人ニ於テハ格別利害ノ關係ヲ有セサルカ故ニ之ニ付テ實際議論ヲ生シタルコトナキノ結果深ク其區別ヲ研究セス漫然此一致ヲ見ルニ至リタルカ(此點ハ夫ノガロ)氏カ其佛國刑法論第三卷第八十九頁下半部ニ於テ偽造變造ノ區別ハ一ハ器械等ニヨルカ故ニ一時ニ多數ヲ製造スルコトヲ得ルモ他ハ個々ニ工作ヲ施サ、ル可カラサルカ故ニ右ノ如クナルコト能ハス云々……佛國ノ立法ニテハ別段之カ區別ヲ掲ケスト雖モ云々トテ其欄外ノ註ニ獨國刑法第一四六條第一四七條及ヒ第一五〇條ヲ紹介シ以テ其區別ノ一例ヲ示シタルヲ見ルモ明ナリ)ニシテ要佛國ノ學說及ヒ判

例ハ或ハ疑ナキ明文ニ依ルカ或ハ其區別ヲ忘レルモノニシテ佛國ニ於テモ若シ我國ノ如ク偽造變造其刑ヲ異ニスルノ規定アラシムニハ或ハ議論ナキヲ保セス(此點ニ付テハ現ニ佛國ニ於テ夫々我幕氏ノ草案ニ揭ケタルト同一ノ所爲即チ貨幣ノ命價又ハ色合ノミヲ變更スルノ所爲ハ變造(Alteration)ナルヤ否ニ付キ久シク學說及ヒ判例ニ於テ議論ノ岐レタル未遂ニ變造ニ非ス詐欺取財ノ一種ナリトテ第一三四條ノ規定ヲ見ルニ至リタルヲ見ルモ思ヒ半ニ過キン)隨テ此ノ如キ薄弱ナル學說又ハ判例ニ據テ法律ノ解釋ヲ試ミントスルハ全ク立脚ノ地ヲ欠ケルモノト云フヘシ

要之以上論述シタル所ニヨリ余輩ハ惟ラク

一 解釋論トシテハ寶貨ノ偽造及ヒ變造ノ區別ハ偏ニ其原料ヲ真

正ナル寶貨ニ酌ミタルト否トニ存スルモノニシテ其最モ接着セ
ル所ヲ舉示セハ單ニ程度ノ區別ニ過キス尙ホ之ヲ詳言スレハ偽
造トハ寶貨以外ノ物件若シハ一旦寶貨ノ原体換言スレハ寶貨カ
他物ヨリ區別セラル、要點例ハハ方圓等ノ形狀ハ勿論其記額及
ヒ紋章等凡テ一見寶貨ト認ムルコトヲ得可キ部分ヲ失ヒタル物
件ヲ材料トシテ新ニ寶貨ニ酷肖シタルモノヲ製造スルヲ云ヒ變
造トハ貨幣ノ外觀ヲ存シテ之カ實價ヲ減殺シ以テ無垢ノ貨幣ト
想像セシム若シハ劣等ノ寶貨ニ鍍金着色其他凡テ詐僞ノ工作ヲ
施シ以テ原寶貨ヨリモ高價ナル寶貨ノ外觀ヲ裝ハシムルモノ即
チ真正ノ寶貨ヲ利用シテ他ノ寶貨ヲ造リ出シタルモノヲ云フ隨
テ寶貨以外ノ物件ヲ材料トシタル偽造ト貨幣ノ實價ヲ減殺シタ
ル變造及ヒ劣等ノ寶貨ニ高價ナル寶貨ノ外觀ヲ裝ハシメタル變

造中ノ或ルモノトハ事實上其間ニ判然タル區別ヲ爲スコトヲ得
 ヘキモ嘗テ寶貨タリシ物件ヲ材料トシタル偽造ト劣等ノ寶貨ニ
 シレヨリモ高價ナル寶貨ノ外觀ヲ裝ハシメタル變造ノ或モノト
 ノ間ニ於テハ其果シテ寶貨ノ原体ヲ失ヒタル物ヲ材料トシタル
 (法律上ノ決定)カ故ニ偽造トス可キヤ將タ一ノ寶貨ヲ利用シテ他
 ノ寶貨ヲ造リ出シタルニ過キサル(法律上ノ決定)カ故ニ變造トス
 可キヤトノ程度ノ上ニ付テ事實上ノ疑ヲ生スヘシ故ニ若シ夫レ
 從來大審院等ノ下シタル判定ニシテ偏ニ此事實上ノ認定如何ニ
 依リ或ハ之ヲ偽造トシ或ハ之ヲ變造トシタルモノトセハ我輩ハ
 之ニ對シテ毫モ間然スル所アルヲ見スト雖モ倘シ夫レ之ニ反シ
 テ我刑法所謂貨幣ノ變造トハ實價ノ減少ニヨル變更即チ物質的
 變更ニ限ルモノナリトノ見解ニ因リシモノトスレハ些カ一考ヲ

煩ハサ、ル可カラサルモノアラフ

二 次ニ立法論トシテハ現行刑法ノ規定ハ到底議論ノ淵藪タルヲ
 免レサルカ故ニ我輩ハ前ニ述ヘタル所ノ種別ニ依リ獨國其他ノ
 國ノ刑法ノ如ク二種ノ變造ヲ區別シ以テ一方ニ於テ偽造及ヒ性
 質上ノ變更ト物質上ノ變更トハ明ニ之ヲ區別(事實上)スルコトヲ
 得ルカ故ニ各別ノ規定トシテ各相當ノ刑ヲ科シ他ノ一方ニ於テ
 偽造ト性質上ノ變更トハ法律上ハ格別事實上之カ區別ニ付テ困
 難ヲ生スルコトアル可キカ故ニ寧ロ合シテ一個ノ規定トシ何レ
 モ同一ノ刑ヲ科スルコト、スルカ若クハ前ニ述ヘタル或學者ノ
 說ヲ採用シ之ヲ論理的ニ擴張シテ凡テ變造ハ一部ノ偽造ナリト
 スルカ若クハ偽造ト變造トヲ區別セス之ヲ概括シテ贗造トスル
 カノ一ニ規定スルヲ可トス而シテ我輩ハ此中第三ノ方法ヲ採リ

尙ホ一層之ヲ推シ廣メテ贗造ナル文字ノ中ニハ夫ノ今日詐欺取財トセル所ノ變造ニ類スル所爲ハ勿論玩弄紙幣ノ製作ヲモ含ムノ語トシテ下ノ如キ廣濶ナル規定ヲ置カントモ希望ス曰ク内外國ニ通用スル寶貨ノ信用ヲ害ス可キ工作ヲ寶貨又ハ其他ノ物件ニ施シタル者ハ其巧拙ヲ問ハズ寶貨贗造ノ罪人トシ何年以上何年以下……ニ處ス(我輩カ所謂偽造及ヒ變造ト摸造トヲ區別セサル所以ハ此區別モ亦偽造ト變造トノ區別ノ如ク單ニ法理上ノ區別ノミニシテ事實上ニ於テハ往々區別スルコト能ハサルコトアルカ故ナリ)

以上偽造變造ノ何物タルヤヲ詳論シ了レリ依テ些カ冗長ニ涉ルノ恐レアルモ以下尙ホ本論ニ關スル二三ノ外國法ヲ示シ以テ參考ニ資セント欲ス

本論ニ關スル外國法

一 佛蘭西刑法第三卷第一編第三章第一節虛偽罪第一貨幣偽造ノ罪

第三百三十二條 佛蘭西ニ於テ法律上ノ流通力アル金銀貨幣ヲ偽造又ハ變造(物質上ノ變更)シタル者ハ……無期徒刑ニ處ス
 第三百三十四條 佛蘭西ニ於テ法律上ノ流通力アル貨幣又ハ外國ノ貨幣ニ彩色ヲ施シ以テ其金質ヲ欺ク者ハ……六月以上三年以下ノ禁錮ニ處ス

(注意) 本條ハ我佛文草案第二百十四條ニ記載セル所ノ第三ノ方法ニ依ル變更ニ相當スルモノニシテ其實偽造又ハ變造ト云フヘキモノニ非ス單ニ詐欺取財ノ方法タルノミ

二 獨逸刑法第二編第八章貨幣ニ關スル重罪輕罪

第一編 公益ニ關スル重罪輕罪 第四章 信用ヲ害スル罪 第一節 貨幣偽造罪 四〇一

第四百十六條 内外國ノ貨幣又ハ紙幣ヲ偽造シテ真正ノ貨幣又ハ紙幣トシテ使用シ又ハ通用セシメントシタル者又ハ使用若クハ通用セシムルノ目的ヲ以テ真正ナル寶貨ヲ變更シテ其正價ヨリモ高價ナル外觀ヲ與ヘ又ハ通用セサル寶貨ニ通用寶貨ノ外觀ヲ與ヘタル者ハ二年以上ノ徒刑ニ處シ云々(因ニ云フ此末文ニ記載スル所爲ハ事ノ狀態ヨリ觀察スルトキハ變造トセサル可カラサルモノナルモ我法律ニ於テハ之カ規定ヲ欠カスルノ結果解釋上ニ於テハ之ヲ以テ偽造トセサルノ止ム可カラサルモノアリ刑法改正ノ期ニ臨マハ一考ヲ要ス可キ點トス)

第二百五十條 全價額ヲ有スルモノトシテ通用セシムルノ目的ヲ以テ通用貨幣ヲ磨キ又ハ之ヲ削リ又ハ其他ノ方法ヲ以テ其銖銅ヲ減少シテ通用セシメタル者ハ禁獄ニ處ス……

三 伊太利刑法第二編第四章公ノ信用ヲ害スル罪第一節貨幣及ヒ公ノ信用ニ關スル證書ノ偽造

第二百五十六條 左ニ記載シタル者ハ三年以上十二年以下ノ懲

役ニ處ス

- 一 國內又ハ國外ニ於テ法律又ハ商業上ノ流通力ヲ有セル內國又ハ外國ノ貨幣ヲ偽造シタル者
 - 二 何等ノ方法ヲ以テスルヲ問ハス眞貨幣ニ具有スル價額ヨリモ高價ノ外觀ヲ與ヘ以テ之ヲ變造シタル者
 - 三 貨幣ヲ偽造又ハ變造シタル者又ハ之ニ加效シタル者ト共謀シテ偽造又ハ變造シタル貨幣ヲ國內ニ輸入使用又ハ其他ノ方法ヲ以テ流通ニ置カシムル爲メ他人ニ交付シタル者
- 若シ偽造又ハ變造カ法律又ハ商業上ニ於テ重大ナル價額ヲ

有スル貨幣ニ係ルトキハ五年以上十五年以下ノ懲役ニ處ス
若シ偽造變造ノ實價カ眞貨ノ實價ト同一ナルカ又ハソレヨ
リモ大ナル時ハ一年以上十五年以下ノ懲役ニ處ス

四 匈牙利刑法(第二編第十一章)

第二百三條 眞正ナル寶貨又ハ全價額ヲ有スル寶貨トシテ通用
セシムルノ目的ヲ以テ左ニ記載シタル所爲ヲ爲シタル者ハ寶
貨價造ノ罪ヲ犯シタル者トス

- 一 匈牙利又ハ外國ニ於テ通用セル貨幣又ハ紙幣ヲ偽造シ又
ハ偽造セシメタル者
- 二 眞正ナル貨幣又ハ紙幣ノ上ニ其價額ヨリモ大ナル價額ヲ
有セシム可キ性質ノ變更ヲ加ヘ又ハ加ヘシメタル者
- 三 何等ノ方法ヲ以テスルヲ問ハス眞正ナル匈牙利又ハ外國

ノ金銀貨ノ實價ヲ減少セシメタル者

前ニ記載シタル同一ノ目的ヲ以テ廢却シタル寶貨ノ上ニ之
ヲシテ通用寶貨ノ外觀ヲ裝ハシム可キ變更ヲ行ヒ若クハ行
ハシメタル者

第二百四條 前條第一第二號ニ記載シタル場合及ヒ廢却シタル
寶貨ヲ變更シタル場合ニ於テハ五年以上十年以下ノ懲役ニ處
ス

(省略劣等ノ貨幣若クハ之ニ代ハル可キ紙幣ニ前條ノ行爲ヲ爲
シタル者ハ輕罪トシテ六月以上三年以下ノ禁錮ニ處ス

五 和蘭刑法(第二編第十章貨幣ニ關スル罪)

第二百八條 眞實ニシテ鑄造セサル貨幣又ハ紙幣ナリトシテ行
使シ又ハ行使セシメンカ爲メニ貨幣又ハ紙幣ヲ偽造變造シタ

第一編 公益ニ關スル重罪 第四章 信用ヲ害スル罪 第一節 貨幣偽造罪 四〇五

ル者ハ寶貨贗造ノ犯人トシテ九年以下ノ禁錮ニ處ス
第二百十條 行使シ又ハ行使セシムルノ目的ヲ以テ貨幣ノ價額
ヲ減少シタル者ハ貨幣變造ノ犯人トシテ八年以下ノ禁錮ニ處
ス

六 支那律

- 一 唐律 諸私鑄錢者(貨幣ノ偽造)流三千里、作具已備未鑄者、徒二年、作具未備者杖一百。○若磨錯成錢、令薄小取銅以求利者(貨幣ノ物質上ノ變更)徒一年
- 二 明律 凡偽造寶鈔、紙幣ノ偽造、不分首從及窩主、若知情行使者皆斬。……○若將寶鈔、桃刷補、裱描改、以真作偽者(紙幣ノ性質上ノ變更)杖一百、流三千里。……凡私鑄銅錢者(貨幣ノ偽造)絞、匠人罪同。……○若將時用銅錢(通用ノ貨幣)剪錯薄小取銅以求利者

(貨幣ノ物質上ノ變更)杖一百。○若偽造金銀者(貨幣ノ性質上ノ變更)杖一百。○若將時用銅錢(通用ノ貨幣)剪薄小取銅以求利者(貨幣ノ物質上ノ變更)杖一百。○若偽造金銀者(貨幣ノ性質上ノ變更)杖一百。○若將時

三 清律 凡私鑄銅錢者(貨幣ノ偽造)絞、匠人罪同。……○若將時用銅錢(通用ノ貨幣)剪薄小取銅以求利者(貨幣ノ物質上ノ變更)杖一百。○若偽造金銀者(貨幣ノ性質上ノ變更)杖一百。○若將時

乙 輸入 輸入トハ結局或物件ヲ我國土内ニ置クノ目的ヲ以テ外國ヨリ其物件ヲ我國土内ニ運ヒ入ル、コトヲ云フ(一)結局其物件ヲ我國土内ニ置クノ目的アルヲ要スルカ故ニ他國ニ輸送スルノ目的ヲ以テ一時我國ニ陸上ケスルカ如キハ之ヲ輸入ト云フヲ得ス(二)外國ヨリ運ヒ入ル、コトヲ要スルカ故ニ我國土内ノ甲地ヨリ乙地ニ運ヒ入ル、カ如キハ亦輸入ニ非ス(三)我國土内ニ運ヒ入ル、コトヲ要ス、凡ソ外國ヨリ内國ニ輸送セラル可キ物件ハ普通

第一編 公益ニ關スル重罪輕罪 第四章 信用ヲ害スル罪 第一節 貨幣偽造罪 四〇七

税關ヲ經由ス可キモノニシテ外國ヨリ輸送セラル、物件ニ對スル所謂一國々境ハ税關設置線ナリトス故ニ假令已ニ我領海内ニ運ヒ入ル、モ未タ税關設置線内ニ運ヒ入レサル間ハ未タ以テ輸入既逐ノ所爲アリト云フテ得ス然レトモ其茲ニ注意ス可キハ之ヲ以テ夫ノ刑事上ノ所謂一國主權ノ版圖ニ關スル問題ト混同セサルコトヲ要スルコト是ナリ刑事上一國ノ主權ハ其領海ニモ及ブモノナルカ故ニ假令右ノ如キ場合ニ於テモ輸入未遂ノ所爲トシテ之ヲ逮捕スルコトヲ妨クサルモノトス

丙 取受 從來我輩ハ多クノ學者ト共ニ茲ニ取受トハ其字句ニ於テ夫ノ俗語ノ所謂受取リナル文字ヲ轉置シタルニ過サルト第九十三條所謂取受ノ文字アル法文ノ原文トモ云フ可キ佛文第一草案第二百二十六條ニ *Celui qui ayant reçu de bonne foi* トアリテ佛

語ノ「Recevoir」(即チ受取)ナル文字ノ使用シアルトニ因リ佛語ノ譯語ニシテ其之ヲ取受トセシハ單ニ音讀ノ便ニ依リシモノナリト思料シタルノ結果受取トハ授クル物ヲ受ケテ取ルノ義ナルカ故ニ授ケテ之ヲ受ケシムルモノナキ場合例ヘハ強竊盜拾得遺失物等ノ場合ニハ取受ノ所爲アリト云フテ得サルモノト思惟セシカ

(一) 此取受ナル文字ハ我刑法中僅ニ茲ニノミ使用シアリテ他ニ佛語「Recevoir」ナル文字ヲ取受ト譯シタルノ例ナキト (二) 新律綱領受賍律ノ以財請求ノ條ニ凡諸人事アリ財ヲ以テ官吏ニ請求シ法ヲ枉クルコトヲ得ント欲スル者ハ與フル所ノ財ヲ計ヘ坐賍ニ依テ論ス若シ難ヲ避ケ易ニ就キ枉クル所ノ罪重キ者ハ重キニ從テ論ス若シ官吏刀證留難(イロイロ難題ヲシカケテ)シテ歸結(落着)ノコトヲ與ヘス及ヒ強(無理)ナコトヲシテテ用ヒテ別ニ事ヲ生シ逼抑

(財ヲ渡セト逼ルコト)シテ財ヲ取受スル者ハ錢ヲ出ス人ハ坐セス
 (若以下ハ假令錢ヲ出スモ強請ニ遇ヒテ已ヲ得スシテ出シタル者
 ハ無罪ナリトノ但書ナリ)又其家人求索ノ條ニ凡監臨官吏ノ家人
 奴僕所部内ニ於テ財物ヲ取受シ及ヒ求索スル者云々官吏ノ家人
 又ハ僕婢等カ主人ノ威ヲ藉リテ專横ナルコトヲ爲スヲ罰スルノ
 條而シテ其母法タル清律明律ニモアリ)同一ノ條ノ註解ヲ見ルニ
 「取是因事而取也受是因贈而受也」トアリテ取受トハ受取ノ義ニ非
 スシテ取リ又ハ受クル義ナルニ依テ觀レハ新律綱領ニ於テハ取
 リ又ハ受クルノ義ナルコト明ナルト(三)現行刑法ハ其始々幕氏ノ
 草案ニ成リタルモノナルモ其之カ修正ハ多ク新律綱領等支那法
 系ニ屬スル刑法ヲ研究シタル人ノ手ニ成リタルモノナルトニ依
 テ之ヲ觀レハ茲ニ所謂取受ナル文字ハ佛語ノ譯語ニ非ス草案修

正ノ際委員ニ於テ新律綱領ノ文字ヲ使用シタルモノニシテ取受
 トハ取リ又ハ受クルノ義ナルカ故ニ單ニ受取リタル場合ノミナ
 ラス強盜拾得遺失物等進ンテ取ル場合ヲモ亦之ヲ包含スルノ
 語ナルコト疑ヲ容レス

丁 行使 行使トハ佛文草案所謂 *mis en circulation* 流通ニ置クノ義
 ナリ單ニ流通ニ置クト云フトキハ尙モ偽造貨幣ヲ他人ニ交付ス
 ルニ於テハ假令其者ニ於テ其偽造品タルコトヲ知ル場合ニ於テ
 毛尙ホ之ヲ行使ナリト云フヲ得ヘキカ如キモ貨幣偽造罪ハ信用
 ヲ害スル罪ナルト後ニモ述フル如ク假令貨幣ヲ偽造スルモ行使
 ノ意思アルニアラサレハ偽造罪即チ害信用罪ヲ構成セサルトニ
 依テ之ヲ觀レハ流通ニ置クトハ他人ヲ欺キ真正ノ貨幣トシテ之
 カ交付ヲ受ケシムルコトヲ意味スルモノニシテ偽造罪共犯ノ一

人又ハ偽造貨幣タルノ情ヲ知ル者ニ交付スルカ如キハ茲ニ所謂行使ニ非サルモノトス

第三ノ要素 犯罪ノ意思アルコト要ス

諸般ノ罪過失又ハ違警罪ニ非サル限リハ皆意思ヲ要ス此事總則ノ明示スル所更ニ説明ヲ要セスト雖モ法律カ犯罪トセルモノニハ種々ノ所爲アリテ其之ニ要スル意思ノ狀態亦同シカラス隨テ先ツ明文ニ依テ各犯罪ノ性質ヲ詳カニシタル上更ニ之ヲ總則ノ規定ト照合シタル後ニ非スンハ眞ニ總則所謂犯罪ニハ意思ヲ要ストノ意義ヲ詳ニスルヲ得サルノ結果單ニ總則所謂犯罪ニハ意思ヲ要ストノ觀念ノミニヨリテ各罪ノ意思ヲ定メントスルトキハ往々ニシテ誤ヲ生スルコトアリ本罪ノ如キ特ニ然リトス是レ余カ茲ニ此要素ヲ掲クル所以ナリ、法文ヲ案スルニ(一)第百八十二條乃至第百八十五

條ニハ偽造又ハ變造シテ行使シタル者(二)第百八十六條以下ノ條ニハ偽造變造已ニ成テ未タ行使セサル者又ハ偽造變造ノ情ヲ知テ其貨幣ヲ取受シ未タ行使セサル者又ハ偽造變造ノ貨幣ヲ輸入シタル者云々トアリ茲ニ於テヤ皮想ノ見解ヲ以テスルトキハ(第一)ノ如ク……行使シタル者ヲ罰スルモノハ行使ノ意思アルニ非サレハ罪ヲ構成セスト雖モ(第二)ノ如ク行使ニ至ラサル者ヲ罰スルモノハ行使ノ意思ナキモ直チニ罪ヲ構成スルカ如ク思惟セラル、モ(一)一方ニ於テ(イ)偽造變造已ニ成テ未タ行使セサルトハ自ラ偽造變造ハ行使ノ意思アルコトヲ表白セルト同時ニ本問偽造變造未タ成ラサル者云々以下ノ所爲ハ其ノ字ヲ以テ之ニ連接セラル、カ故ニ其前者ト同一ノ意思ヲ要スルコト明ナルト(ロ)第百八十九條第百九十條ニ於テモ偽造變造ノ刑ニ同シ又ハ……ノ刑ニ照シテ何等ヲ減ストア

リテ彼此同性質ノモノナルカ故ニ彼レト同一ノ意思ヲ要スルコトヲ明ニセルノミナラス現ニ第九十條第二項及ヒ第九十二條ニハ未タ行使セサル者云々ノ文字アリテ前ニ述ヘタルト同シク始メヨリ行使ノ意思アルコトヲ要スルコトヲ明ニセルト(二)他ノ一方ニ於テ本罪ハ害信用罪ニシテ害信用テフ結果ハ行使ニ依テノミ始メテ生ス可キモノタルトニ依テ之ヲ觀レハ本章規定スル所ノ罪ヲ構成スル爲メニハ何レモ始メヨリ之ニ依テ公ノ信用ヲ害ス可キ結果ヲ生セシムルノ意思換言スレハ其當然ノ結果トシテ信用ヲ害スルノ行爲タル行使又ハ流通ニ置クノ所爲ヲ自己又ハ他人ヲシテ爲サシムルノ意思アルコトヲ要スルモノニシテ夫ノ美術研究ノ爲メ貨幣ヲ模擬變更シ又ハ官署ニ届出テ若クハ學術研究ノ爲メ之ヲ輸入取受スルカ如キ單ニ偽造變造輸入取受ノ意思ノミアリテ行使ノ意

思ナキモノハ決シテ本罪ヲ構成セサルモノトス因ニ一言ス(一)本罪トシテ處罰スル偽造變造ノ所爲及ヒ之ニ類スル詐欺取財ノ所爲ト無罪タル可キ模造ノ所爲トノ區別ハ技術ノ巧拙ニ在ラス偏ニ贋造品ヲ行使スル意思ノ存否ニ在リ(二)本罪ト其之ニ類スル詐欺取財トノ區別ハ其贋貨カ社會公衆ヲシテ一見精細ナル調査ヲ爲スニ非スノハ眞貨ナリト誤信セシムルノ程度ニ達シタルヤ一例ヘハ貨幣ノ形狀ヲモ熟知セサル者ニ對シ又ハ眞貨ヲ辨識スルコトヲ得サル夜陰等ニ乘スルニ非スノハ以テ容易ニ其貨幣ニ非サルコトヲ認識スルコトヲ得サルモノ、如ク一將タ僅ニ常識ナキ者又ハ常識ヲ用ユルコトヲ得サル狀況ニ在ル者ノミテ欺クニ足リ決シテ普通一般ノ人ヲ誤ラシムルコトヲ得ヘキ程度ニ達セサルヤニ存スルモノニシテ簡單ニ之ニ言ヘハ常識ヲ以テ眞偽ヲ辨スルコトヲ得ルヤ否ヤニ

存ス—何ヲ以テ常識トスルヤハ裁判官ノ判断如何ニ在リ—ルカ故ニ畢竟其區別ハ模擬ニ付テノ技術ノ巧拙如何ニ存スルモノトス

右ニ説明シタルカ如ク本節ノ中未タ行使ニ至ラスシテ犯罪タルヘキモノモ亦行使ソノモノト同シク凡テ其行爲ト同時ニ之ニ伴フテ信用ヲ害スル結果ヲ生セシムルノ意思アルヲ要スルカ故ニ夫ノ例ヘハ始メ美術研究ノ爲メニ偽造變造シタル物若クハ學術研究ノ爲メニ輸入又ハ取受シタル後偶然惡意ヲ生シ之ヲ行使シ又ハ行使セシメタルモノ、如キハ之ヲ偽造變造又ハ輸入取受(知情)シテ行使シタルモノト云フヲ得ス單ニ偽造變造ノ貨幣ヲ行使シタル所爲後ニ説明スル所ヲ參考ス可シアリト云フヲ得ルノミニシテ取受ノ場合ノ如ク律ニ明文アルモノヲ除クノ外ハ無罪タラサルヲ得スト確信ス茲ニ於テカ更ニ次ノ問題ヲ生ス(一)自ラ行使シ又ハ他人ヲシテ行

使セシムルノ目的ヲ以テ偽造變造又ハ輸入取受シタルモ其所爲ノ時效又ハ確定判決ヲ經タル後ニ之ヲ行使シタル者及ヒ(二)他人カ美術研究ノ爲メニ模造シタル貨幣ヲ得テ之ヲ行使シタル者ノ處分如何是ナリ

第一問ニ付テ 余ハ嘗テ行使ノ意思ヲ以テシタル偽造變造輸入取受ハ已ニ時效又ハ確定判決ヲ經タリト雖モ其所謂時效又ハ確定判決ナルモノハ偽造變造輸入取受ヲ更ニ若クハ再ヒ獨立ノ一罪トシテ罰スルコトヲ得サルノ效力ヲ有スルノミニシテ後ニ行使セラレタル贗造貨幣カ被告ノ嘗テ惡意ヲ以テ偽造變造輸入取受シタル物ナリトノ事實マテモ消滅セシムルノ力ヲ有スルモノニ非ス此事實ニシテ依然消滅スルコトナクハ後ノ行使ハ之ト相合シテ完全ニ罪ヲ構成スルモノナリト決定セシカ今ハ其偏見

偽造

ナリシヲ自覺セリ蓋シ法ハ自己ノ作製輸入取受シタル物、ソノモ
 ハ、行使スルノ行為ヲ罰スルニ非ス作製輸入取受シテ行使スル
 テフ關聯シタル一所爲ヲ罰スルモノニシテ假令時効又ハ確定判
 決ハ被告ノ行使シタル物ハ被告ノ作製輸入取受シタル物ナリト
 云フノ事實ヲ消滅セシムルノ力ナキモ法ハ之ニ依テ被告ノ先ニ
 作製輸入取受シタル行為ヲ罰セサルコト、スルカ故ニ本問被告
 ノ所爲ハ其作製輸入取受シタル物ヲ行使セリト云フニ止リ……
 シテ行使セリト云フ關聯シタル行為ト云フヲ得サルカ故ニ偽造
 變造輸入取受シテ行使シタル罪ニ該當セサルハ勿論情ヲ知ラス
 シテ取受シタルノ事實モ亦之レ有ラサルカ故ニ第九十三條ノ
 罪ニモ該當セス結局無罪タラサルヲ得サレハナリ

第二問ニ付テ 本問ハ第一問ト大ニ其趣ヲ異ニスルモノニシテ有

罪ト決セサルヲ得ス蓋シ被告ノ行使シタル物件ハ惡意ナクシテ
 他人ノ模造シタルモノタリト雖モ作製ニ付テノ惡意ノ有無ハ單
 ニ作製者ノ責任ニ變動ヲ生スルノミ作製者ヲ離レ物ノミヲ觀察
 スルトキハ惡意ナクシテ作製セラレタルモノモ惡意アリテ作製
 セラレタルモノモ其物自体ハ常ニ偽造變造ノ實體ヲ具備スルモ
 ノニシテ作製者ノ意思如何ハ之ヲ離レテ行使スル者ノ責任ニハ
 何等ノ影響ヲ有ス可キ理由ナキカ故ニ知テ之ヲ行使セハ偽造又
 ハ變造ノ貨幣ヲ行使シタル者トシテ何等ノ瑕疵アルコトナケレ
 ハナリ

終ニ臨ミ尙ホ一言ス凡ソ貨幣ヲ偽造變造スルノ行為タルヤ普通信用
 ヲ害スルノ目的ヲ有スル行為ナルカ故ニ非常ノ情況ハ之ヲ證セサル
 可カラス普通ノ情況ハ之ヲ證スルコトヲ要セストノ證據法ノ原則ニ

依リ原告官タル檢事ハ進テ被告ニ於テ信用ヲ害スルノ意思アルコトヲ證明スルノ要ナシ其意思ナシトスル被告ニ於テ却テ之ヲ證明セサル可カラス隨テ判文ニ於テモ又普通ノ狀況ニ異ル決定ヲ採ル場合ニ於テノミ行使ノ意思ナキコトヲ明言スルノ要アリト雖モ之ニ反シテ單ニ偽造貨幣ヲ輸入取受若シハ行使スルノ行爲タルヤ之カ情ヲ知ルハ非常ノ事ニ屬スルカ故ニ被告ハ其情ヲ知ラサルコトヲ證明スルノ要ナシ却テ情ヲ知レリト主張スル檢事ニ於テ之ヲ證明セサル可カラス隨テ之カ判文ノ体裁モ亦前者ト正ニ反對ニ出テサル可カラサルモノトス(牙勞氏佛國刑法論第三卷六〇號)

第二款 處分

近世開明諸國ノ法典ニ於テハ貨幣偽造罪ノ處分ヲ定ムルニ當リ概テ皆(一)貨幣ノ性質(二)貨幣ノ流通力(三)所爲ノ性質(四)所爲ノ程度ノ四點ヲ

參酌シテ之カ處分法ヲ加減セリ我草案編纂者諸氏モ亦之ニ倣ヒテ本罪ノ處分ヲ定メタリシカ修正ノ際第二ノ點ノミハ斥ケラレテ發行ノ内國タルト外國タルトノ區別之ニ代レリ(佛文第二草案註釋四六五號)

第一 貨幣ノ性質ニ付テ 法典ヲ按スルニ同一ノ所爲ニ付テ金銀貨及ヒ紙幣ニ關スルモノハ其處分皆同一ニシテ獨リ銅貨ニ關シテノミ著シク其處分ヲ輕減セリ(一)金銀貨ニ關スルモノヲ同列ニ置キタルハ共ニ高等貨幣ニシテ實價ニ大差ナキカ故ニ其偽造變造行使等ノ行爲ニヨリ社會ニ流布スル害惡亦大差ナシト云フニ在ラン(二)紙幣ヲ金銀貨ニ準シタルハ其必ス金銀貨ノ命價ニ準シテ製作セラレ決シテ銅貨ニ準セラル、コトナキカ故ナラン(佛文草案註釋四三七號參照)(三)銅貨ニ關スル所爲ノ金銀貨又ハ紙幣ニ關スルモノヨリモ著シク輕減セラル、所以ハ銅貨ハ金銀貨又ハ紙幣ニ比セハ其價格

甚々微小ナルニモ拘ハラス其製作ノ費用及ヒ勞力ニ於テハ少クトモ徑庭ナキカ故ニ其依テ犯人ノ得ヘキ利益彼ノ如ク大ナラサルト同時ニ社會ノ被ル所ノ害モ亦彼ニ比セハ霄壤啻ナラサルニ依ラシ

一方ニ於テ罪ト刑トノ權衡ヲ重シ他ノ一方ニ於テ裁判官ノ自由ヲ制限スルノ主義ヲ採リタル我刑法ノ規定トシテハ區別較ヤ微細ニ過クト云フノ外格別非難ス可キ點ナカラシ(因ニ云フ我輩ト共ニ伊國及米國等ニ行ハル、新學派ノ學說ヲ主張スル者ハ皆此ノ如キ拘子定規的ノ規定ヲ設クルコトヲ非難スト雖モ現今歐米諸國ノ刑法ハ今尙ホ我刑法ト同一ノ主義ニ依リ同一ノ規定ヲ爲スモノ多數ニシテ此ニ揭クルカ如キ區別ヲ斥クタルモノ甚々稀レナリ)

第二 所爲ノ性質ニ付テ 法典ハ同一ノ貨幣ニ對スルモ其所爲ノ偽造タルト變造タルトニ因リテ處分ヲ異ニシ變造ハ偽造ヨリモ幾分

ノ輕減ヲナセリ草案ノ註釋ニ曰ク「偽造ハ全ク新ナル原料ヲ以テ作製スルモノニシテ通常模型其他ノ器械ニ因ルモノナルカ故ニ一旦之ヲ準備スルトキハ同時ニ多數ノ偽貨ヲ得ヘシ隨テ其危險甚々大ナリ之ニ反シ變造ハ真正ナル貨幣ヲ原料トセサル可カラサルモノニシテ通常個々ニ對シテ緻密ナル工作ヲ施サ、ル可カラス即チ若シ夫レ眞貨ヲ穿テ其實價ヲ奪ヒ填スルニ他ノ金屬ヲ以テセンカ工巧ナラント欲セハ勞多クシテ利少ク、勞少クシテ利多カラント欲セハ工巧ナラサルノ結果容易ニ發見セラル、ノ恐アリ單ニ實價ヲ減少センカ僅少ナラサレハ發覺ノ恐アリ着色又ハ命價ヲ變更セシカ異價ノ貨幣ハ大小各同シカラサルカ故ニ容易ニ一般ノ者ヲ欺クコトヲ得サルノ結果其危險偽造ノ如ク大ナラス」ト法典ノ理由モ亦之ニ外ナラサラン——此理由ハ一般觀察トシテハ(特殊ノ場合ヲ舉ク

レハ必スシモ草案説明スルカ如クナラサルモ必スシモ非難ス可キ
モノニ非ス隨テ罪刑ノ權衡ヲ重ンスル我刑法ノ規定トシテハ亦已
ム可ラサルノ區別タル可シト雖モ余カ疑ニ説明シタルカ如ク微細
ノ點ニ入ルトキハ偽造ト變造トノ區別ハ畢竟程度ノ區別ニ過キサ
ルノ結果適用ニ臨ミ甚タ困難ナル問題ヲ生スルコトアル可キカ故
ニ寧ロ之ヲ開放シテ判事ノ自由ニ委スルニ若カス

第三 貨幣發行ノ内外國ニ付テ 第八十二條ニハ單ニ内國通用ノ
金銀貨……トノミアリテ其内國發行ノモノタルト外國發行ノモノ
タルトテ區別セサルカ如キ觀アリト雖モ同シク金銀貨ノ偽造變造
ヲ規定シタル第八十三條ニ於テ特ニ内國ニ通スル外國ノモノ、
ミテ規定セルト第八十四條更ニ内○外○國○ノ○區○別○ニ○從○ヒ○前○二○條○ノ○例
ニ照シテ處斷ス、トノ明文アルトニ依テ之ヲ觀レハ第八十二條所

謂内國通用ノトハ内國通用ノ内國ノ貨幣ニ限ルモノニシテ其同文
ヲ用ヒタル第八十五條ノ銅貨ニ關スル規定モ亦内國ノ貨幣ニ限
ルモノトス、以上ノ決定ニシテ認ナカラシカ我輩カ先ニ述ヘタル如
ク我立法者ハ發行ノ内外ヲ問ハス凡テ其流通力ノ如何ニヨリテ處
分ヲ異ニセントシタル草案編纂者ノ主義ヲ斥ケ之ニ代ユルニ内外
國ノ區別ヲ以テシタルモノトス——貨幣發行ノ内外ニ因テ處分ヲ
異ニシタルハ畢竟之ニ依テ一個人ノ被ル所ノ害ハ彼此異同ナキモ
外國貨幣ノ信用ヲ失墜スルノ害ハ内國ノ貨幣ニ關スルカ如ク大ナ
ラスト云フニ在ラシ蓋シ進歩シタル今日ノ思想ニ適セサル區別ナ
リトス

第四 所爲ノ程度ニ付テ 法律ハ貨幣ノ偽造變造ニ關スル諸般ノ所
爲ヲ列擧スルト同時ニ罪ト刑トノ權衡ヲ重ンスルノ主義ニ從ヒ各

所為皆行使ヲ以テ最高度トシ漸次數段ノ階級ニ依リ處分ヲ異ニセ

リ

甲 偽造變造ノ所為ニ付イテ—此所為ハ便宜ノ為メ主タルモノト

從タルモノトニ分チテ説明ス可シ

一 主タルモノ—貨幣偽造變造ノ主タル所為ニ付テ法律カ階級
ヲ設クテ處分ヲ定ムルモノ左ノ如シ

(一) 偽造又ハ變造シテ行使シタル場合—(イ)内國ニ合法ノ通用
カヲ有スル内國ノ金銀貨及紙幣ニ關スルト、(ロ)内國ニ通用ス
ル外國ノ金銀貨若クハ官許ヲ得テ發行スル外國銀行ノ紙幣
ニ關スルトハ(内國ニ合法ノ通用カヲ有スル銅貨ニ關スルト
ニ依リテ處分ヲ異ニス第一ノ場合ニ於テハ偽造行使ハ無期
徒刑、變造行使ハ輕懲役第二ノ場合ニ於テハ偽造行使ハ有期

本條ノ適用ニ關シテハ
一、偽造ノ場合ニ於テハ
二、變造ノ場合ニ於テハ

徒刑、變造行使ハ二年以上五年以下ノ重禁錮第三ノ場合ニ於
テハ偽造行使ハ輕懲役變造行使ハ一年以上三年以下ノ重禁
錮ニ處ス(第八十二條乃至第八十五條説明ヲ須ヒス

(二) 偽造變造已ニ成テ未タ行使セサル場合—各本刑ニ照シ一
等ヲ減ス(第八十六條各本刑トハ第八十二條乃至第八八
十五條ニ規定シタル偽造又ハ變造行使ノ刑ヲ云フ、一等ノ輕
減ハ總則ノ適用ニ依ル説明ノ限ニアラス、法文ニハ未タ行使
セサル者トアリテ行使セサルトハ未タ全ク行使ニ着手セサ
ルカ若クハ已ニ行使ニ着手シタルモ行使セズシテ中止シタ
ル場合ノミヲ指シ行使ニ着手シタルモ意外ノ障礙舛錯ニ因
リ之ヲ遂クルコト能ハサリシ場合ヲ含マサルカ如キ語氣ア
ルヨリシテ論者或ハ罪刑其權衡ヲ失スルノ嫌アルモ嚴格ナ

第一編 公益ニ關スル重罪輕罪 第四章 信用ヲ害スル罪 第一節 貨幣偽造罪 四二七

所爲皆行使ヲ以テ最高度トシ漸次數段ノ階級ニ依リ處分ヲ異ニセ

甲 偽造變造ノ所爲ニ付イテ—此所爲ハ便宜ノ爲メ主タルモノト

從タルモノトニ分チテ説明ス可シ

一 主タルモノ—貨幣偽造變造ノ主タル所爲ニ付テ法律カ階級ヲ設ケテ處分ヲ定ムルモノ左ノ如シ

- (一) 偽造又ハ變造シテ行使シタル場合—(イ)内國ニ合法ノ通用カヲ有スル内國ノ金銀貨及紙幣ニ關スルト、(ロ)内國ニ通用スル外國ノ金銀貨若クハ官許ヲ得テ發行スル外國銀行ノ紙幣ニ關スルト、(ハ)内國ニ合法ノ通用カヲ有スル銅貨ニ關スルトニ依リテ處分ヲ異ニス第一ノ場合ニ於テハ偽造行使ハ無期徒刑、變造行使ハ輕懲役第二ノ場合ニ於テハ偽造行使ハ有期

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百

徒刑、變造行使ハ二年以上五年以下ノ重禁錮第三ノ場合ニ於

テハ偽造行使ハ輕懲役變造行使ハ一年以上三年以下ノ重禁

錮ニ處ス(第八十二條乃至第八十五條說明ヲ須ヒス

(二) 偽造變造已ニ成テ未タ行使セサル場合—各本刑ニ照シ一

等ヲ減ス(第八十六條)各本刑トハ第八十二條乃至第八

十五條ニ規定シタル偽造又ハ變造行使ノ刑ヲ云フ、一等ノ輕

減ハ總則ノ適用ニ依ル説明ノ限ニアラス、法文ニハ未タ行使

セサル者トアリテ行使セサルトハ未タ全ク行使ニ着手セサ

ルカ若クハ已ニ行使ニ着手シタルモ行使セズシテ中止シタ

ル場合ノミヲ指シ行使ニ着手シタルモ意外ノ障礙舛錯ニ因

リ之ヲ遂クルコト能ハサリシ場合ヲ含マサルカ如キ語氣ア

ルヨリシテ論者或ハ罪刑其權衡ヲ失スルノ嫌アルモ嚴格ヲ

ル解釋ヲ重スル刑法ノ解釋トシテハ後段ノ場合ハ總則第百十二條及ヒ第百十三條ノ規則ニ依ラサル可カラスト主張スルモノアリト雖モ是レ畢竟法文ノ用語ヲ咎ムルモノニシテ正當ノ解釋ニ非ス蓋シイ論者モ已ニ之ヲ認ムルカ如ク論者ノ說ハ我刑法ノ主義ニ反シテ罪刑其權衡ヲ失スルト(ロ)下文其未タ成ラサル者テア文辭ハ結果ニ付テ云ヒタル語ナルカ故ニ意外ノ障礙舛錯ニ因テ遂ケサリシ場合ヲモ亦明ニ之ヲ包含スルノ語ニシテ彼ト此トハ規定ヲ異ニセサル可カラサルノ理由ナキトニ依テ之ヲ觀レハ法文ノ意ハ決シテ論者ノ解スルカ如クナラサルヤ明ナルノミナラス其未タ行使セサル云々ノ文辭自体モ亦必スシモ未遂犯ノ場合ヲ包含セスト斷言スルコトヲ得ル程ニ正確ナル語辭ニ非サレハナリ

(三) 偽造變造未タ成ラサル場合—各本刑ニ照シ二等ヲ減ス各本刑ト減等ノ事ニ付テハ說述セス其偽造變造未タ成ラサル

トハ偽造變造ノ豫備乃至偽造變造ニ着手シタルモ意外ノ障礙舛錯ニ因リ之ヲ遂ケサル者ヲ包含スルカ如キ語氣アルモ次項直チニ偽造ノ器械ヲ豫備シテ未タ着手セサル者ハ各三等ヲ減ストノ規定アリテ偽造ノ豫備ノ最モ大ナル器械ノ豫備ヨリモ輕微ナル其他ノ豫備又ハ變造ノ豫備ヲ重ク罰ス可キノ理由アル可カラサルニ依テ之ヲ觀レハ茲ニ其未タ成ラサル者トハ(中止ニ因ルト意外ノ障礙舛錯ニ因ルトヲ問ハス)凡テ偽造又ハ變造ニ着手シタルモ其事ノ未タ成ラサル者ヲ意味スルモノニシテ豫備ノ場合ヲ合マサルモノトス

(四) 偽造ノ器械ヲ豫備シタルニ止ル場合—各三等ヲ減ス各三

等トアルハ各本刑ニ照シ三等ヲ減ストノ略文ナリ法文ニハ
 偽造ノ器械ヲ豫備シタル者トアリテ偽造ノ豫備中器械ヲ豫
 備シタル者ニ限ルカ故ニ變造ノ豫備ハ勿論偽造ノ豫備ト雖
 モ器械ノ豫備以外ノモノ例ヘハ金塊ヲ買入レ資本ヲ蒐メ工
 場ヲ造ルカ如キハ此規定以外トス尙注意ス可キハ偽造ノ器
 械トアルカ故ニ例ヘハ模型印刷器ノ如キ貨幣ノ偽造ニ固^〇有
 ノモノタルヲ要ス廣ク他ノ所爲ニモ用ヒラル可キ有合セノ
 器具ハ此中ニ入ラス

二 從タルモノ—貨幣ノ偽造變造ノ從タル所爲ニ付テ法律カ特
 ニ處分ヲ定ムルモノ左ノ如シ

(天) 偽造變造ノ完成以前ニ關スルモノ

(イ) 偽造變造ノ情ヲ知テ雇ヲ受ケタル職工及ヒ其補助ヲ爲

シテ雜役ニ供シタル者—第百八十七條ニ曰ク、貨幣ヲ偽造
 變造スルノ情ヲ知テ雇ヲ受ケタル職工ハ前數條ニ記載シ
 タル犯人ノ受ケ可キ刑ニ照シ各一等ヲ減ス、若シ職工ノ補
 助ヲ爲シテ雜役ニ供シタル者ハ職工ノ刑ニ照シ一等又ハ
 二等ヲ減ス、ト即チ法律ハ第百八十二條乃至第百八十六條
 ニ規定シタル主タル犯人ノ受ケ可キ刑ニ照シ職工ニ對シ
 テハ一等ヲ減シ其補助ヲ爲シタル者ニ對シテハ一等又ハ
 二等ヲ減シテ處斷スト規定セリ故ニ例ヘハ第百八十二條
 ノ所爲ニ關スル場合ニ主タル犯人ニ於テ偽造行使ノ所爲
 アルトキハ職工ハ無期徒刑(第百八十二條)ヨリ一等ヲ減シ
 テ有期徒刑ニ其補助ヲ爲シタル者ハ有期徒刑ヨリ一等又
 ハ二等ヲ減シテ重懲役又ハ輕懲役ニ處シ偽造已ニ成テ未

タ行使セサルトキハ職工ハ無期徒刑第百八十二條ヨリ一等ヲ減シタル有期徒刑第百八十六條ヨリ一等ヲ減シテ重懲役ニ其補助ヲ爲シタル者ハ重懲役ヨリ一等又ハ二等ヲ減シテ輕懲役又ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ、偽造未タ成ラサルトキハ職工ハ無期徒刑第百八十二條ヨリ二等ヲ減シタル重懲役第百八十六條ヨリ一等ヲ減シテ輕懲役ニ其補助ヲ爲シタル者ハ輕懲役ヨリ一等又ハ二等ヲ減シテ二年以上五年以下又ハ一年六月以上三年九月以下ノ重禁錮ニ處シ、偽造ノ器械ヲ豫備シテ未タ着手セサルトキハ職工ハ無期徒刑第百八十二條ヨリ三等ヲ減シタル輕懲役第百八十六條第二項ヨリ一等ヲ減シテ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ其補助ヲ爲シタル者ハ二年以上五年以下ノ

重禁錮ヨリ一等又ハ二等ヲ減シテ一年六月以上三年九月以下又ハ一年以上二年六月以下ノ重禁錮ニ處スルカ如シ疑ナキ問題ナリ然ルニ夫ノ或學者カ職工ハ自身貨幣ノ偽造變造ニ從事シタルモノニシテ畢竟貨幣偽造變造ハ所爲ハ正犯ナルカ故ニ貨幣偽造變造ノ刑ニ處ス可キモノナルモ本ト他人ヨリ些少ノ勞銀ヲ受ケテ之ニ從事シタル者ニシテ其情原諒ス可キモノアルヲ以テ法律ハ之ニ一等ノ輕減ヲ與フコト、シタルモノナリ故ニ職工ノ處分ハ其雇主ノ行爲ニ對スル刑即チ貨幣ヲ偽造變造シテ未タ行使セタル行爲ニ對スル刑即チ貨幣ヲ偽造變造シテ未タ行使セサル者ノ刑ヨリ一等ヲ減ス可キモノニシテ之ヲ雇入レテ偽造變造セシメタル雇主ノ刑ヲ標準トシテ減等ス可キモ

ノニ非ス蓋シ若シ夫レ然ランカ他人ノ所爲ニヨリテ其刑罰ヲ輕重セラル、ノ結果ヲ生スレハナリト主張スルカ如キハ(一)第百八十七條前數條トハ明ニ第百八十二條乃至第百八十六條ヲ指スモノタルノ法文ニ反スルノミナラス(二)貨幣偽造ノ所爲カ罰セラル、ハ信用ヲ害スル行使ノ意思アルカ故又職工ノ所爲カ罪トナルハ本ト行使ノ意思アルモノヲ補助シタルカ故ニシテ雇主ノ所爲ト職工ノ所爲トハ原因結果ノ關係ヲ有スルモノナルヲ以テ純理上職工ノ處分ハ雇主ノ處分ト相伴ハサル可カラサルノ理由アルヲ忘却シタルモノニシテ探ルニ足ラサル認見タリ

法文ニハ(一)雇ヲ受ケタル職工トアルカ故ニ職工トシテ雇主ノ家ニ雇入レラレタル者ニ限ルカ如キ觀アリト雖モ法

文ノ意ハ廣ク偽造變造ニ關スル工事ニ從事スル者トノ義ナルカ故ニ假令其家ニ雇入レラレスシテ獨立ノ營業ヲ爲セル印版又ハ模型彫刻師若クハ印刷師ト雖モ其職業ニ從事シタル者ハ亦茲ニ所謂雇ヲ受ケタル職工タル可シ(二)又一方ニ於テ職工他ノ一方ニ於テ職工ノ補助ヲ爲シテ雜役ニ供シタル者トアルカ故ニ職工トハ偽造變造ノ工作ニ從事セル技手ヲ其補助ヲ爲シテ雜役ニ供シタル者トハ技手ニ使用セラル、日雇又ハ丁稚等直接雇主ニ屬セス單ニ技手ノ使役ノミニニ供シタル者ヲ指スカ如キ觀アルモ法文ノ意ハ畢竟直接ニ偽造變造ノ工事ヲ爲シタル者ト然ラサル者トヲ區別セントスルニ在ルモノナルカ故ニ假令直接雇主ニ隸屬スル者ト雖モ偽造變造ニ直接ナル工作ヲ爲ス者

ヲ補助シテ其下働キヲ爲シタルモノハ皆此中ニ入ル可キモノトス

終ニ若シ職工其偽造變造シタル貨幣ヲ自ラ行使シタルトキハ如何余ハ嘗テ第百八十七條ト取受行使罪トノ數罪俱發ヲ以テ論スヘシトノ説ヲ主張セシカ今ハ反對論ヲ採用シ第百八十二條乃至第百八十五條ヲ以テ處斷ス可キモノト論定セント欲ス蓋シ己レト一體ヲ爲セル主犯ヲシテ行使セシムルノ意思ハ亦廣キ意味ニ於テ自ラ行使シテ他人ヲ害スルノ意思ナルカ故ニ此意思ヲ以テ作製シタル物ヲ行使セハ所謂偽造又ハ變造シテ行使シタル者トシテ何等ノ瑕疵ナクレハナリ

(ロ) 貨幣ヲ偽造變造スルノ情ヲ知テ房屋ヲ給與シタル者

第百八十八條ニ曰ク、貨幣ヲ偽造變造スルノ情ヲ知テ房屋ヲ給與シタル者ハ偽造變造ノ各本刑ニ照シ二等ヲ減スト茲ニ偽造變造ノ各本刑トハ如何ナル意義ナルヤ第百八十八條ニモ前數條ニ記載シタル貨幣ノ云々各本刑トアリテ文字相類スルカ故ニ人或ハ「房屋ノ給與者ハ職工ノ場合ニ異リ主タル犯人ノ受シ可キ刑罰ノ如何ニ拘ハラス常ニ第百八十二條乃至第百八十五條ノ刑ヨリ二等ヲ減シテ處斷スルモノニ非スヤ」ト疑ヲ起ス者アル可シト雖モ立法ノ意ハ第百八十七條ノ場合ト同シク第百八十二條乃至第百八十六條即チ主タル犯人ノ受ク可キ刑ニ照シテ輕減スルニ在ル者ニシテ其第百八十七條ト同一ノ筆法ニ依ラサリシハ第百八十七條ノ在ルアリテ前數條ト云フヲ得サリシカ

故ナリ蓋シ(一)第二百一十一條第二項第四號ト第二百二十七條(第二百一十一條第四號附和隨行シテ雜役ニ供シタル者ト第二百二十七條情ヲ知テ房屋ヲ給與シタル者トハ共ニ其刑二年以上五年以下ノ輕禁錮ニシテ法律ハ情ニ於テ之ヲ同視セリ)トノ關係ヲ見ルモ其刑ノ職工又ハ其補助ヲ爲シタル者ト伯仲セサル可カラサルノ理由アルノミナラス(主タル犯人ノ受ク可キ刑ヨリ二等ヲ減スルトキハ常ニ職工又ハ其補助ヲ爲シタル者ノ刑ト相伯仲ス)(二)前段ノ如ク解スルトキハ房屋給與ノ所爲ハ其實從犯ノ所爲タルニ拘ハラス時ニ或ハ主タル犯人ヨリモ重キ刑罰ヲ受クルノ不結果ヲ生スレハナリ—茲ニ附隨トシテ簡單ナル一問題アリ曰ク貨幣ヲ偽造變造スルノ情ヲ知テ雇ヲ受ケタル職工ニ偽造

變造スル爲メノ房屋ヲ給與シタル者ハ如何ニ之ヲ處斷ス可キヤ此問題ニ對シ人或ハ是レ職工ノ從事セル偽造變造ノ所爲ヲ幫助シタルモノナルモ之ヲ以テ雜役ニ供シタル者ト云フコトヲ得サルカ故ニ總則從犯ノ規定ニヨリ正犯職工ノ受ク可キ刑ヨリ一等ヲ減シテ處斷ス可キモノナリ若クハ職工ハ本ト從犯ニシテ從犯ノ從犯ナキカ故ニ刑法第二條所謂律ニ明文ナキモノトシテ無罪タラサル可カラスト云フモノアル可シト雖モ余ハ簡單ニ主タル犯人ニ給與スルモ職工ニ給與スルモ其偽造變造ノ所爲ニ加效シタル所爲ノ程度若クハ性質ニ毫モ異同ナキノミナラス何レノ場合ニ於テモ常ニ法文所謂情ヲ知テ房屋ヲ給與シタル者タルヲ失ハサルヲ以テ疑モナク第百八十八條正面ノ適

用ヲ受ク可キモノト斷言ス

右ノ外例ヘハ偽造變造ノ器械又ハ之ニ要スル資本ヲ支給シ又ハ偽造變造ニ必要ナル藥品ヲ指教スルカ如キ從タル行爲中理論上不問ニ措ク可カラサルモノ少カラサルニ依テ之ヲ觀レハ畢竟法律ハ偽造變造ニ關スル從犯ノ重モナルモノヲ舉クテ特別ノ明文ヲ設ケタルニ過キササルモノニシテ茲ニ規定セサルモノハ皆總則ノ適用ニ依ラサルヘカラサラン

(地)

偽造變造ノ行爲以後ニ關スルモノ

取受シタル者—取受シタル者ニ付テハ初ヨリ偽造變造ノ情ヲ知リタルト否トヲ分チ各所爲ノ階級ニ因テ處分ヲ異ニス
一 初ヨリ情ヲ知テ取受シタル場合—行使シタルトキハ偽造變造シテ行使シタル者ノ刑ニ各二等ヲ減シ其未タ行使

セサルトキハ各三等ヲ減ス(第九十條)別ニ説明ス可キモノナシ唯、一ノ問題トシテ注意ス可キハ偽造變造ノ貨幣タルコトヲ知リ偽造又ハ變造シタル者即チ主タル犯人ノ依頼ヲ受ケ單ニ之ヲ甲倉庫ヨリ乙倉庫ニ運搬シタル者ノ處分如何主タル犯人ノ行使ニ加效シタルニモ非ス取受ニモ非ス(蓋シ知情取受ノ所爲トシテ罰スルコトヲ得ルカ爲メニハ少クトモ自ラ又ハ他人ヲシテ行使セシムルノ意思アルコトヲ要スルハ第九十條第二項未タ行使ノ文字アルニ依テ明ニシテ本問犯人ハ此意思ナクハナリ)恐ラク明文ヲ欠クモノトシテ無罪ナランカ

二 情ヲ知ラスシテ取受シタル場合—(一)行使セサルトキハ無罪、後チ情ヲ知テ行使シタルトキハ其偽造變造貨幣ノ價

額二倍ノ罰金ニ處ス但罰金ノ額ハ二圓以下ニ下スヲ得ス
 (第百九十三條) (二) 此末文ノ意ハ本刑ヲ二圓以下ニ降スコト
 ナ得スト云フニ在リテ酌量減輕タモ尙ホ之ヲ禁スルノ意
 ニハ非サラゾ (三) 自由刑ヲ科セスシテ罰金刑ヲ科スル所以
 ハ本場合ニ於テハ他ノ場合ノ如ク犯人ニ於テ偽造變造ノ
 貨幣ニ依テ害悪ヲ社會ニ流サントノ深キ意思アルニ非ス
 犯人ノ之ヲ行使シタルハ(多クノ場合ニ於テ)其先ニ自ラ取
 受ニ依テ失ヒタル損失ヲ償ハントニ在ルモノニシテ畢竟
 貪慾ノ結果ナルカ故ニ之ヲ懲戒防遏スルハ更ニ過大ノ損
 失ヲ受クルノ恐アラシムルヲ以テ足レリトシタルニ依ル
 ナリ

乙 輸入シタル所爲ニ付テ一第百八十九條ニ曰ク偽造變造ノ貨幣

ヲ内國ニ輸入シタル者ハ偽造變造ノ刑ニ同シト是レ輸入ハ之ニ
 依テ偽造變造ノ貨幣ヲ我國土内ニ生レシムルモノニシテ其所爲
 之ヲ偽造又ハ變造スルモノト毫モ異ル所ナキカ故ニシテ偽造貨
 幣ニ對スルモノハ貨幣偽造ノ所爲ニ變造貨幣ニ對スルモノハ貨
 幣變造ノ所爲ニ何レモ第百八十二條乃至第百八十六條ノ規定ニ
 準シテ處斷ス別ニ説明ス可キモノナシ唯其從タル行爲例ヘハ偽
 造貨幣ヲ輸入スルコトヲ知テ之ニ船舶ヲ給與シ其船舶ノ船長ト
 ナリ又ハ之ヲ荷卸シタル者等ニ付テハ總則從犯ノ規定ニヨリ
 適應ノ處分ヲ爲ス可キモノトス

〔附加〕 第百九十三條以外ノ規定ニ共通スル特別處分法一第百九十三
 條以外ノ規定ニ共通ナル特別法ニアリ即チ

一 第百九十一條ニ曰ク前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ

第一編 公益ニ關スル重罪 第四章 信用ヲ害スル罪 第一節 貨幣偽造罪 四四三

處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

二 第九十二條ニ曰ク、貨幣ヲ偽造變造シ及ヒ輸入取受シタル者未タ行使セサル前ニ於テ官ニ自首シタル時ハ本刑ヲ免シ六月以上三年以下ノ監視ニ付ス

若シ職工雜役及ヒ房屋ヲ給與シタル者未タ行使セサル前ニ於テ自首シタル時ハ本刑ヲ免ス

第一ハ從來屢、遭遇シタル條文第二ハ第二百二十六條ト同一ナレハ茲ニ再ヒ説明ノ勞ヲ探ラス

最終ニ(一)立法論トシテハ尙ホ論述スヘキコト多シト雖モ暫ク之ヲ省零シ唯缺點多キ規定ナルヲ以テ改正ノ期ニ臨マハ大修正ヲ要ストノ一言ヲ留ム(二)參看ノ法條トシテハ明治九年四月十九日第五十七號布告、鑄造金銀銅貨紙幣等取扱規則同年五月十八日大藏省甲第十二號達

明治二十八年四月法律第二十八號通貨及證券模造取締法等ヲ參看ス

第二節 官印ヲ偽造スル罪

法律ハ第九十四條乃至第二百一條ヲ以テ(一)官印ヲ偽造又ハ使用スル罪(二)官印ヲ盜用スル罪(三)各種ノ印紙、界紙及ヒ郵便切手ヲ偽造變造又ハ使用スル罪(四)各種ノ印紙及ヒ郵便切手ヲ再ヒ貼用スル罪ヲ規定シ冠スルニ本節官印ヲ偽造スル罪ヲ題名ヲ以テセリト雖トモ是レ編纂ノ體裁ニ於テ甚タ不可ナルモノアリ宜シク第三第四ノ罪即チ印紙、界紙及ヒ郵便切手ニ關スル罪ハ之ヲ貨幣又ハ文書偽造罪ノ節目中ニ規定シ第一第二ノ罪即チ官印ニ關スル罪ハ後ニ規定セル私印偽造ノ罪ト併括シテ冠スルニ官私ノ印章ヲ偽造スル罪ヲ名稱ヲ以テス

可キナリ
右ノ如ク本節ハ少クトモ全ク性質ヲ異ニセル二種ノ犯罪ヲ包含スル
モノナルヲ以テ余ハ之ヲ官印ノ偽造ニ關スル罪ト各種ノ印紙界紙及
ヒ郵便切手ノ偽造ニ關スル罪トノ二款ニ分チ第一款ニ於テ官印ヲ偽
造シ又ハ其偽印ヲ使用スル罪及ヒ官印ヲ盗用スル罪ヲ第二款ニ於テ
各種ノ印紙界紙及ヒ郵便切手ヲ偽造變造又ハ使用スル罪及ヒ各種ノ
印紙及ヒ郵便切手ヲ再ヒ貼用スル罪ヲ説明セント欲ス

第一款 官印ノ偽造ニ關スル罪

第一項 官印ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用
スル罪

官印ヲ偽造又ハ使用スル罪ハ第九十四條乃至第九十六條ノ規定
スル所ナリ

第九十四條ニ曰ク、御璽國璽ヲ偽造シ又ハ其偽璽ヲ使用シタル者
ハ無期徒刑ニ處ス、

第九十五條ニ曰ク、各官署ノ印ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル
者ハ重懲役ニ處ス、

第九十六條ニ曰ク、產物商品等ニ押用スル官ノ記號印章ヲ偽造シ
又ハ其偽印ヲ使用シタル者ハ輕懲役ニ處ス

又ハ其偽印ヲ使用シタル者ハ輕懲役ニ處ス
書籍什物等ニ押用スル官ノ記號印章ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用
シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス、ト

即チ本罪ヲ構成スル爲メニハ(一)所爲ノ目的物ハ官印ニ關スルコト(二)
偽造又ハ使用ノ所爲アルコト(三)意思アルコトヲ要ス

第一ノ要素 所爲ノ目的物ハ官印ニ關スルコトヲ要ス
印トハ或物體ノ表面ニ存スル一定ノ形狀ヲ他ノ物體ニ押捺シテ常

ニ一定ノ影蹟ヲ永久的ニ現出セシメ以テ或ル事實ヲ證明スルノ用ニ供スルモノニテ濕用ノモノト乾用ノモノトアリ一私人ノ證明ニ用ユルモノヲ私印ト云ヒ官ノ證明ニ用ユルモノヲ官印ト云フ法律ハ官印ノ重要ナルモノニ關スルト然ラサルトニ依テ刑罰制裁ヲ異ニセシカ爲メ茲ニ官印ヲ分チテ(一)御璽(二)各官署ノ印(三)產物商品等ニ押用スル印(四)書籍什物等ニ押用スル印ノ四種トセリ

一、御璽國璽 御璽トハ天皇ノ御印文ニ天皇御璽トアリ國璽トハ日本帝國ノ印文ニ大日本國璽トアリ其如何ナル場合ニ鈐セラル、モノナルヤハ明治十九年二月勅令第一號公文式第十四條以下ノ規定ニ依リ其一班ヲ知ル可シ

二、各官署ノ印 官署トハ國家爲政ノ機關タル各官府及ヒ其部局ヲ云フ官署ノ印トハ各官府カ國家爲政ノ機關トシテ爲シタル行

爲テ證明スルモノ詳言スレハ何省何院何廳何裁判所ノ印ト云フカ如ク其官署ノ名ノミヲ刻セラレタルモノニシテ其官府ヲ代表スルモノヲ云フ同一ノ適用トシテ判事又ハ檢事某ト云フカ如ク官職ト氏名トヲ刻シタル官吏ノ印モ亦官署ノ印タリ蓋シ官署ヲ組織セル一機關タル官吏ノ行爲ヲ證明スルモノナルカ故ニ理論上亦官署ヲ代表スル印ナリト云ハサル可カラサレハナリ

三、產物商品等ニ押用スル官ノ記號印章 產物商品等ニ押用スルモノトハ產物ノ出所又ハ商品ノ精粗眞贋量目等ヲ證明スル爲メニ押用スル記號印章ニシテ之ニ關スル偽造又ハ使用罪ハ多ク第三百九十二條ニ規定シタル如キ犯罪ト共ニ併發スルモノトス記號印章トアルカ故ニ印章ハ前ニ所謂印ニシテ記號トハ印類ヲ用ヒスシテ筆寫シタルモノヲ指スカ如キモ押用スル記號印章トア

ルニ依テ之ヲ觀レハ畢竟廣キ意味ニ於ケル印ヲ發音シ得ヘキ文字即チ普通ニ所謂文字ヲ現出シ得ヘキモノト發音シ得ヘカラサル文字即チ三角形又ハ十字形ノ如キ符合ヲ現出シ得ヘキモノトニ種別シ前者ヲ印章トシ後者ヲ記號トシタルモノニシラ筆寫ニ依ルモノハ假令發音ス可カラサル符合タリト雖モ茲ニ所謂記號ニ非サルモノトス

四、書籍什物等ニ押用スル官ノ記號印章、書籍什物等ニ押用スル官ノ記號印章トハ物件ハ所屬ヲ明ニスル爲メニ押用スル記號印章ニシテ例ヘハ日本政府圖書、帝國大學圖書ト云フカ如キ圖書印、東京地方裁判所檢事局用ト云フカ如キ檢印等ヲ云フ

〔附言〕明治二十三年十月八日法律第百號ニ依リ官印ニ關スル條項ハ公署ノ印ニ適用セラル、カ故ニ市町村等公署ノ印ニ關ス

ルモノモ(公吏ノ印ハ先ニ官吏ノ印ニ付テ述ヘタルト同シク公署ノ印タリ)右第二乃至第四ノ種別ニ從ヒ適應ノ處分ヲ爲スヘキモノトス

第二ノ要素 偽造又ハ使用シタル所爲アルコトヲ要ス

一 偽造 偽造ノ何タルヤハ已ニ貨幣偽造罪ノ節ニ於テ之ヲ詳說セシテ以テ再ヒ說明セス、但一言注意ス可キハ法文ニハ印即チ先ニ說明シタル如ク或事實ヲ證明スル爲メ他物ニ押捺シテ常ニ一定ノ影蹟ヲ現出セシム可キ物件ヲ偽造シタル者トアリテ印影ヲ偽造シタル者トアラサルカ故ニ夫ノ單ニ官印ノ影蹟ヲ模寫シタルカ如キハ本罪ヲ構成ス可キ所爲ニ非ス然レトモ已ニ官印ト同一ノ影蹟ヲ現出セシム可キ物件即チ印ヲ偽造シタルニ於テハ其之ニ用ヒタル印類ノ材料如何ハ本罪ノ構成ニ影響ヲ有セス

二 使用 貨幣偽造罪及ヒ文書偽造罪ノ各條ニハ行使ナル文字ヲ用ヒ官私印及ヒ印紙界紙郵便切手偽造罪ノ各條ニハ本文使用ナル文字ヲ用ユルニ依テ之ヲ觀レハ是レ性質上前者ハ之ヲ第三者ニ交付又ハ提示スルニ因テ其使用ヲ致シ後者ハ書類其他適當ノ物件ニ影蹟ヲ現出セシメ(印適當ノ事項ヲ記載シ界紙若クハ證書又ハ郵便物等凡テ之ヲ要ス可キ物件ニ貼付スル(印紙又ハ切手)ニ因リテ其使用ヲ了ルカ故ニ彼此用語ヲ異ニシテ之カ區別ヲ明ニシタルモノニシテ茲ニ使用トハ前者ト異リ依テ第三者ヲ錯誤ニ陥ラシムル以前ノ所爲即チ印紙界紙及ヒ切手ヲ其用法ニ從テ用井タルコトノミヲ云フ可キカ如キモ本罪所謂使用テフ文字ニ相當スル佛文第一章案第二百二十八條乃至第二百三十條ノ未文ニ偽造ノ璽印ヲ押捺シタル書類其他ノ物件(usage fraudulens)ヲ惡意

ヲ以テ使用(日本文草案註解ニハ偽造ト譯セリ)シタル者第百九十七條盜用テフ文字ニ相當スル同第二百三十二條ニ'apposition ille galteun usage fraudulens'不正ニ押捺シテ惡意ニテ用ヒタル者等ノ文字アリテ使用ハ押捺以後ノ所爲タルコトヲ明言セルノミナラス本罪ハ貨幣又ハ文書偽造罪ト共ニ信用ヲ害スルノ罪ニシテ信用ヲ害スルノ結果ハ偽造ノ印璽ヲ押捺シ又ハ切手ヲ貼用シタル書類其他ノ物件ヲ使用スルニ非サレハ生スルモノニ非サルニ依テ之ヲ觀レハ茲ニ使用トハ尙ホ行使ト云フカ如ク偽璽偽印ヲ押捺シ又ハ切手ヲ貼用シタルコトノミヲ云フニ非スシテ之ヲ押捺シ又ハ貼用シタル書類其他ノ物件ヲ使用シテ他人ヲ欺クノ用ニ供シタルコトヲ云フモノトス

第二ノ要素 意思アルコトヲ要ス

偽造行使共ニ第三者ヲシテ錯誤ニ陥ラシメ以テ害ヲ生セシムルノ
 意思アルコトヲ要ス詳細ハ文書偽造罪ノ説明ニ就テ之ヲ知ルヘシ
 處分、御璽國璽ヲ偽造シ又ハ其偽璽ヲ使用シタル者ハ無期徒刑ニ各
 官署ノ印ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル者ハ重懲役ニ產物商品等
 ニ押用スル官ノ記號印章ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル者ハ輕懲
 役ニ書類什物等ニ押用スル官ノ記號印章ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用
 シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス別ニ説明ヲ要セス唯
 言ス可キハ本罪其他同一ノ規定ニ依ルモノハ後ニ詳説スルカ如ク貨
 幣偽造罪又ハ私文書偽造罪ト異リ偽造ト使用トハ各一罪ヲ爲スモノ
 ナルカ故ニ各自獨立シテ各共犯アリ時効アリ未遂犯アリト雖トモ一
 人ニテ二者ヲ兼ネ犯シタルトキハ犯罪ノ性質上行使ハソレ自身偽造
 ノ中ニ包含セラル、カ故ニ偽造ノ一罪ノミナリトス

第二項 官印ノ影蹟ヲ盜用スル罪

第九十七條ニ曰ク、御璽國璽官印記號印章ノ影蹟ヲ盜用シタル者

ハ前數條ニ記載シタル偽造ノ刑ニ照シ各一等ヲ減ス

若シ監守者自ラ犯シタル時ハ偽造ノ刑ニ同シト

即チ本罪ヲ構成スル爲メニハ(一)御璽國璽官印記號印章ノ影蹟タルコ

ト(二)盜用ノ所爲アルコト(三)意思アルコトヲ要ス

第一ノ要素 御璽國璽官印記號印章ノ影蹟タルコトヲ要ス

(一)茲ニ官印記號印章トハ第九十五條ニ各官署ノ印、第九十六條
 ニ產物商品又ハ書籍什物等ニ押用スル記號印章トアルヲ節約シタ
 ルモノニシテ官印トハ各官署ノ官印記號印章トハ產物商品又ハ書
 籍什物等ニ押用スル官印ヲ云フ其詳細ハ前項已ニ之ヲ説明セリ(二)
 影蹟トアリテ印類ヲ伴フコトヲ要セサルカ故ニ單ニ押捺シアル印

偽造行使共ニ第三者ヲシテ錯誤ニ陥ラシメ以テ害ヲ生セシムルノ
 意思アルコトヲ要ス詳細ハ文書偽造罪ノ説明ニ就テ之ヲ知ルヘシ
 處分、御璽國璽ヲ偽造シ又ハ其偽璽ヲ使用シタル者ハ無期徒刑ニ各
 官署ノ印ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル者ハ重懲役ニ產物商品等
 ニ押用スル官ノ記號印章ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル者ハ輕懲
 役ニ書類什物等ニ押用スル官ノ記號印章ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用
 シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス別ニ説明ヲ要セス唯一
 言ス可キハ本罪(其他同一ノ規定ニ依ルモノ)ハ後ニ詳説スルカ如ク貨
 幣偽造罪又ハ私文書偽造罪ト異リ偽造ト使用トハ各一罪ヲ爲スモノ
 ナルカ故ニ各自獨立シテ各共犯アリ時効アリ未遂犯アリト雖トモ一
 人ニテ二者ヲ兼ネ犯シタルトキハ犯罪ノ性質上行使ハソレ自身偽造
 ノ中ニ包含セラル、カ故ニ偽造ノ一罪ノミナリトス

第二項 官印ノ影蹟ヲ盜用スル罪

第九十七條ニ曰ク、御璽國璽官印記號印章ノ影蹟ヲ盜用シタル者

ハ前數條ニ記載シタル偽造ノ刑ニ照シ各一等ヲ減ス

若シ監守者自ラ犯シタル時ハ偽造ノ刑ニ同シト

即チ本罪ヲ構成スル爲メニハ(一)御璽國璽官印記號印章ノ影蹟タルコ

ト(二)盜用ノ所爲アルコト(三)意思アルコトヲ要ス

第一ノ要素 御璽國璽官印記號印章ノ影蹟タルコトヲ要ス

(一) 茲ニ官印記號印章トハ第九十五條ニ各官署ノ印、第九十六條
 ニ產物商品又ハ書籍什物等ニ押用スル記號印章トアルヲ節約シタ
 ルモノニシテ官印トハ各官署ノ官印、記號印章トハ產物商品又ハ書
 籍什物等ニ押用スル官印ヲ云フ其詳細ハ前項已ニ之ヲ説明セリ(二)
 影蹟トアリテ印類ヲ伴フコトヲ要セサルカ故ニ單ニ押捺シアル印

影モ亦本罪ノ目的タルヘシ

第二ノ要素 盗用ノ所爲アルコトヲ要ス

本罪ノ規定ニ相當スル佛文草案第三百三十二條ニ「quiconque aura fait une apposition illicite et un usage frauduleux」(不法ニ押捺シ惡意ヲ以テ使用シタル者)トアリテ盗用トハ之ヲ節約シタルノ語ナルカ故ニ盜トハ不法ニ押捺スルノ義用トハ惡意ヲ以テ使用スルノ義ナリ(一)不法ニ押捺スルノ義ナルカ故ニ印類ヲ盜シテ之ヲ押用ス可カラサル書類其他ノ物件ニ押用シ已ニ押用シアル白紙ニ記載ス可カラサル事項ヲ記載シ又ハ已ニ正常ニ押用シアル印影ヲ切り取りテ押用ス可カラサル書類又ハ其他ノ物件ニ貼付スルハ勿論監守者ヲ欺罔シテ不法ニ押捺セシメタルモ亦盜奪ノ所爲タリ(二)用即チ使用ニ付テハ前項説明スル所ニ同シ

法律ニハ盗用トアリテ盜奪ト使用トノ所爲アルヲ要スルカ故ニ盜奪スルモ使用セス使用スルモ盜奪セサレハ本罪ノ完成ヲ妨ク可シ夫ノ或學者カ「第九十四條乃至第九十六條ニ於テハ偽造ト使用ト各一罪ヲ構成スルカ故ニ本罪ノ規定ニ於テモ亦盜ト用トハ各一罪ヲ構成スルモノナリト解釋セス」ハ權衡ヲ失ス「ト云フカ如キハ立法的補充解釋ノミ真正ノ解釋ニ非ス

第三ノ要素 意思アルコトヲ要ス

意思ニ付テハ不法ニ押捺シテ信用ヲ害スル所爲ヲ爲スノ意思アルヲ要ス詳細ハ先キニ説明シタル所ヲ参照スヘシ

處分 處分ニ付テハ前數條即チ第九十四條乃至第九十六條ノ區別ニ從フト同時ニ監守ノ職責アル者ト否トヲ分チ監守ノ職責ナキ者ノ所爲ニ係ルトキハ偽造ノ刑ヨリ一等ヲ減シ監守ノ職責アル者ノ所

第一編 公益ニ關スル重罪輕罪 第四章 信用ヲ害スル罪 第二節 官印偽造罪 四五七

爲ニ係ルトキハ偽造ノ刑ヲ科ス別ニ説明ス可キモノナシ唯第百七十
六條ニ於テハ看守者其懈怠ニ因リ封印ヲ破棄シ又ハ其物件ヲ盜取毀
壞スル犯人アルコトヲ覺ラサルトキ之ヲ一圓以上二十圓以下ノ罰金
ニ處スルノ規定アルニモ拘ハラス本條第百九十七條之ニ類似スルノ
規定ナシ余ハ其何ノ故タルヲ知ラス

第二款 各種ノ印紙界紙及ヒ郵便切手ノ偽

造ニ關スル罪

第一項 各種ノ印紙界紙及ヒ郵便切手ヲ

偽造變造又ハ使用スル罪

第百九十八條ニ曰ク官ヨリ發行スル各種ノ印紙界紙及ヒ郵便切手
ヲ偽造變造シ又ハ其情ヲ知テ之ヲ使用シタル者ハ一年以上五年
以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

即チ本罪ヲ構成スル爲メニハ(一)所爲ノ目的物ハ各種ノ印紙界紙又
ハ郵便切手ニ關スルコト(二)偽造變造又ハ使用ノ所爲アルコト(三)意思
アルコトヲ要ス

第一ノ要素 所爲ノ目的物ハ各種ノ印紙界紙又ハ郵便切手ニ關スル
コトヲ要ス

(一)各種ノ印紙トハ證券、煙草、賣藥、訴訟、登記印紙等ヲ云フ(二)各種ノ界
紙、管テ證券界紙、訴訟用野紙、訴狀等ニ用ユル野紙、裁判用野紙、裁判言
渡書ニ用ユル野紙(ナルモノアリシモ今ハ廢セラレテ無シ殘ル所ハ
手形用紙ノ類ノミナラン)(三)郵便切手、説明ヲ要セス(四)切手ト同性質
ナル封皮、葉書及ヒ帶紙ノ偽造變造使用ハ郵便條例第二百三十三條
ノ規定スル所ニシテ本罪ノ處分ト相同シ

第二ノ要素 偽造變造又ハ使用シタル所爲アルコトヲ要ス

第一編 公益ニ關スル重罪輕罪 第四章 信用ヲ害スル罪 第二節 官印偽造罪 四五九

- (一) 偽造變造 印紙界紙切手皆紙幣ト其體裁ヲ同フス依テ之カ偽造變造ノ所爲ハ紙幣ニ關スルモノト同シ説明ヲ須ヒス先ニ説明シタル所ヲ參照ス可シ
- (二) 使用 曩キニ官印偽造使用ニ付テ説明シタル如ク使用トハ之ヲ尋常一般ノ意味ニ解スルトキハ之ヲ使用シテ證書ヲ作製シ(證券印紙界紙)物品ヲ販賣シ(煙草又ハ賣藥印紙)訴狀又ハ請求書ヲ差出シ(訴訟又ハ登記印紙)若クハ郵便物ヲ發送——相當官吏ニ交付シ又ハ其郵便函ニ投入スルコト(郵便印紙)——スル等要スルニ物ノ用法ニ從テ之ヲ用ユルノ義ニシテ行使ノ如ク廣ク信用ヲ害スルノ用ニ供スル行爲ヲ意味セス然レトモ此等ノ印紙界紙ハ右ニ所謂使用ノ外管ニ廣ク販賣ノ目的トナルノミナラス往々紙幣ト同シク貨幣ニ代用セラル、コトアリテ情ニ於テ不問ニ付ス可カ

ラサルト本條ニ相當スル佛文第一草案第二百三十一條ニ「*Mont mis en circulation lesdits timbres contrefaits ou en auront fait un usage frauduleux*」トアリテ所謂使用ノ外更ニ流通ニ置クモノヲモ豫見スルトニ依テ之ヲ觀レハ茲ニ使用トハ普通所謂使用ノ外之ヲ流通セシムルノ所爲ヲモ包含セシメタルノ語ニシテ夫ノ情ヲ知テ之ヲ販賣シ又ハ貨幣ニ代用スルノ所爲ヲ爲シタル者モ亦本罪ヲ犯シタルモノト解スルヲ可トセンカ

第三ノ要素 意思アルコトヲ要ス
説明ヲ省ク

處分 一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス、亦説明ヲ須ヒス
終ニ蒞テ一言ス(一)本條規定スル所ノ罪ノ目的物ハ皆徵稅ノ目的ヲ以

第一編 公益ニ關スル重罪 第四章 信用ヲ害スル罪 第二節 官印偽造罪 四六一

テ制定セラレタルモノニ關スルカ故ニ性質ニ於テハ大ニ異ル所アル
モ明治二十年七月二十三日勅令第三十六號流入紙製造取締規則第二
條ニ紙幣兌換銀行券ハ公債證書大藏省證券其他政府發行ノ證書類似
ノ文字畫紋又ハ凸ニ文字畫紋ヲ流入シタル紙ヲ人民ニ於テ製造スル
コトヲ禁ス違フ者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ストノ規定アリ些
カ參看ニ供ス(二)貨幣偽造罪ニ付テハ輸入取受ヲ罰スルノ規定アルモ
本罪ニ付テハ之ヲ缺如ス例ナキニ因ル可シト雖モ些カ周到ヲ欠カン

第二項 各種ノ印紙及ヒ郵便切手ヲ再ヒ

貼用スル罪

第九十九條ニ曰ク、已ニ貼用シタル各種ノ印紙及ヒ郵便切手ヲ再
ヒ貼用シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處スト
本罪ヲ構成スル爲メニハ(一)已ニ貼用シタル各種ノ印紙及ヒ郵便切手

タルコト(二)再ヒ貼用シタル所爲アルコト(三)意思アルコトヲ要ス

第一ノ要素 已ニ貼用シタル各種ノ印紙及ヒ郵便切手タルコトヲ要
ス

印紙切手ハ説明ヲ須ヒス貼用ハ猶ホ使用ノ如シ已ニ貼用シタルト
ハ已ニ一タヒ證書訴狀又ハ郵便物等凡テ之ヲ要ス可キモノニ貼付
シテ印紙切手タルノ用ヲ盡シタルコトヲ云フ故ニ(一)已ニ一タヒ其
用ヲ盡サンカ假令消印ナキモ已ニ貼用シタルモノタルヲ失ハス蓋
シ消印ハ其用ヲ盡シタルノ證ニ過キサレハナリ(二)反對ニ未タ一度
モ其用ヲ盡サ、ランカ假令一度或物件(貼付ス可カラサルモノハ勿
論貼用ス可キ物ト雖モ)ニ貼付シ又ハ消印アルモ已ニ貼用シタルモ
ト云フヲ得ス

第二ノ要素 再ヒ貼用シタル所爲アルコトヲ要ス

前段説明シタル所ニ依リ十分ナリ然レトモ唯一言ス可キハ(一)再ヒ貼用スルトハ同一ノ人カ再度貼用シタルコトヲ云フニ非スシテ二回目ノ貼用ヲ爲スト云フノ義ナルカ故ニ先ニ貼用シタル人ト再ヒ貼用シタル人ト同一ナルト否トハ本罪ノ構成ニ何等ノ關係ヲ有セス(二)再ヒ貼用スルトハ再度同一ノ用ヲ盡サシムルコトヲ云フノ義ナルカ故ニ夫ノ例ハ已ニ其用ヲ盡シタル物件ノ上ニ貼用セラレタル印紙中偶々消印ナキモノアルヲ發見シテ之ヲ竊取シ空地ヲ填充スルニ古印紙ヲ以テシタルカ如キハ單ニ罪蹟ヲ掩ハシカ爲メニ印紙ノ貼付セラル可キ場所ニ古印紙ヲ貼用シタリト云フノミニシテ印紙自身ノ用ヲ再ヒ充タシタルモノニ非サルカ故ニ茲ニ所謂再貼用ニ非ス

第三ノ要素 意思アルコトヲ要ス

已ニ貼用シタルモノタルノ情ヲ知リナカラ再ヒ其用ヲ盡サシムルノ意思アルヲ要ス説明セシテ明ナリ
 處分 二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス罰金ニ處スル所以ハ本條ノ所爲タル多クハ納税ノ義務ヲ免レントノ意ニ出ルモノニシテ其性質第百九十三條ノ罪ト相類似スレハナリ
 終ニ臨ミ一言ス印紙再貼用ハ必ス印紙ノ不足ヲ生スルモノニシテ再貼用罪ノ規定ハソレ自身印紙不足ノ結果ヲ包含スルカ故ニ印紙再貼用ノ所爲ハ本條ト證券印稅規則第十九條トノ俱發ヲ以テ論スルコトヲ得ス

附款 本節ノ各罪ニ共通ノ規定

法律ハ本節ノ各犯罪ニ共通ノ規定トシテ

一 第二百條此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者

第一編 公益ニ關スル重罪輕罪 第四章 信用ヲ害スル罪 第二節 官印偽造罪 四六五

ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

二 第二百一條、此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

トアリ然レトモ此二條ハ恐ラク第百九十八條ト第百九十九條トノ間ニ置カルヘキモノニシテ之ヲ本節ノ各條ニ共通セシメタルハ蓋シ錯誤ニ出テタルモノナラン如何トナレハ第百九十九條ノ罪ノ如キハ罪質輕微、加フルニ罰金刑ニ監視ヲ付スヘキ理由ナクナリ(刑法第三十四條、第四十條、明治十五年十月二十八日司法省內訓參照)

第三節 文書ヲ偽造スル罪

先キニモ説明シタル如ク我刑法ハ編纂ノ體裁極メテ粗笨、官印ヲ偽造スル罪ト題スル節目ノ中ニ紙幣又ハ公債證書等ニ準スヘキ印紙、界紙、

郵便切手等ノ偽造變造ニ關スル罪ヲ混入シ既ニ官印偽造ト官文書ノ偽造變造トハ各其節目ヲ異ニスルニモ拘ハラズ私印ノ偽造ト私文書ノ偽造變造トハ之ヲ同一節目ノ中ニ併セ規定シ既ニ官文書ノ偽造變造ト私文書ノ偽造變造トハ各節目ヲ異ニシテ之ヲ規定スルニモ拘ハラズ通常官文書ノ一種タル免狀又ハ鑑札ノ偽造變造ト通常私文書ノ一種タル疾病證書ノ偽造變造トハ官私文書ノ偽造變造ニ關スル節目ノ外ニ於テ別ニ一節ヲ設クテ之ヲ規定セリ若シ論理ヲ正シ秩序的ニ編纂セハ第二節以下ニ規定シタルモノ、中例ヘハ印紙、界紙、郵便切手等ノ偽造變造ニ關スル行爲ハ貨幣偽造罪ト併セ若クハ對立シテ規定シ以テ印章ト文書トハ之ヲ分ツト同時ニ官私ヲ併括シテ規定スルヲ可トス隨テ説明ノ順序モ亦此理論的排列ニ依ルヘキ筈ナレトモ著シク法文ト異リタル順序ニ依ルトキハ却テ講究ノ便ヲ失ハシムルノ恐

ナキニアラサルカ故ニ可成的明文ノ順序ニ依ルト同時ニ些カ説明ノ便ヲ計リ茲ニ余ハ本節ノ如キ表題ヲ設ク其下ニ於テ法文第三節乃至第五節ノ規定ヲ説明セント欲ス

本罪ニ付テモ亦例ニ依リ先ツ文書ノ偽造變造ニ關スル一般ノ成立要素ヲ説明シ次ニ其各體様及ヒ處分ヲ説明スヘシ

第一款 文書偽造罪ノ一般ノ成立要素

文書ノ偽造變造ニ關スル一般ノ成立要素ヲ知ラシカ爲メニハ先ツ文書偽造變造罪ノ何者タルヤヲ知得セサルヘカラス故ニ余ハ先ツ文書偽造變造罪ノ定義ヲ示シ漸次之ヲ分拆シテ其成立要素ヲ説明セント欲ス

文書偽造罪ノ定義——我國所謂文書偽造罪ノ何者タルヤニ付テハ從來學說紛々歸一スル所ヲ知ラスト雖モ惟フニ或ハ單ニ其習得シタル

或外國ノ法律ニ依リ專ラ理想ニ基キテ之ヲ定義セントシタルヨリ我國ノ法文ト一致セサルニ至リタルカ或ハ能ク沿革等ニ基キ我國所謂文書偽造罪ノ何モノタルヤヲ知ルモ其何カ故ニ然ラサルヘカラサルヤヲ明ニセサルヨリ遂ニ以テ其論旨ヲ貫徹スルコト能ハサリシカニ外ナラサルモノトス乃チ余ハ其歸一セサルヘカラサル所ヲ明ニセムカ爲メ綱ヲ立テ目ヲ逐テ之ヲ説明セント欲ス

熟ラ案スルニ文書ナルモノハ言語若クハ動作ト同シク或事實又ハ思想ヲ他ニ發表スルノ機關トス是ニ於テヤ(甲)事實又ハ思想ヲ表示スル所ノ機關タニ正確ナルトキハ其之ニ依テ表示セラル、所ノ事實又ハ思想モ亦自ラ正實ナルヘント云フノ思想ヨリシテ專ラ機關ノ真正ナランコトヲ希ヒ機關即チ形体ノ真正ヲ保護セントノ思想即チ形式ヨリ觀察シタル思想ト(乙)文書ハ單ニ或事實又ハ思想ヲ表示スルノ機關

ニ過キサルモノニシテ文書ノ真正ヲ希フハ畢竟事實又ハ思想ノ真正
 ナラシコトヲ希フカ爲メニ外ナラサルカ故ニ文書ニ依テ表示セラル
 、所ノ事實又ハ思想タニ真正ナルトキハ其機關タル文書其モノ、眞
 否ハ措テ問フ所ニ非ストノ思想即チ實質ヨリ觀察シタル思想トノ二
 ヲ生ス前者ノ思想ニ依テ立法スル者ハ文書ヲ以テ單ニ事實又ハ思想
 ヲ表示スル機關タルニ止マラス進テ動カス可カラサル一ノ形式ト見
 做シ之ヲ僞ハルノ罪ヲ以テ文書ト云フ形式ヲ詐ハルハ罪トシ後者ノ
 思想ニ依テ立法スル者ハ文書ヲ以テ言語又ハ動作ノ如ク事實又ハ思
 想ヲ表示スルノ機關又ハ手段ニ過キストシ之ヲ僞ハルノ罪ヲ以テ文
 書ニ憑リ眞實ヲ詐ハルノ罪トス
 尙ホ了解ニ便ナラシメンカ爲メ有ニ述ヘタル二個ノ思想ニ基ク文書
 僞造罪ノ定義ニ關スル立法上ノ二大主義ヲ摘示セン

甲 文書僞造罪トハ或ル事實又ハ思想ヲ表示スル機關タル文書其モ
 ノ(即チ形體)ヲ僞ハルノ所爲ニシテ之ヲ構成スル爲メニハ(一)他人ヲ
 欺キ以テ真正ノ文書形式ノ真正ナル文書ナリト誤信セシムルノ意
 思ト(二)他人ヲ欺クニ足ルヘキ僞文書ヲ作製スルノ所爲トノ二要素
 ヲ具備スルヲ以テ十分トス

乙 文書僞造罪トハ文書ニ據テ文書ノ證明セムト欲スル所ノ事實又
 ハ思想ノ眞實(即チ實質)ヲ僞ハルノ所爲ニシテ之ヲ構成スル爲メニ
 ハ(一)他人ヲ欺キ以テ文書カ表示スル所ノ事實ヲ真正ナリト誤信セ
 シムルノ意思ト(二)虛僞ノ事實ヲ記載シタル文書ヲ作製スルノ所爲
 トノ二要素ヲ具備スルヲ以テ十分トス

(甲)ハ獨乙刑法(支那刑法及我カ徳川百个條ノ如キモ亦或ハ然ラン?)其
 他獨乙主義ノ法律ヲ採用スル諸國ノ刑法ニ於テ認メラル、所ノモノ

ニシテ(乙)ハ羅馬法、佛國古法、佛國刑法、其他佛國主義ノ法律ヲ採用スル諸國ノ刑法ニ於テ認メラル、所ノモノタリ、而シテ二ノ主義ハ其何レヲ採用スルモ單ニ之カ純理ノミテ遂フテ立法スルトキハ如何ナル場合ニ於テモ其應用ニ困難ヲ感スルコトナカルヘシト雖モ事實上ニ於テハ實ニ忍フヘカラサルノ結果ヲ生スルコトアリ蓋シ純理一片ニヨリテ主義ヲ貫徹スルトキハ例ヘハ一片ノ端書又ハ職文書ノ如キ之ヲ作製スル者ニ於テ特ニ他人ヲ害セントノ惡意ナキハ勿論何等ノ實害ヲ生スルコトナキモ尙ホ法ハ之ヲ罰セサルヘカラサルノ結果ヲ生スレハナリ是ニ於テヤ何レノ主義ヲ採用スル立法ニ於テモ之ニ多少ノ制限ヲ置キ以テ其主義ヲ和ケサルモノナシ即チ(甲)ノ主義ヲ採用シテ立法スルモノハ偽造セラル、文書ソノモノカ多少重要ナルモハ(例)ハ權利義務ノ消長ニ關スルト云フカ如キタルコトヲ要シ縱令文書其

モノ、形式ヲ偽ハルモ一片ノ端書若クハ職文書(例)ハ娼妓ノ付ク文花見ノ誘引文)ノ如キ權利義務ノ消長ニ格別ノ關係ヲ有セサル性質ノ文書ニ係ルモノハソレ自身實害ヲ生セサルモノト推定シテ之ヲ除外シ(乙)ノ主義ヲ採用シテ立法スルモノハ之ニ依テ事實ノ真正ヲ偽ハリ以テ不正ニ他ヲ害スルノ意思アルコトヲ要シ以テ假令文書ニ依テ事實ノ眞實ヲ偽ハルモ一時ノ戲謔ニ出ツルモノ又ハ不在者ノ利益ヲ保全セシカ爲メ其委任狀ヲ偽造シテ預金ヲ取立テ之ヲ不在者ニ交付シ同時ニ不在者ヨリ預リ主ニ對シ代人ニ依テ預金ヲ受取タルコトヲ通知セシメタルカ如キ毫モ他ヲ害スルノ意思ナキモノハ之ヲ除外セリ尙ホ了解ニ便ナラシメンカ爲メ文書偽造罪ニ關シ前述二主義ニ基キ諸國ノ刑法カ規定スル實際ノ立法例ヲ摘示セン

甲ノ二 文書偽造罪トハ法律關係上多少重要ナル文書ソノモノ(形體)

ヲ偽ルノ所爲ナリ隨テ之ヲ構成スル爲メニハ單ニ(一)文書ノ形式ヲ
偽ハルノ所爲ト(二)之ヲ以テ他人ヲ欺クノ意思アルノミヲ以テ足レ
リトセス進ンテ(三)其文書ハ法律關係上多少重要ナル文書換言スレ
ハ性質上實害ヲ生セシムルニ足ルヘキ(若シ偽造變造ナリセハ)文書
ニ係ルコトヲ要ス

乙ノ二 文書偽造罪トハ文書ニ憑テ文書カ證明セント欲スル所ノ事
實ノ眞正ヲ偽ハリ以テ他人ヲ害スルノ所爲(若クハ害ヲ生セシムル
ノ所爲)ナリ隨テ之ヲ構成スル爲メニハ單ニ(一)文書ニ憑テ事實ノ眞
正ヲ偽ハルノ所爲ト(二)他人ヲ欺クノ意思アルノミヲ以テ足レリト
セス進ンテ(三)他人ニ害ヲ生シ得ヘキコト(即チ實害ヲ生スルノ危険
アルコト)隨テ他人ヲ害スルノ意思アルコトヲ要ス
(注意) 前者ハ形式ノ上ヨリ主義ヲ立テタルカ故ニ其制限モ亦之ヲ

重要ナル文書ト云フカ如ク形式ノ上ヨリ施シタルモノニシテ後
者ハ實質ノ上ヨリ主義ヲ立テタルカ故ニ其制限モ亦之ヲ實害ヲ
生スル若クハ他人ヲ害スルコト隨テ他人ヲ害スルノ意思ト云フ
カ如ク實質ノ上ヨリ施シタルモノトス

前述シタルカ如ク二個ノ主義何レモ之ヲ單純ニ敷衍シテ何等ノ制限
ヲモ設クルコトナクハ縱令事實上ニ於テハ忍ブ可カラサル結果ヲ
生スルコトアルモ其適用ニ於テハ何等ノ困難ヲ見ルコトナカルヘシ
換言スレハ文書偽造罪ホト規定ノ簡且明ナルモノナカルヘシ蓋シ甲
主義ニ於テハ文書ノ形式カ眞實ナラサレハ直ニ罪ヲ構成シ乙主義ニ
於テハ文書ニ表示セラレタル事實カ眞實ナラサレハ直ニ罪ヲ構成ス
ルノ結果裁判官ハ單ニ文書又ハ事實カ眞正ナルヤ否ト云フ簡單ナル
問題ヲ審査スルノ外他ニ調査ヲ要スヘキノ點ナクハナリ然ルニ右

ノ如ク二個ノ主義何レモ實際ノ事情ヲ斟酌シ多少ノ制限ヲ設ケタルノ結果文書偽造罪ハ刑法ノ規定中最モ難解ノ規定トナルニ至レリ蓋シ前者ノ主義ニ於テ凡ソ尙モ文書ト云フ以上ハソレ自身多少ノ必要ナキモノアラサルニモ拘ハラズ法律ハ尙ホ進ンテ法律關係上多少重要ナルモノニ係ルコトヲ要ステフ制限ヲ設クルノ結果普通ノ必要ト法律關係上ノ必要トハ之カ境界ヲ求メント欲スルモ遂ニ程度ノ區別ニ歸着シテ拿捕スヘカラサルニ至ルヘク後者ノ主義ニ於テモ亦凡ソ眞實ヲ僞ハルノ事タル(縱令一時ノ誠誠ニモセヨ)ソレ自身多少ノ害惡(無形の若クハ精神的)ヲ生スヘキモノタルニモ拘ハラズ法律ハ尙ホ進テ害實害即チ感情的害惡ニ止マラス吾人ノ利益又ハ幸福ヲ亡失セシムヘキ害ヲ生スヘキコトヲ要ステフ制限ヲ設クルノ結果感情即チ精神的害惡ト實質的害惡トノ標界ハ之ヲ求メント欲スルモ遂ニ程度ノ

先
モ
亦
ソ
レ
イ
ハ
ス

區別ニ歸着シテ捕捉ス可カラサルニ至ル(感情的害惡ト實質的害惡トハ後ニモ述フルカ如ク觀察ノ如何ニヨリテ全ク相混同スルノ觀アリ)ヘクレハナリ夫レ然リ故ニ現今諸國ノ規定ニ於テ文書偽造罪ノ解釋ニ困難ナルハ之ヲ解スル者ノ研究十分ナラサルカ故ニ非シテ其規定自体ノ困難ナルカ故換言スレハ其規定カ何レモ論理ヲ一貫セサルカ故ナリ隨テ之ヲ解釋スルモノハ其規定ノ困難ナルコト否ナ不明ナルコト及ヒ其不明ナル所以ヲ明ニセハ十分ナリトス夫ノ強テ明瞭ナラノコトヲ希フハ寧ロ不識ノ譏ヲ免レサルモノタリ後段余カ説明スル所此ノ如キモノアリ亦已ムテ得サルニ出ツ請フ幸ニ各ムル勿レ語ニ曰ク知ラサルヲ識ラストセヨ是レ知レルナリト

以上我輩ハ文書偽造ノ本質ヲ明ニシ之ニ應ス可キ二個ノ主義及ヒ其制限等ヲ説明セリ是ヨリ立法上何レノ主義ヲ以テ可トスヘキヤ及ヒ

解釋上我刑法ハ何レノ主義ヲ採用シタルヤヲ説明セント欲ス

第一 立法上二個ノ主義ハ何レヲ以テ宜シキヲ得タルモノトス可キヤ? 第二ノ主義ハ文書ハ眞實ヲ表示スルノ具ナリト云フ文書ノ本質ニ適スルカ故ニ純理ノ上ニ於テハ素ヨリ正當ノモノナル可シト雖モシヨッペンハウエルノ所謂目的ハ手段ヲ恕ストノ格言ハ屢々弊害アルカ如ク若シ夫レ實質タニ眞正ナルトキハ形式ノ眞偽ハ措テ之ヲ問ハストスルトキハ人カ之ニ憑テ確信ヲ惹起ス可キ唯一ノ材料タル文書ノ形式ヲ攪亂シテ玉石相錯ハルノ結果其目的タル事實ノ眞實モ亦十分ナル保護ヲ受クルコト能ハサルニ至ルヘシ之ニ反シ第一ノ主義ハ文書ノ本質ニ適セサルカ故ニ素ヨリソレ自身正當ノモノナリト云フコトヲ得スト雖モ涙ヲ揮テ馬謖ヲ斬ルノ筆法ハ軍規ヲ正シ隨テ其目的タル軍隊ヲ強固ナラシムルノ利アルト一般

文書ノ形式ヲモ尙ホ之ヲ苟モセサルノ結果其目的タル事實ノ眞實モ亦能ク完全ナル保護ヲ受クルコトヲ得ヘキヲ以テ立法上ノ主義トシテハ第一ノ主義ヲ採用スルヲ以テ其宜シキヲ得タルモノト確信ス

第二 然ラハ解釋上我刑法ハ二個ノ主義何レヲ採用シタルヤ? (一) 我刑法ハ佛國刑法ヲ研究シタル幕氏ノ立案ニ成リタルモノニシテ現ニ明治十年司法省ヨリ元老院ニ提出セラレタル氏ノ佛文章案第二百三十七條以下即チ確定法文第二百二條以下文書偽造罪ノ各條ニ相當スル法文中ニハ何レニ於テモ Usage Fraudulent 惡意又ハ詐欺ノ使用ナル文字アルト(二)當時ニ在テハ裁判所ノ解釋權ヲ羈束スルノカチ有セシ明治十六年四月三十日司法省内訓大審院以下各裁判所へ達シタルモノニ、文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使スルノ罪ヲ

構成スルニハ必ス眞實ヲ變換スルコト他人ニ害ヲ加フルノ意思及
 害ヲ生スルヲ得ヘキコトヲ要ス故ニ之ヲ偽造シ又ハ増減變換シ
 テ行使スルモ人ニ害ヲ加フルノ意思ナク若クハ害ヲ生スルコトヲ
 得ヘカラサル事件ニ係ルトキハ此等ノ罪ヲ以テ處分スルノ限リニ
 非ラス因テ裁判官ニ於テハ各事件ニ就キ此條件ノ有無ヲ審究シ相
 當ノ裁判ヲ與フヘシ右ハ豫テ心得モ之アルヘク候ヘ共爲念及内訓
 候也トアルト(三)明文第二百五條ニモ官吏其管掌ニ係ル文書ヲ偽造
 シトアリテ作製權アル官吏カ虛偽ノ事實ヲ記載シタル文書ヲ作製
 スルコトモ尙ホ之ヲ稱シテ偽造ト云フト同時ニ第二百九條第二項
 ニモ亦其手形證書ニ詐僞ハ裏書ヲ爲シテ行使シタル者亦同シトア
 リテ詐僞ノ裏書即チ事實ヲ詐ハリタル裏書ヲ爲スノ行爲モ亦偽造
 ノ一種タルコトヲ明ニセルトニ依テ之ヲ觀レハ我刑法ハ文書ヲ以

テ眞實ヲ僞ハルコトヲ以テ文書偽造罪トスルカ故ニ第二ノ主義ヲ
 採用シタルモノニシテ之ヲ構成スル爲メニハ佛國刑法ノ如ク害ヲ
 生シ得ヘキコト及ヒ害ヲ生セシムルハ意思アルコトヲ要スルヤ疑
 ヲ容レサルナリ

右論述シタル所ニヨリ我刑法所謂文書偽造罪ナルモノハ第二ノ主義
 ニ制限ヲ設ケタル佛國刑法ト同シク左ノ如ク定義ス可キモノトス曰

文書偽造罪トハ文書ニ憑テ文書カ證明セント欲スル所ノ事實ノ眞
 實ヲ僞ハリ以テ害ヲ生セシムルノ所爲ナリ

文書偽造罪ノ一般ノ成立要素——右說明シタル所ニ因リテ本罪ハ下
 ノ各要素ヲ以テ成立スルモノトス(一)文書ニ憑ルコト即チ文書ヲ作製
 シ又ハ増減變換シテ之ニ憑ルコト(二)事實ノ眞實ヲ僞ハルコト(三)文書

カ證明セント欲スル所ノ事實ニ關スルコト(四)害ヲ生シ得ヘキコト(五)害ヲ生セシムルノ意思アルコト是ナリ

第一ノ要素 文書ニ憑ルコト即チ文書ヲ作製シ又ハ増減變換シテ之ニ憑ルコトヲ要ス

是レ本罪ノ印章偽造罪又ハ偽證罪等ト區別セラル、要點タリ而シテ假令文書ニ憑ルモノト雖モ貨幣ノ如キ印章ノ如キ商標ノ如キ特別ノ明文アルモノハ本罪ノ範圍外トス

法律ハ本罪構成ノ必要條件トシテ文書ヲ作製シ又ハ増減變換シタルコトヲ要スルカ故ニ茲ニ先ツ文書ノ何者タルヤヲ知得スルコトヲ要ス

文書ハ文字ヲ以テ記載シタル諸般ノ記錄(Document)ニシテ或ル事實又ハ思想ヲ表示スルモノヲ云フ而シテ文字ハ之ヲ表音的の文字(即チ

イロハ又ハ一二三ト云フカ如ク發音ヲ代表スル文字ニシテ發音ノ媒介ニヨリ間接ニ或ル事實又ハ思想ヲ描出スルモノト表音的の又ハ形象的の文字(即チ⊙、△等ノ如ク直接ニ或ル事物ヲ代表スルモノニシテ常ニ其之ニヨリテ代表セラルヘキ事物ノ形態ヲ描出スルモノトノ二トスルコトヲ得茲ニ所謂文書トハ表音的の文字ヲ以テ記載シタルモノ、ミヲ云フヤ將タ亦形象的の文字ヲ以テ記載シタルモノヲモ尙ホ之ヲ包含スルヤ法律カ他ノ條項ニ於テ文書ノ外別ニ圖畫ヲルモノアルコトヲ認ムルニ依テ之ヲ觀レハ前者ノモノ、ミニ限ル可キカ如キモ(一)本罪ハ或ル事實又ハ思想ヲ證明スヘキ記錄即チ書證ヲ僞ハルノ所爲ヲ罰シタルモノニシテ(二)表音的の文字ヲ以テ記載シタルモノト雖トモ例ヘハ詩歌俳諧等ヲ記載シタルモノ、如キ單ニ其書態又ハ風韻等ヲ抽出スルコトヲ主トシタルモノハ之ヲ記錄

ト云フコトヲ得サルト同時ニ假令形象の文字ヲ以テ記載シタルモノト雖モ例ヘハ山林田野等ノ地理ヲ明ニスルカ爲メニ記載セラレタル繪圖面ノ如キハ之ヲ記録ト云ハサル可カラサルトニ因テ之ヲ觀レハ茲ニ所謂文書トハ他ノ場合第四百四十一條第二項所謂文書圖畫又ハ第三百五十八條所謂書類畫圖ト異リ表音の文字ヲ以テ記載セラレタルモノト將タ形象の文字ヲ以テ記載セラレタルモノトヲ問ハス專ラ或ル事實又ハ思想ヲ表示スルカ爲メニ記載セラレタルモノ即チ書證ト爲リ得ヘキモノヲ總稱スルモノトス然ラハ書證ト爲リ得ヘキモノハ舉クテ本罪ノ目的物タルコトヲ得ヘキヤト云フニ此點ニ付テハ更ニ主觀的觀察ヲ以テ之ヲ區別セサル可カラス詳言スレハ例ヘハ秀吉ノ墨付那翁ノ書翰ト云フカ如キ元來或ル事實又ハ思想ヲ表示スルカ爲メニ作製セラレタルモノ隨テ書證タル可

キモノタリト雖モ之ヲ偽造スル者ノ意思又ハ之ヲ所持スル者ノ意思ニ因リ一ノ古物又ハ美術品タルニ過キサルコトアルカ故ニ客觀的書證トナル可キモノニ對スル行爲カ文書偽造罪又ハ毀棄罪ヲ構成スルヤ將タ無罪タルヤ又ハ他罪タルヤハ偏ニ犯人ノ意思若クハ所持者ノ意思ヨリ主觀的ニ觀察シテ之ヲ決セサル可カラス而シテ偽造罪ハ之ヲ提示セラル、モノカ證據ヲ誤マラル、ニ因テ害ヲ生シ毀棄罪ハ之ヲ提出スルノ利益ヲ有スル者即チ所持スル者カ證據ヲ亡失スルニ因テ害ヲ生スルカ故ニ(一)偽造罪ニ付テハ犯人ノ意思ヨリ觀察シ若シ書證ヲ偽ハラシカ爲メニ偽造行使スルトキハ本罪ヲ構成シ古物又ハ美術的觀念ヲ以テ偽造行使スルトキハ本罪ヲ構成セス(二)毀棄罪ニ付テハ(犯人ノ意思ヲ要スヘキハ勿論ナリト雖モ)證據ノ所持者ヨリ觀察シ證據トシテ所持スルトキハ文書毀棄罪ヲ

構成シ美術又ハ古物の觀念ヲ以テ所持スルトキハ器物毀棄罪ヲ構成ス然レトモ法律ハ單ニ文書ヲ作製シ又ハ之ヲ増減變換スルコトヲ要スルノミニシテ其文書ヲ記載スルノ方法又ハ記載セラレタル物ノ如何ヲ制限セサルカ故ニ手ヲ以テ筆寫スルト近來發明セラレタル電信機ノ如ク器械自身ヲ以テ文字ヲ寫出スルモノニ依ルト紙織物、木乃至金石ノ上ニ描出スルトニ論ナク本罪ヲ構成ス、而シテ電信ニ依ル場合ニ付テハ其適用多少複雑ナルモノアルカ故ニ注意ノ爲メ一言ヲ附加ス可シ、抑モ電信ニ依ル文書ノ偽造變造ニ付テハ先ツ二個ノ場合ヲ想像スルコトヲ得ヘシ即チ(一)電信技手ニ依リテ犯サル、場合(二)技手以外ノ者ニ依リテ犯サル、場合是レナリ而シテ二個ノ場合亦各二個ノ場合ヲ想像スルコトヲ得即チ電信技手ニ依テ犯サル、場合ニ付テハ發信局ニ於テ技手カ依頼セラレサルニ依

頼セラレタリトシ或ハ依頼セラレタル電信文ヲ増減變換シテ打電スルコトテリ受信局ニ於テ技手カ受取ラサル電報ヲ受取リタリトシ或ハ受取リタル電信文ヲ増減變換シテ配達用紙ニ記載シ以テ之ヲ受信人ニ送達スルコトアリ、又技手以外ノ者ニ依テ犯サレタル場合ニ付テハ技手以外ノ者カ始メヨリ頼信紙ニ詐僞ノ電信文ヲ認メ(有形又ハ無形ノ偽造ニヨリ)又ハ頼信紙ニ記載シタル他人ノ電信文ヲ増減變換シテ發信局ニ依頼シ依テ電報ヲ發セシムルコトアリ或ハ技手以外ノ者カ送達ヲ受ケサルニ之ヲ受ケタリト稱シテ配達用紙ニ虛僞ノ電文ヲ記載シ或ハ送達ヲ受ケタル電信文ヲ増減變換シテ受信人其他ノ者ニ提示スルコトアリ此等ノ設例ニ於テ(一)如何ナル所爲ヲ以テ文書ノ偽造又ハ變造トシ(二)如何ナル所爲ヲ以テ偽造變造文書ノ行使トシ(三)官私文書ノ區別ハ何ニ依リテ之ヲ分ツヤノ

問題ヲ生ス

- (一) 如何ナル所爲ヲ以テ文書ノ偽造又ハ變造トス可キヤ所爲カ電信文(配達用紙ニ記載セラレ又ハセラル可キ)其モノ、上ニ行ハル、トキハ其電信文ニ偽造又ハ變造行爲ノ行ハレタル時ニ於テ偽造ノ行爲アリトシ行爲カ賴信紙ノ上ニ行ハレタルトキハ賴信紙ヲ偽造又ハ變造シタルトキヲ以テ偽造又ハ變造ノ行爲アリトス(之ニヨリテ生シタル電信文ソノモノハ賴信紙偽造ノ結果タリ)
- (二) 如何ナル所爲ヲ以テ偽造又ハ變造文書ノ行爲トス可キヤ電信文其モノニ依ル場合ハ受信局ニ於テ電信用紙ニ記載セラレタル文書カ配達セラレントスルトキヲ以テ行使ノ着手トシ受信者ニ配達セラレタルトキヲ以テ行使ノ既遂トス賴信紙ニ依ル場合ハ之ヲ發信局ノ着手ニ交付シタルトキヲ以テ行使ノ着手トシ依テ

電報カ受信人ニ到着シタルトキヲ以テ行使ノ已遂トス(他ハ之ニ準シテ了解スヘシ)

- (三) 官私文書ノ區別ハ何ニ依テ之ヲ爲スヤ? 電信文ノ官私ハ之ヲ依頼シタル者ノ資格如何ニヨリテ分ツ可キナリ、官吏カ公權ヲ代表シテ發シタルモノタルトキハ官文書、然ラサルトキハ私文書タリ但シ電信技手カ職權ヲ以テ認ム可キ部分即チ電報發着ノ日時、字數ノ記載等ハ常ニ官文書タリ
- 次ニ法律ハ文書ノ作製及ヒ増減變換ヲ要ス、作製即チ偽造トハ新タニ文書ヲ作り出スコト、増減變換トハ一言ニテ之ヲ云ハ、所謂變造又ハ變更ヲ意味ス然レトモ各自ニ付テ之ヲ説明セハ増加トハ既存文書ニ或ル文字又ハ條款ヲ附加スルコトヲ、減少トハ既存文書ノ中ノ或ル文字又ハ或ル條款ヲ刪除スルコトヲ、變換トハ増加ト減少ト

ヲ併ヒ行フコト例ヘハ二百圓トアル中ノ二ノ字ヲ刪除シテ五ノ字ヲ加ヘ以テ五百圓ト爲スカ如キコトヲ意味ス而シテ文書ノ作製又ハ増減變換ハ之ヲ作製スルノ職權又ハ權利ヲ有スル者ノ手ニ成ルコトアリ然ラサルコトアリ茲ニ於テカ文書ノ作製又ハ増減變換ハ之ヲ爲シタル者ノ資格如何ニヨリテ之ヲ二種ニ分類スルコトヲ得

(甲) 作製ノ職權又ハ權利ナキ者ノ手ニ成リタル場合學者之ヲ稱シテ有^〇形^〇ノ^〇偽^〇造ト云フ蓋シ職權又ハ權利ナキ者カ作製ノ職權又ハ權利アル者即チ記錄者ノ名義若クハ資格ヲ冒シテ作製スルモノナルカ故ニ所謂眞實ノ詐僞ハ文書ソノモノ即チ形式ノ虛僞ニ依テ行ハルレハナリ職權又ハ權利ナキ者カ記錄者ノ名義又ハ資格ヲ冒シテ作製スルモノナルカ故ニ記錄者ノ名義又ハ資格ヲ冒ス

ト云フコト、文書ノ作製ト云フコト、ノ二ヲ以テ成立ス、最モ普通ナル場合ニシテ格別説明ス可キコトナシ

(乙) 作製ノ職權又ハ權利アル者ノ手ニ成リタル場合學者之ヲ稱シテ無^〇形^〇ノ^〇偽^〇造ト云フ蓋シ職權又ハ權利アル者ノ手ニ成ルモノナルカ故ニ文書ソノモノ即チ形式ノ上ニ於テハ一點ノ虛構ナシ所謂眞實ノ詐僞ハ之ニ依テ表示セラレタル事實ノ上ニノミ無形的ニ存スルノミナレハナリ之ヲ稱シテ偽造ト云フハ佛國ノ主義佛國多數學者ノ一般ニ稱道スル主義ヲ採用シタル刑法ニ於テノミ獨リ首肯シ得ヘキノミ獨國ノ主義ヲ採用シタル刑法ニ於テハ決シテ了解シ得サル所タリ隨テ或ル一派ノ學說ノ如ク我刑法ヲ以テ獨國ノ主義ヲ採用シタルモノト解スルトキハ到底是認スルコトヲ得サル點トス

凡ソ法律カ文書ノ偽造ヲ罰スル所以ハ是レ詐僞ノ證據ヲ製シテ其提示ヲ受ケタル者ノ信用ヲ誤ラシメ以テ實害ヲ生セシムルカ故ナリ然ラハ此種ノ行爲カ文書偽造罪トシテ罰セラル、爲メニハ其之ニ依テ他人ヲ欺カントスル文書カソレ自身他人ノ信用ヲ誤ラシムルニ堪能ナルモノナラサルヘカラス、而シテ熟ラ案スルニ本場合ノ所謂文書ナルモノハ他人ニ關ハラズ之ヲ作製シ又ハ増減變換スルニ於テ毫モ他ノ羈絆ヲ受クルコトナキカ故ニ犯人ノ隨意ニ作製又ハ増減シ得ヘキモノナルカ故ニ自己作製者ノ利益ノ爲メニハ勿論他人ノ利益ノ爲メニモ通常證據トシテ援用セラルヘキモノニ非ス換言セハ通常證據トシテ他人ノ確信ヲ得随テ他人ヲ害シ若クハ自己又ハ第三者ヲ利シ得ヘキモノニ非ス然ラハ本場合ノ文書ニ於ケル事實ノ虛僞カ無形ノ文書偽造罪トシ

テ罰セラル、コトヲ得ル爲メニハ有形ノ文書偽造ノ場合ト同ク他人ノ確信ヲ惹起シ隨テ害ヲ生シ得ヘキ特段ナル文書ナラサル可カラス、果シテ如何ナル場合ニ於テ右ノ如キ特段ナル性質ノ文書トスヘキヤ？原則トシテハ余ハ確信ス官公文書ハ如クソレ自身眞實ノ標準トナル文書隨テ一般公衆ノ確信ヲ措カサルヘカラサル文書及ヒ官署ニ呈出スヘキ諸般ノ屆書戸籍又ハ所得額ニ關スル屆書ノ如キ若クハ商法上ノ或ル文書商業帳簿ノ如キノ如ク公益上法律カ特ニ正實ナルヘキコトヲ要求シ以テ豫メ反對ノ審査ヲ省略シタル私文書ハ何レモ反對ノ證據ノ提出セラル、マテ一應ノ證據トシテ確信セラル可キモノナルカ故ニ舉テ右ニ所謂特段ナル文書隨テ其實ノ虛僞ハ文書偽造罪ヲ成スト云ハサルヘカラスト——然レトモ此點ニ關シ(一)官公文書ヲ除クノ外

法律ハ或者ニ對シテハ特ニ多少ノ制裁ヲ設ケテ刑法ノ適用ヲ避クルニモ拘ハラズ類似殊ニソレヨリモ尙ホ輕キ特別ノ制裁ヲ以テ満足スヘキ他ノ者ニ對シテハ漫然之ヲ刑法ノ制裁ニ委シアリテ立法ノ趣旨一致セサルト(二)其果シテ反對ノ審査ヲ省略シタルモノナルヤ否ハ偏ニ法律ノ規定ニ因リテ定マルヘキモノナルニ其規定模糊トシテ之ヲ判別スルコト能ハサルモノアリテ現ニ刑法ノ規定ヲ豫想シテ官公文書又ハ商業帳簿等ノ證據力ヲ定メタル舊民法證據編商業帳簿ニ付テハ第二十七條官公文書ニ付テハ第四十七條參看ノ母法タル佛國商業帳簿ニ付テハ其民法第千三百二十九條第千三百三十條官公文書ニ付テハ同第千三百十九條等參看ニ於テモ學說紛々其經界分明ナラサルト(三)現行新民法ニ於テハ舊民法ノ如ク證據編ヲ以テ諸般ノ證據ノ效力ヲ規定スル

ノ迂ヲ避ケ獨國民法ニ於ケルカ如ク諸般ノ證據ハ一ニ裁判官ノ判斷ニ委スルコト、シ一應ノ證據ト爲リ得ヘキモノト否ラサルモノトハ法理上之ヲ區別スルコトヲ許サ、ルノ結果民刑法ノ趣意和衝突スルトニ因リ、刑法ノ規定ハ右ノ如クニシテ苟モ官公文書ノ如クソレ自身眞實ノ標準ト爲ルヘキ文書若クハ公益上法律カ特ニ正實ナルヘキコトヲ要求シタル文書ニ於テ事實ヲ虛構シタル者ハ皆無形ノ文書偽造者タルヘシト雖モ疑ハシキハ輕ニ從フノ原則ニ從ヒ下ノ如ク決定セント欲ス、曰ク無形文書偽造ノ規定ハ廣濶ナリト雖モ他ノ法律トハ對照上所謂文書偽造ヲ以テ罰シ得ヘキモノハ刑法中特ニ其規定ヲ設クルモノ即チ第二百五條第二百九條第二項及ヒ第二百五條第二項第二百十六條末段ノミナリト

〔註〕設令或ル學者ノ如ク廣ク無形文書偽造ノ適用ヲ認ムルトスルモ一私人カ虛偽ノ陳述ヲ爲シ因テ官吏公吏ヲシテ不實ノ文書ヲ作製セシムルノ行爲ヲ以テ無形文書偽造ノ一種ト論スルハ大ナル謬見ナリ蓋シ論者ハ此場合ニ於テ官公吏ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル一私人ノ器械ナリ代人ナリト主張ス然レトモ此場合ニ於テ官公吏ハ一私人カ其面前ニ於テ陳述ヲ爲シタルトキハ之ヲ錄取ス可シトノ法律命令ノ下ニ於テ其職權ヲ執行スルモノナリ統治ノ機關ナリ被治者タル私人豈ニ之ヲ願使スルハ理アラシヤ論者ノ説ノ如キハ公法ノ觀念ヲ缺如スルモノナリ否ナ假令公法上ノ觀念ハ暫ク之ヲ措クモ其謬ヤ顯著ナルモノアリ何ヲ以テ之ヲ云フ曰ク無形ノ偽造ハ之ヲ作製スルノ資格アル者カ之ヲ犯スニ因テ成立ス若シ論者ノ説ヲ以テ正當ナ

リトセハ人ノ子カ親ニ對スル奉養ヲ缺クニ至ルヘキコトヲ知リナカラ欺テ其財物ヲ騙取シ因テ之ヲシテ親ニ對スル奉養ヲ缺クニ至ラシメタルトキハ詐欺取財ト奉養ヲ缺ク罪トノ俱發ヲ以テ論セサル可カラサラン！之ヲ要スルニ本問ノ場合ニ於テハソノ一私人ノ陳述ハ法律上眞實ナラサル可カラサルコトヲ要スルモノニシテ其虛偽ハ茲ニ官公文書ノ錯誤即チ虛偽ヲ結果スヘキモノナルカ故ニ特ニ明文ヲ設ケテ官公文書ノ偽造ニ準シ之ト同一ナル制裁ヲ加フルハ敢テ不當ノ立法ト云フコトヲ得ス否ナ寧ロ其必要アルヘシト雖モ此明文ナキ我刑法ニ於テ論者ノ如ク直ニ之ヲ官公文書ノ偽造ナリト主張スルハ官公文書ノ虛偽ヲ生スルカ故ニ官公文書ヲ偽造シタルト同一ノ害惡ヲ發生セシムルモノナリト云フ害惡即チ被害ノ點ノミヨ

リ推論シ遂ニ行爲ノ性質ノモノヲ曲解シタルモノタリ換言
スレハ其所謂一人ノ虚偽ノ陳述ハ眞實ナラサル可カラスト
云フ法律ノ要求ニ反シテ官公吏ヲ欺キタリト云フヘキノミ故
ニ其性質ニ伴ヒタル普通ノ制裁トシテハ或ハ廣ク其虚偽ヲ罰
スルカ(戸籍法第二百五條參看)或ハソノ文書ニ因テ行ハレタ
ル場合ニ於テ無形ノ私文書偽造罪ヲ以テ論ス可キモノタリ(廣
ク無形ノ文書偽造罪ヲ認ムルノ主義ヲ探レハ)

第二ノ要素 事實ノ眞實ヲ僞ハルコトヲ要ス(本要素ハ次ノ要素ト共
ニ第四ノ要素即チ害ヲ生シ得ヘキコトノ中ニ包含セラレヘキモノ
ニシテ畢竟其一條件ニ過キス隨テ文書偽造罪ハ本來或ハ(一)文書ヲ
作製又ハ増減變換シテ之ニ憑ルコト(二)害ヲ生シ得ヘキコト(イ)事實
ノ眞實ヲ僞ハルコト(ロ)文書カ證明セント欲スル所ノ事實ヲ僞ハル

コト(以上所爲)(三)害ヲ生セシムルノ意思アルコト(以上意思即チ佛國
法ノ主義ニ於テ最モ主要トスル所)ノ三要素ヲ以テ成立スルモノナ
リト説明シ本要素ハ第三要素中ニ於テ之ヲ論スルカ又ハ(一)文書ヲ
作製又ハ増減變換シテ之ニ憑ルコト(二)事實ノ眞實ヲ僞ハルコト(三)
文書カ證明セント欲スル所ノ事實ニ關スルコト(四)害ヲ生セシムル
ノ意思アルコトノ四要素ヲ以テ成立スルモノナリト説明シ抽象的
ナル第二害ヲ生シ得ヘキコトヲ要素ハ事實ノ眞實ヲ僞ハルコト
及ヒ文書カ證明セント欲スル所ノ事實ニ關スルコトノ二要素ヲ以
テ具象的ニ代表セシムルヲ以テ論理的ノ分配トスルモ本要素次ノ
要素及ヒ害ヲ生シ得ヘキコトノ各點ハ何レモ特ニ注意ヲ要ス可キ
モノナルカ故ニ暫ク論理的ノ分配ヲ離レ相對向セシメテ説明スル
コト、シタルノミ請フ幸ニ誤ル勿レ

(一) 法律カ文書ノ偽造ヲ罪トシ罰スル所以ハ虚偽ノ事實ヲ證明ス可キ證據ヲ發生セシメ以テ害ヲ生セシムルカ故ナリ換言スレハ證據ハ爭アル事實ヲ確定スルノ具ニシテ虚偽ノ證據ハ事實ヲ虚偽ニ確定シ依テ害ヲ生セシムルカ故ナリ然ラハ文書ソノモノ即チ證據ト爲ルモノ、形式ハ之ヲ偽ハルモ若シ夫レ其文書即チ證據ニシテ眞實ニ事實ヲ表示スルモノ隨テ眞實ヲ證スルモノナラシカモ之ニ因テ害ヲ受ク可キモノアルコトナシ(獨國刑法ノ主義ヲ採用スル刑法ニ於テハ危險ノ生ス可キ文書ノ形式ヲ偽ハルコトソレ自身ヲ以テ害ヲ生シタルモノナリトスルモ是レ前ニモ説明シタルカ如ク我刑法ノ採用セサル所タリ)害ヲ生スルノ危險ナクハ法律ハ之ヲ處罰スルノ實益ヲ有セス是レ本要素ノ必要ナル所以タリ(尤モ凡ソ證據ナルモノハ通常爭アル場合ニ提出セラル、モノニシテ疑ヲ斷ツ

ノ具ナルカ故ニ爭アル場合ニ提出セラレタル證據ノ形式ノ眞正ナラサルコトカ當事者ノ自白其他ノ證據ニ因リ證明セラレタルトキハ裁判官ハ其行爲カ本罪即チ文書偽造罪ヲ構成スルヤ否ヤヲ決スル爲メニハ先ツ其果シテ事實ノ眞實ヲモ尙ホ之ヲ偽ハレルヤ否ヲ審査セサル可カラス茲ニ於テ若シ之ヲ明白ニ知ルコトヲ得タル場合ハ論ヲ要セスト雖モ眞否何レニモ之ヲ決定スルコトヲ得サルトキハ如何ニ判定ス可キヤ? 凡ソ一般ノ推理上實質ニ於テ眞實ナルモノハ其形式ニ於テモ亦眞實ナルモノニシテ形式ノ眞實ナラサルモノハソレ自身其實質ヲモ亦眞實ナラスト推定セサルヲ得ス隨テ形式ノ虚偽ナルニモ拘ハラズ實質カ眞實ナリト云フコトハ之ヲ爭フモノ、證明ス可キモノナルカ故ニ若シ夫レ被告ニ於テ之ヲ爭フモノ之ヲ證明スルコトヲ得サルトキハ當然ノ結果トシテ被告ハ實質

ヲモ之ヲ僞ハリタルモノトシテ有罪ノ決定ヲ爲サ、ル可カラスト
 確信ス(二)事實ノ眞實ヲ僞ハリタルコトヲ要スルカ故ニ事實貸借又
 ハ委任ノ契約アル場合ニ於テ債權者又ハ受任者カ擅ニ債務者又ハ
 委任者ノ名義ヲ以テ貸借又ハ委任關係ヲ證明ス可キ證書ヲ作製シ
 會計官吏カ百圓ノ支出ナルニ五十圓ト之ヲ誤記シタル場合ニ於テ
 百圓ト訂正シ或ハ歐文ニテ記載ス可キヲ日本文ニテ金百圓ト誤記
 シタル場合ニ於テ之ヲ訂正シ支出シタル金額ヲ記載スルコ
 トヲ遺忘シタル場合ニ於テ後日之ヲ記入シタルカ如キ所爲ニ於テ
 モ意思ニ於テモ事實ノ眞實ヲ僞ハラサルモノハ勿論假令眞實ヲ僞
 ハルノ意思ヲ以テ眞實ニ非サルモノト信シテ作製シタルモノ例ヘ
 ハ眞實被告ニ金百圓ヲ與フヘシトノ遺言書アルコトヲ知ラスシテ
 同一ノ事實ヲ記載シタル遺言書ヲ僞造シタルカ如キ眞實ニ偶中シ

タル場合ト雖モ犯罪ヲ構成セサルモノトス

第三ノ要素 文書カ證明セント欲スル所ノ事實ニ關スルコトヲ要ス

(一)是レ前ノ要素ト同シク文書ノ僞造カ罪トシ罰セラレ、爲メニハ
 害ヲ生シ得ヘキコトヲ要スト云フコトヨリ當然生スル所ノモノタ
 リ、蓋シ先キニモ説明シタルカ如ク法律上所謂文書ナルモノハ證據
 即チ事實ヲ證明スルノ用ニ供スルモノニシテ其僞造又ハ變造ハ證
 據ヲ僞ハルニ存ス隨テ假令文書ニ依テ事實ノ眞實ヲ僞ハルモ其依
 テ僞ハラレタル事項カ文書ノ證明セント欲スル所ノ事實ニ關セサ
 ルカ又ハ其文書ノ實質自体若クハ形式カ證明ノ用ニ供セラレヘキ
 モノニ非サルトキハ毫モ實害ヲ生スルノ危險ナクレハナリ(二)所爲
 者カ文書ニ依テ眞實ヲ僞ハラントシタル事項ハ文書カ證明セント
 欲スル所ノ事實ニ關スルコトヲ要スルカ故ニ例ヘハ金百圓右正ニ

借用ス「トアルヲ」右正ニ借用申候處實正也「トシタルカ如キ詩歌俳諧等ヲ記載シタル文書即チ其實質カ事實ヲ證明スルモノニ非サルモノヲ偽造變造シタルカ如キ死者ノ死亡以後ノ日附ヲ以テ又ハ作製ノ職權ナキ官吏ノ名ヲ以テ若クハ虛無ノ人ノ名ヲ以テ文書ヲ偽造變造シタルカ如キハ何レモ罪ヲ構成セサルモノトス——此最後ニ示シタル設例ニ付キ或ハ異論ヲ主張スル者アリト雖モ畢竟謬見タリ何ヲ以テ之ヲ云フ曰ク虛無ノ人ノ名ヲ以テ作製セラレタル文書ハ往々ニシテ人ノ確信ヲ惹クコトアリ論者ノ以テ偽造罪トスル所以亦偏ニ茲ニ存セン然レトモ文書カ表示シタル事實ノ信憑セラル、所以ハ署名者即チ責任者アルニ因ル換言スレハ文書カ表示シタル事實ヲ信スルハ責任者ヲ信スルカ故ナリ責任者ノ誰タルヲ知ラス「ハ」之カ文書ヲ信憑スルノ理ナシ然ラハ責任者ノ誰タルヤヲ知ラ

スシテ之ヲ信スル者ハ是レ文書ソノモノヲ信スルニ非ス責任者アルカ如クニ假裝セラレタル文書ノ外形ヲ妄信シタルモノニシテ洋酒等ノ瓶外ニ貼付ス可キ「ペーパー」ヲ紙幣ナリト妄信シタル田舎漢ト擇フ所ナク「レハナリ」(貨幣偽造罪ニ關スル說明參看)

第四ノ要素 害ヲ生シ得ヘキコトヲ要ス

諸般ノ犯罪皆ナ害アルコトヲ想像ス然リ而シテ其所謂實害ナルモノハ犯罪ノ要素即チ所爲ソノモノ、中ニ包含スルモノニシテ前ニモ説明セシ如ク余ハ已ニ第二第三ノ要素ヲ以テ害ヲ生シ得ヘキ所爲ノ何者タルコトヲ説明シタルカ故ニ本要素ハ猶ホ竊盜罪ニ於テ他人ノ物件ヲ竊取スルコトヲ要スト云ハ、所謂害ハ其中ニ包含スルモノニシテ更ニ害ヲ生シ得ヘキコトヲ要ステフ條件ヲ掲クルコトヲ要セサルカ如ク正確ナル論理思想ヲ以テ云フトキハ畢竟蛇足

ニ過サルモノタリ而シテ余ノ之ヲ掲クル所以是レ文書偽造罪ハ他ノ犯罪ト異リ單ニ文書ヲ偽造變造スルノ意思ト之ヲ行使スルノ意思即チ他人ヲ欺クノ意思換言スレハ他人ヲ欺罔シテ其確信ヲ害セントスルノ意思ノミヲ以テ十分ナリトセス進ンテ確信ヲ害シ因テ他人ニ一定ハ實害權利義務ノ得喪ニ關スル害惡ヲ與ヘ若クハ自己又ハ第三者ニ不正ノ利益ヲ得若クハ得セシメントノ意思アルコトヲ要スルモノニシテ(心素)其之ニ伴フ可キ所爲モ亦單ニ他人ヲ欺クニ止ラス因テ他人ニ害ヲ與ヘ又ハ自己若クハ第三者ニ不正ノ利益ヲ得若クハ得セシメントスルノ所爲(体素)アルコトヲ要スルモノタルヲ明ニセンカ爲メ換言スレハ後ニ掲クル所ノ意思ニ關スル要素ト相對向セシメ以テ其性質ヲ明カニセンカ爲メノミ蓋シ犯罪ノ行爲ハ或ハ其体素自体カ自ラ惡意アルコトヲ表彰スルモノト然ラサ

ルモノトアリテ放火又ハ殺人罪ノ如キハ所爲自体カ業ニ已ニ害意アルコトヲ表彰セリト雖モ本罪即チ文書偽造罪ノ如キハ其所爲單ニ人ヲ欺クト云フニ在リテ虛偽ハソレ自身常ニ惡意アルコトヲ表彰セサルカ故ニ所爲ノ方面ヨリ惡意ニ出テタルモノタルコトヲ明ニセント欲セハ勢ヒ外形ニ表ハル可キ所爲即チ文書ニ憑テ文書カ證明セント欲スル所ノ事實ノ眞實ヲ僞ルテフ所爲ノ外更ニソノ所爲ハ害意ヲ以テスルモノ隨テ害ヲ生シ得ヘキモノタルコトヲ明ニセサルヲ得サレハナリ

右ニ説明スルカ如ク本要素ノ全般ハ已ニ之ヲ第二第三要素ニ於テ説明シタルノミナラス其所謂害ノ何者タルヤハ後段意思ノ條ニ於テ之ヲ説明スルヲ便宜トスルカ故ニ本要素ノ説明ハ之ヲ第二第三要素ニ譲リ直ニ意思ノ要素ニ入りテ説明ヲ試ミノト欲ス

第五ノ要素 害ヲ生セシムルノ意思アルコトヲ要ス
 凡ソ法律カ或ル行爲ヲ輕罪以上ノ犯罪トシテ罰スル場合ハ概ネ皆
 ナ其之ヲ犯ス者ニ於テ惡意即チ故ラニ國法ノ禁止スル所ノモノヲ
 犯シ以テ害ヲ生セシメント欲スルノ意思ヲ有シ重刑ノ避ク可カラ
 サルモノアルカ故ナリ然リ而シテ凡ソ犯罪行爲ハソレ自身概ネ一
 般ノ習慣ニ反スルノ外形隨テ國法ノ必ス禁止セサル可カラサル形
 式ヲ有ス此形式ヲ有スルカ故ニ殺人行爲ノ如キ放火行爲ノ如キ多
 シノ犯罪ハ犯人ニ於テ之ヲ知ルニモ拘ハラヌ敢テスルノ意思即チ
 行爲ニ伴フ知覺タニ之レ有ルコトノ證明セラル、ニ於テハ當然惡
 意(害ヲ生セシメントノ意思)ノ以テ重刑ヲ科セサル可カラサル心意
 情況アリト云フヲ得ヘク更ニ反對ノ辯解ヲ許サスト雖モ少數ノ犯
 罪例ヘハ毆打創傷罪及ヒ本罪ノ如キハ其行爲自身必シモ一般ノ習

慣ニ反スルノ外形ヲ有セス(毆打創傷罪ニ付テ之ヲ云ハ、身体髮膚
 之ヲ父母ニ受ク敢テ毀傷セス之ヲ孝ト云フ云々自ラ傷ク尙ホ不徳
 タリ況ンヤ他人ノ身体ヲ然レトモ身体ヲ毀傷スルハ反テ之ヲ保
 全スル所以ノモノタル場合アリ醫療ノ爲メ他人ノ身体ニ灸ヲ施ス
 カ如キ一肢ヲ折ラサレハ生命ヲ失フカ如キ場合ニ其者ノ一肢ヲ折
 テ其生命ヲ全フシタルカ如キ其一例ナリ然ラハ毆打創傷ノ行爲ハ
 其外形ニ於テ必シモ一般ノ習慣ニ反セス本罪ニ付テ之ヲ云ハ、虛
 偽ノ陳述ヲ以テ人ヲ欺クハ道義ノ喜ハサル所然レトモ虛言モ亦一
 ノ方便却テ道義ヲ全フスル事アリ佛者カ未來ニ地獄アリト説キテ
 人ノ邪念ヲ脱却セシムルカ如キ其一例タリ本罪ハ文書ヲ以テスル
 モノ然レトモ文書ヲ以テスルト口頭ヲ以テスルト其虛偽タルハ一
 ナリ然ラハ本罪ノ行爲モ亦其外形ニ於テハ必シモ一般ノ習慣ニ反

セズ隨テ法律ニ示シタル外形ノ行爲及ヒ之ニ伴フ所ノ所爲ノ知覺アリトテ常ニ必シモ直チニ害意即チ國法ノ以テ重刑ヲ科セサル可カラサル心意情況アリト云フヲ得ス是レソノ法律カ假令之ヲ明言セスト雖モ本罪ヲ構成スル爲メニハ特ニ害ヲ生セシムルノ意思アルコトヲ要ストスル所以ナリ蓋シ此ノ如クナラスンハ玉石同架概ネ忍フ可カラサルノ結果ヲ生スレハナリ

害隨テ害ヲ生セシムルノ意思トハ何ンヤ? —— 説明ニ先チ一言注意セント欲ス余ハ先ニ他人ヲ害シ又ハ不正ニ自己若クハ第三者ヲ利スルノ意思ト云ヘリ此間別ニ區別アルニ非ス否論理的ニ云ハ、後段又ハ不正ニ云々ハ前者ノ中ニ包含セラル、モノニシテ畢竟蛇足タリ而シテ之ヲ附加スルハ讀者ノ了解ヲ助クンカ爲メノミ概言スレハ他人ヲ害スルノ意思又ハ害ヲ生セシムルノ意思ト云フニ歸

着ス蓋シ不正ノ利ハ必ス一方ニ害惡ヲ想像スルモノニシテ自己又ハ第三者ヲ不正ニ利スルノ意思ハ當然他人ヲ害スルノ意思ナレハナリ隨テ夫ノ或ル學者カ佛國牙勞氏ノ所説ニ倣ヒ他人ヲ害スルノ意思ト云フノミヲ以テハ未タ盡サ、ル所アリトシ後段又ハ不正ニ云々ノ文字ヲ附加セサル可カラスト主張セルハ所謂他人ノ摠ニ倣フノ類ニシテ採ル可カラサルモノタルコトヲ了解ス可シ(但シ所謂他人トハ必シモ有形ノ人ノミヲ云フニ非ス公私ノ法人モ亦人タルカ故ニ他人タリ) —— 若シ夫レ高尚ナル道義觀念ニ基キ苟モ文書カ證明セント欲スル所ノ事實ノ眞實ヲ僞ハルトキハ茲ニ人ノ確信ヲ誤ラシムルカ故ニ即チ茲ニ害アリト云ハ、假令之ニ因テ何人ニモ損害ヲ與フルノ意思ナキカ若クハ單ニ一時ノ讒譏ニ出ツル場合ト雖トモ已ニ犯人ニ於テ文書カ證明セント欲スル所ノ事實ノ眞實ヲ

偽ハルモノタルコトヲ知リナカラ其文書ヲ行使シテ他人ヲ欺クノ
 意思アルトキハ害ヲ生セシムルノ意思アリト云フコトヲ得ヘシ、果
 シテ法律ハ之ヲ以テ足レリトスルカ、余ヲ以テ之ヲ見ルニ若シ夫レ
 之ヲ以テ満足セハ、文書ヲ偽造變造シテ事實ノ眞實ヲ偽ハル云々ト
 云フノミヲ以テ十分ナリ、之ヲ知リナカラ他人ヲ欺クノ意思云々ハ
 總則ノ適用上當然附隨セリ何ソ草案ニ於テ、訓令ニ於テ(訓令ハ先ニ
 モ説明セシカ如ク當時ノ有權解釋タルカ故ニ之ヲ引用スルノ價值
 アリ)或ハ「usage frauduleux」(惡意ノ行使)アルヲ要スト云ヒ或ハ已ニ眞
 實ヲ變換スルコトヲ要スト云ヒナカラ更ニ他人ニ害ヲ加フルノ意
 思アルコトヲ要スト云フノ理アラシキ之ヲ要スルニ依リテ之ヲ觀
 レハ所謂害ナルモノハ單ニ眞實ヲ偽ハリ因テ他人ノ確信ヲ害スル
 ノミノ害惡ヲ云フニ非スシテ之ニ因テ他人ニ法律上或ル一定ノ損

害ヲ蒙ラシムルコト換言スレハ確信ヲ誤ラシメタルヲ原因トシテ
 他人ノ權利ヲ損傷シタルコトヲ云フモノトス(廣ク權利ノ損傷ナル
 カ故ニ財産上ニ關スルト否サルトニ論ナキモノトス)隨テ亦茲ニ所
 謂害ヲ生セシムルノ意思トハ他人ノ確信ヲ誤ラシメ因テ之ヲシテ
 一定ノ損害ヲ受クシムルノ意思單ニ自己又ハ第三者ヲ不正ニ利セ
 ント欲スルモノモ當然一方ニ於テ他人ノ損害ヲ想像スルカ故ニ他
 人ヲ害スルノ意思タルコトハ已ニ之ヲ説明セリ)ヲ云フモノトス法
 律ハ此意思アルコトヲ要スルカ故ニ例ヘハ先キニモ例擧シタル場
 合即チ一時ノ職能ニ基キ文書ヲ偽造シテ之ヲ行使シ因テ他人ヲ欺
 キタル者不在者ノ事務管理ノ爲メ其委任狀ヲ偽造行使シテ不在者
 ノ得ヘキ金額ヲ受取り之ヲ不在者ニ交付シタル者他人ノ名義ヲ以
 テ(承諾ヲ得スシテ)預ケタル金額ヲ受取ラント欲シ其委任狀ヲ偽造

シタル者等單ニ他人ノミヲ害スルノ意思例ヘハ他人ヲシテ無用ノ
 失費ヲ爲サシメントスルカ如キ意思モナク亦自己又ハ第三者ヲ不
 正ニ利スルノ意思隨テ他人ヲ害スルノ意思モナキ者ハ本罪ノ罪人
 タラサルモノトス此點ニ付キ夫ノ或ル學者カ佛國牙勞氏ノ說明ニ
 隨ヒ害ヲ生セシムルノ意思アルコトヲ要スト云ヒナカラ事實ノ眞
 實ヲ僞ハルコトタルヲ知ルト同時ニ他人ヲ欺クノ意思アルトキハ
 即チ害ヲ生セシムルノ意思アルモノナリト說明シタルカ如キハ牙
 勞氏カ其說明ノ起頭ニ本罪ニ於テ害ヲ生シ得ヘキコトナクハ罪
 ヲ構成セサルハ猶ホ毒殺罪ニ於テ人ヲ殺スニ堪能ナル分量ノ毒物
 ヲ施用スルコトナクハ罪ヲ構成セサルト同シク一般總則ノ適用
 ヲ脱セサルモノナリト云ヒタルハ實害云々ハ此犯罪ノ性質トシテ
 當然附着スルモノニシテ特ニ附隨トシテ之ヲ要スルニ非スト云フ

コトヲ說明シタルヲ誤解シタルノ罪ニ坐ス(牙勞氏刑法論第三卷第
 一〇九號及ヒ岡田氏刑法論各論ノ部第三三三號第三三八號參看)牙
 勞氏カ其說明ノ中段ニ他人ヲシテ相續權アルカ如クニ確信セシメ
 ノカ爲メ戯レニ遺言書ヲ僞造シタルモノハ眞實ニ非ラサルヲ知リ
 且ツ他人ヲ欺クノ意思アルニモ拘ハラヌ無罪ナリト云フヲ見ルモ
 思ヒ半ハニ過キノ(牙勞氏刑法論第二卷第一四四號)
 以上ヲ以テ余輩ハ文書僞造罪ノ成立ニ必要ナル一般ノ要素ヲ說明セ
 リ依テ是ヨリ直チニ本罪ノ各論ニ入ル可キモ我法律ニ於テハ右ノ各
 要素ノ外更ニ之ヲ行使シタルコトヲ要スルカ故ニ第六ノ要素トシテ
 行使ノ一項ヲ加ヘ以テ之ヲ說明セント欲ス

第六ノ要素 行使シタルコトヲ要ス

一 行使トハ何ソヤ 是レ已ニ貨幣僞造ニ於テ說明シタル所更ニ

第一編 公益ニ關スル重罪輕罪 第四章 信用ヲ害スル罪 第三節 文書僞造罪 五一五

説明ヲ要セサルカ如シト雖モ重要ナル犯罪ニ係ルカ故ニ更ニ之ヲ説明セシテ行使トハ詐僞ノ勞力ヲ加ヘタル物件(本罪ニ付テ之ヲ云ヘハ偽造又ハ變造シタル文書)ヲ他人ニ提示シ之ヲシテ其確信ヲ誤ラシムルコトヲ云フ(一)他人ニ提示スルコトヲ要スルカ故ニ共犯ノ一人又ハ自己ノ代理人タル辯護士等ニ提示スルカ如キハ行使ニ非ス然レトモ單ニ他人タルコトヲ要スルノミナルカ故ニ犯人カ之ニ依テ實害ヲ被ラシメントシタル人タルト否トヲ問ハス故ニ虛僞ノ主張ヲ確カメンカ爲メ之ヲ裁判所ニ提出スルモ亦行使ノ所爲ナリトス(人或ハ裁判官ハ自己ノ信スル所ニ因リ判定ヲ下スモノニシテ必シモ僞文書ニ依テ欺カル、モノニ非ス換言スレハ裁判官ハ事實虛僞ノ主張ニアラサルヤヲ疑フ場合從テ僞文書タルコトヲ疑フ場合ニ於テモ尙ホ法理ノ命スル所ト自

己ノ確信スル所トニ因リ判定ヲ下スモノナルカ故ニ裁判所ニ提出スルハ行使ニアラスト主張スル者アリト雖モ是レ行使ノ所爲ハ必シモ欺カルヘキ人ニ提示スルコトヲ要セス欺カルヘキ狀況アル人ニ提示セハ完成スルモノニシテ裁判官ト雖モ欺ル、コトナシト云フコトヲ得サルカ故ニ欺カルヘキ狀況アル人ニ提示シタルモノタルコトヲ忘却シタルモノニシテ探ルニ足ラサル謬見タリ(二)提示スルコトヲ要スルカ故ニ假令他人ノ目ヲ觸ル、モ其故ラニ之ヲ提示シタルモノニアラサルモノ即チ偶然他人ノ目ニ觸レタルカ如キ場合ニ於テハ之ヲ以テ行使ノ所爲アリタリト云フコトヲ得ス然レトモ其所謂提示ナルモノハ故ラニ他人ノ面前ニ提出スルコトヲ要セス他人カ之ヲ目撃スルコトヲ得ヘキ狀況ニ置クヲ以テ足レリトス故ニ例ヘハ官吏カ其偽造變造シタル帳

簿ヲ一定ノ場所ニ備付ケタルカ如キモ亦之ヲ行使シタルモノト云フコトヲ得(但シ此場合ニ於テモ未タ何人ノ目ニモ觸レサルノ間ハ行使ノ行爲ヲ遂ケタリト云フヲ得ス、行使ニ着手シツ、アルモノタルニ過キサルカ故ニ假令一旦備付ケタルモ未タ何人ノ目ニモ觸レサル間ニ之ヲ訂正又ハ取消シタル時ハ中止犯トシテ無罪タル可シ猶ホ人ヲ殺サント欲シテ路傍ニ陷穽ヲ造リタルモ被害者ノ之ニ及ハサル間ニ之ヲ除去シタルカ如シ)(三)確信ヲ誤ラシムルカ爲メニ提示シタルコトヲ要スルカ故ニ運搬ノ爲メ運送人又ハ使者ニ交付シタルカ如キ單ニ之レカ形狀ヲ示シタルニ止マリテ實質ヲ對抗セサルモノ從テ他人ノ之ニ對スル審査力ヲ害セサルモノハ之ヲ以テ行使シタルモノト云フコトヲ得ス其適用ノ一トシテ學者間多少異議アリト確モ余ハ夫ノ登記又ハ公證ヲ受

クルカ爲メ偽文書ヲ公證人又ハ登記官吏ノ面前ニ提示スルカ如キハ單ニ文書ノ形骸ヲ示スニ過キサルモノニシテ其實質ヲ對抗セサルモノ、換言スレハ公證人又ハ登記官吏ハ單ニ其形體ヲ見テ公證又ハ登記スルノミ其實質ノ眞偽ヲ審査スルノ義務ナシ義務ナクシテハ審査力ヲ害セラレ、コトナシ審査力ヲ害セラレズンハ錯誤ニ陷ルコトナキカ故ニ行使ノ所爲ナキモノト確信ス蓋シ若シ之ヲ以テ行使シタルモノトセハ公證又ハ登記ヲ經テ偽文書ヲ行使スル者ハ常ニ必ス二重ノ行使罪ヲ犯サ、ル可カラサルヲ見ルモ其非理ナルヲ知ルニ足レハナリ(但シ本論ハ公證又ハ登記ヲ經ヘキ主タル文書ソノモノ、ミニ關シ、公證ノ委任狀及ヒ登記ノ願書等ニ關セス此等ノモノハ其實質ヲ公證人又ハ登記官吏ニ對抗スルモノニシテ其提示ハ公證人又ハ登記官吏ノ審査力ヲ害ス

ルモノナルカ故ニ行使ノ所爲タルヘキヤ論ヲ俟タス

二 行使ノ未遂ト既遂トノ關係 行使トハ右ニ説明スルカ如ク他人ノ確信ヲ誤ラシムルカ爲メニ偽造又ハ變造ノ文書ヲ他人ニ提示スルノ所爲ナルカ故ニ行使ノ所爲カ既遂タルカ爲メニハ必シモ之ニ依テ他人ヲ錯誤ニ陥ラシメタルコトヲ要セス錯誤ニ陥ルハキ狀況ニアル者ニ對シテ之ヲ欺クニ足ルヘキ文書ヲ提示シタル時ハ行使ノ所爲ヲ遂ケタルモノトス其始メヨリ虛偽ナルコトヲ發見セラレ若クハ後ニ於テ之ヲ發見セラレタルカ如キハ既遂ノ狀況ニ變動ヲ生セス從テ行使カ未遂タルカ爲メニ未タ此等ノ狀況ニ達セサルニ先チ意外ノ障礙又ハ舛錯ニ因テ其行爲ヲ阻害セラレタルコトヲ要ス

三 行使ト偽造又ハ變造トノ關係 余ハ嘗テ偽造變造ハ犯罪ノ豫

備ナリトノ説ヲ主張セシカ今ハ之ヲ以テ犯罪ノ着手ナリト確信ス蓋シ若シ夫レ法律ニ於テ偽造若クハ變造シタル文書ヲ行使スル所爲ヲ以テ犯罪ヲ成形スルモノトセハ其所謂偽造變造ハ犯罪構成ノ一要素從テ正犯行爲ノ一部分ナラサルカ故ニ犯罪ノ豫備ナリト雖モ法律ハ偽造又ハ變造シテ行使シタルモノトアリテ偽造又ハ變造ト行使トノ二要素ヲ具備スルニ非スハ犯罪ヲ成形セストスルカ故ニ其所謂偽造變造ハ犯罪構成ノ一要素從テ正犯行爲ノ一部分ナルカ故ニ第百十二條所謂犯罪ソノモノニシテ已ニ着手以上ノ所爲ナレハナリ着手以上ノ所爲ナルカ故ニ時効ハ偽造又ハ變造ノ所爲アリタルトキヨリ流出シ偽造又ハ變造ノ所爲ニ加效シタル者ハ常ニ正犯トス

第二款 文書偽造罪ノ体樣若クハ各種ノ文

書偽造罪

法律ハ偽造セラル可キ文書ノ性質如何即チ文書カ法律關係上重要ナルモノト否トニ因リ其處分ヲ異ニセシカ爲メ其規定ヲ三分セリ曰ク
(一)官文書ニ關スルモノ (二)私文書ニ關スルモノ (三)特種ノ官私文書ニ關スルモノ是ナリ

第一項 官ノ文書ヲ偽造スル罪

法律ハ第三節官ノ文書ヲ偽造スル罪ヲ表題ノ下ニ於テ(一)官文書偽造罪及ヒ(二)官文書毀棄罪ヲ規定セリ

第一段 官文書偽造罪

甲 本罪ノ構成 本罪ヲ構成スル爲メニハ特別ノ要素トシテ其偽造又ハ變造セラレタル文書ノ官文書タルコトヲ要シ各條項ニ該當ス可キ犯罪ヲ構成スル爲メニハ法律カ各條項ニ記載シタル文書タルコト

ヲ要スルカ故ニ余ハ先ツ官文書ノ何者タルヤヲ説明シ次ニ其種類ヲ説明セント欲ス

第一 官文書ノ定義 官文書トハ何ソヤ之ニ付テハ二個ノ見解アル可シ官吏カ其職務ヲ以テ調製スル凡テノ文書ヲ云フトスルモノト官吏カ國家爲政ノ機關トシテ調製スル凡テノ文書ヲ云フトスルモノト是ナリ前ノ見解ヲ以テスレハ苟モ官吏タル身分アルモノカ法律命令ノ命シタル職務ノ權限内ニ於テ調製スルモノハ其公法上ノ關係ニ於テ作製スルモノト私法上ノ關係ニ於テ作製スルモノトヲ問ハス凡テ皆チ官文書タルヘシ後ノ見解ヲ以テスレハ所謂官文書トハ官吏カ國家爲政ノ機關即チ公法上所謂統治機關ノ一部トシテ作製シタルモノニ限リ私法上ノ關係(即チ民事又ハ商事等)ニ於テ作製スルモノハ官文書ト云フテ得ス隨テ各官衙相互ノ往復文等ハ官

文書タルヘキモ官吏カ官署ヲ代表シテ一私人ト取結ヒタル契約書若クハ官吏カ國家ヲ代表シ一私人ノ資格ヲ以テ裁判所ニ差出シタル訴答文書ノ如キハ官文書ニ非スシテ私文書タルヘシ余ハ多數ノ反對論者アルベキコトヲ豫想スルニ拘ハラズ後ノ見解ヲ主張ス蓋シ法律カ官私文書ヲ區別シテ其制裁ヲ異ニシタル所以ハ一般ニ對スル證據力カ其性質ノ上ニ於テ一應公正ト見做サル、ト否ラザルトニ依リ被害ノ程度相同カラサルニ因ルモノニシテ國家ノ爲政ハ公正ノ標準タルカ故ニ其文書モ亦反對ノ證明ヲキ限りハソレ自身公正ト見做サル可キモ私法上ノ行爲ハ假令國家ノ行爲ト雖モ裁判所ノ判決ニ服從セサル可カラサルカ故ニ公正ノ標準ト云フヲ得ス隨テ其文書モ亦一般ノ私文書ト同シクソレ自身公正ト見做サル、トトテ得ザレハナリ

所謂官文書ハ外國ノ官文書ヲモ包含スルカ？本問ハ外國ノ君主其親族及ヒ官吏ハ之ヲ我所謂天皇皇族及ヒ官吏ト同一視スヘキヤトノ問題等ト共ニ論究ス可キモノニシテ余輩ノ見ル所ニ依レハ老幼男女夫妻親子等一般自然上ノ關係若クハ自然上ノ關係ヲ法律カ認メタルモノハ外國ノ空氣水家屋等カ亦往々トシテ空氣水家屋タルヲ失ハサルト同シク我國ニ於テモ老幼男女夫妻親子タリト雖モ君主皇族官吏官文書等ノ如キ其國ニノミ限り特ニ法律若クハ習慣等ノ人爲ニヨリテ組織セラレタル特別ノ制度ハ刑事國際法上我國ニ於テ之ヲ我國ノ君主皇族官吏文書ト同視ス可シトノ明文ナキ以上ハ單純ナル一私人(國際公法上外國ノ君主ハ我法權ニ服セス外國ノ皇族ハ刑セスト云フカ如キハ別問題トス)又ハ私文書タル可シ

第二 官文書ノ種類

法律ハ官文書ヲ分チテ三種トセリ曰ク詔書曰

ク第二百三條ノ官文書曰ク公證文書是ナリ

一 詔書 天皇ノ親ラ作製セラレ可キ文書ハ或ハ勅書又ハ勅諭若クハ詔書ト云ヒ或ハ宸翰若クハ親翰ト云ヒ名稱種々ナリト雖モ皆ヲ通俗ノ稱呼ノミ學問上ヨリ區別スレハ先ニ廣ク官文書ニ付テ説明シタル如ク天皇カ國家爲政ノ首長トシテ作製セラレ、特別ノ文書ト單ニ天皇ト云フ高貴ノ御身分ヲ以テノミ作製セラレ、一般ノ文書トノ二トスルコトヲ得、茲ニ所謂詔書トハ此二者何レヲモ之ヲ包含スルヤ余輩ハ其官文書ノ一種トシテ規定セラレタル點ヨリ觀察シ先ニ廣ク官文書ニ付テ掲ケタル定義ヲ應用シテ茲ニ詔書トハ前ノモノ、ミテ意味ストシ例ヘハ天皇カ友邦ノ君主又ハ皇族其他我貴顯諸公等へ宴遊其他單純ナル私人關係ノ爲メニ發セラレ、文書ハ詔書ニ非スト論斷セント欲ス然レトモ

此點ニ付テハ余ハ必スシモ爭ハス詔書ハ格別ナリトノ論モ亦有カナル可シ

二 第二百三條ノ官文書 詔書及ヒ公證文書ヲ除キタル以外ノ官文書ヲ總括ス、法律命令及ヒ帳簿等ヨリ各官署ノ間ニ於ケル單純ナル往復文等ニモ及フ、説明ノ要ナシ

三 公證文書 是レ第二百四條ノ規定スル所、明文所謂公債證書地券ハ公證文書ノ一二ヲ例示シタルモノナリ、然ラハ公證文書トハ果シテ如何ナル官文書ヲ云フカ曰ク一私人ノ利益ノ爲メ官吏カ一私人ニ屬スル或ル事項ヲ公證シテ特別ノ證據力ヲ附シ以テ一私人ニ下附スル一切ノ文書ヲ云フ、法律ノ例示シタル以外ニ於テ例舉セハ登記官吏カ願人ニ下附スル登記ノ謄本、公證人カ依頼人ニ付與スル公正證書ノ謄本、戶籍吏カ一私人ニ付與スル身分ニ關

スル證明書等其著シキモノトス人或ハ郵便局ノ貯金通帳及ヒ郵便爲替證書ハ前者ハ預金ヲ證スル爲メ人民ニ交付シタルモノ後者ハ爲替ノ取扱ヲ官署ニ囑託シテ人民相互ニ金錢ヲ授受スルモノニシテ何レモ行政事務上官署ヨリ下附セシモノニ非ラサルカ故ニ第二百十條第一項私署證書ニ屬ス可キモノナリト主張スルモノアリト雖モ此等ノモノハ何レモ郵便ト云フ行政事務ソノモノトシテ一私人ニ下附シタルモノナルカ故ニ官文書タルコト一照ノ疑ヲ容レヌ唯問題トシテハ此等ノモノハ第二百三條ノ文書中ニ入ル可キヤ將タ公證文書ノ中ニ入ル可キヤニ在リ然リ而シテ余輩ハ法律カ公證文書ノ一例トシテ公債證書及ヒ地券ヲ列舉スルニ依テ之ヲ見レハ公證文書ニ屬スルモノト斷定スルヲ以テ至當ト信ス

次ニ一私人ヨリ差出シタル文書ヲ官吏カ與書等ニ依テ公證シタル場合ニ於テハ官吏ノ作製シタル部分ノミカ公證文書ト爲ルカ將タ全体ノ文書カ舉テ公證文書トナルカトノ疑問アリト雖モ此場合ニ於テハ一私人ノ作製シタル部分モ亦官吏ノ公證ト云フコトニ因リテ官吏自身カ作製シタルニ異ナラサルコト、ナルヘシ換言スレハ官吏ノ作製シタル文書ト一体ヲ爲シ其性質ヲ享クルカ故ニ全体ノ文書カ舉テ公證文書トナルト決定ス可キモノトス」終ニ法律ノ規定ニ付キ一言セント欲ス或ル一ノ文書カ官文書トシテモ其果シテ普通ノ官文書ニ屬スルモノナルヤ將タ公證文書ニ屬スルモノナルヤハ事實上ニ於テ極メテ困難ナル問題タリ故ニ立法上ノ問題トシテハ可成的此ノ如キ區別ヲ避クルヲ可トス況ンヤ我法律ノ規定ヲ見ルニ彼此其刑罰ノ上ニ於テモ殆ント異同アルヲ認

メサルニ於テオヤ實ニ無用有害ノ區別ト評スルノ外ナシ訂正ヲ要
ス可キ一點トス此点ハ改正ノ後ニ於テハ改正ノ月日トシテ之ヲ記スルノ事ナリ

乙 本罪ノ處分 本罪ノ處分ニ關シ一般ニ法律カ輕懲役以上ノ重刑
ヲ以テ待ツ所以ノモノハ先ニモ説明シタル如ク官文書ハ公正ノ標準
トナル可キモノニシテ十分ナル證據力ヲ有スルカ故ニ其之ニ因テ生
ス可キ被害多クハ確實ニ且ツ最モ大ナレハナリ

第一 詔書ヲ偽造シ又ハ増減變換シタル罪 (一) 法律ハ他ノ文書偽造
罪ト異リ單ニ之ヲ偽造シ又ハ變造シタルモノ、ミテ以テ罪ヲ構成
スルモノトシ亦其行使ヲ待タサルノミナラス無期徒刑ノ重刑ヲ科
ス悖理敗德ノ極ナレハナリ然レトモ余ヲシテ啄ヲ容レシメハ些カ
酷ニ失セサルカ蓋シ此等ノ犯人ハ素ヨリ敗德ノ徒タルハ明ナリト
雖モ其目的トスル所多クハ或ル不正ノ利益ヲ得ンカ爲メ證據ヲ偽

ハルニ在ルノミ必スシモ尊嚴ヲ汚瀆セント云フカ如キ禽獸ノ心ア
リト云フ可カラサレハナリ(二) 法律ハ偽造又ハ變造ノミテ以テ直チ
ニ罪ヲ構成スルモノトシ行使シタル場合ヲ豫見セサルカ故ニ單ニ
偽造變造ニ止マルモ將タ進ンテ行使ニ及フモ同一ナリトス然レト
モ法律ハ單ニ偽造又ハ變造ノミヲ豫見シ行使ヲ罰スルノ規定ヲ設
ケサルカ故ニ偽造變造ノ情ヲ知テ單ニ行使ノミヲ爲シタル者ハ無
罪トセサルヲ得ス立法上ノ大缺點タリ同一ノ論法ニ因リ假令自ラ
偽造變造シタルモノト雖モ偽造變造ニ付テ刑ノ時效ヲ得タル後行
使シタルモノハ亦無罪タラサルヲ得ス何ソ其太タシキヤ此點ハ他
ノ文書偽造罪ニ於テモ亦同一ナリ

第二 第二百三條ノ文書若シハ公證文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シタ
ル罪 法律ハ普通ノ場合ニ於テ輕懲役ニ處シ無記名ノ公債證書ニ

係ル者ニ對シ一等ヲ加フルノ外第二百五條ニ官吏其管掌ニ係ル文書ヲ偽造又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ前二條ノ例ニ照シテ各一等ヲ加フルアリテ犯人ノ資格ニ因リ更ニ各刑ヲ加重スルコト、セリ普通ノ場合ハ説明ヲ要セス(一)無記名ノ公債證書ニ係ル場合ニ於テ一等ヲ加フルハ紙幣ト共ニ流通ノ容易ナルカ故ニ其害大ナルニ因ル(二)之ヲ管掌スル職務ヲ有スル官吏カ犯シタル場合ニ於テ更ニ刑ヲ加重スルハ犯スニ易ク防クニ困難ナルノミナラス職務ヲ汚辱シ國家ノ威信ヲ失墜スルコト大ナルカ故ナリ

茲ニ所謂官吏トハ如何ナル者ヲ云フカ法律カ文書ヲ管掌スルモノタルノ故ヲ以テ刑ヲ加重スル所以ハ右ニ説明スルカ如ク犯スニ易ク防クニ困難ニシテ職務ヲ汚辱シ國家ノ威信ヲ失墜スルカ故タルニ依テ之ヲ見レハ苟モ公權ノ委任ヲ受ケ國家ノ爲政機關ノ一部ト

シテ職務ヲ奉スル者ハ一時ト永久ト階級ノ上下トニ區別ナク皆ナ官吏タルヘシ隨テ茲ニ所謂官吏トハ奏任官又ハ判任官ト云フカ如キモノ、ミナラス准奏判任又ハ雇特ニ日給雇ト稱スル臨時的ノモノト雖モ亦之ヲ包含スルモノトス管掌トハ何ンヤ法律何レノ處ニ於テモ之ヲ定義セスト雖モ(一)第二百七十三條ニ官吏其管掌ニ係ル法律規則ヲ公布施行セス云々トアリテ同條所謂管掌トハ法律規則ヲ公布施行ス可キ職務ヲ有スル者換言スレハ或ル文書ヲ作製シテ法律規則ヲ發生セシム可キ職責アル者ト云フノ義ヲ示セルト(二)第二百五條ノ第二十二條ニ及ハサルト(三)第二百五條ノ規定ニ該當スル佛文第一草案第二百三十八條ニ「Sera puni de la réclusion majeure tout fonctionnaire ou officier public qui dans la rédaction d'un acte ou document original appartenant à sa fonction et destiné à constater des faits intéressants

L'Etat ou les particuliers, soit en denaturant les fait, les dates ou les noms des personnes intéressées, soit en mentionnant des faits qu'il savait inexacts, soit en omettant de mentionner des faits véritables et substantiels (即チ官吏公吏其職務ヲ以テ國家又ハ一個人ニ關スル事實ヲ證明スヘキ原簿ヲ作製スルニ當リ或ハ事實ノ日時關係人ノ氏名ヲ僞ハリ或ハ不正確ナリト知レル事實ヲ記載シ或ハ眞實ナル主要ノ事實ヲ記載セサルトキハ重懲役ニ處ス)トアリテ該條ハ職務上官文書ノ作製ヲ司掌スル者ノ僞造變造行使ヲ處罰スルノ規定ナルトニ依テ之ヲ觀レハ茲ニ所謂管掌トハ文書ヲ保管スルノ義務ニ非スシテ文書ハ作製ヲ司掌スルノ義ト解ゼサル可カラス隨テ第二百五條ハ所謂無形ノ文書僞造罪ヲ規定シタルモノトス然ラハ其僞造トハ如何ナルコトヲ又増減變換トハ如何ナルコトヲ云フヤ曰ク例ヘハ登記官吏カ登記ノ請願ヲ

受ケサルニモ拘ハラズ私ニ甲者カ其地所ヲ乙者ニ賣リ渡シタルカ如クニ登記シタルハ登記原簿ノ僞造ニシテ甲者ヨリ乙者ニ十町歩ノ地所ヲ賣渡シタル旨ヲ登記ス可キコトヲ請願セラレタルニ十町歩ヨリ多ク若クハ少ナキ地所ヲ賣渡シタルカ如クニ記載シ又ハ全ク之ヲ記載セス又ハ登記ノ日付ヲ異ニシテ記載シタルカ如キハ増減若クハ變換タリ

如何ナル場合ニ於テ果シテ文書ノ作製ヲ管掌セリト云フヲ得ヘキヤ曰ク官吏其人ト他ノ諸般ノ事項トノ關係上官吏其人カ之ヲ作製スルノ職權ヲ有スル場合ニ於テハ其作製ヲ司掌セリト云フコトヲ得隨テ土地又ハ事項トノ關係上職權ナキトキハ勿論一時休職又ハ停職ト云フカ如ク之ヲ作製スル官吏タルノ身分ヲ失ハサルモ之ニ伴フ可キ職權ヲ行使スルノ能力ナキモノハ管掌ノ有様ニ在ルモノ

ト云フヲ得ス、法律ハ管掌ニ係ルコトヲ必要トシ廣シ官吏ト云フ身
 分ナル者ノ行為ニ關スル明文ヲ置カサルカ故ニ一私人及ヒ他ノ官
 吏ハ勿論假令之レカ作製ヲ司掌ス可キ身分ヲ有スル者ト雖モ休職
 又ハ停職等ニ因リ職權ヲ行使スルコトヲ得サル間ニ爲シタル行為
 ハ一私人ノ行為タルヘキモノトス
 終ニ第二百五條官吏其管掌ニ係ル文書ヲ偽造變造シタルモノハ身
 分ニ因テ罪ヲ構成ス可キ場合ナルヤ將タ刑ヲ加重ス可キ場合ナル
 ヤ本問ハ無形ノ文書偽造罪ナルモノ、存在ヲ認ムルト否トニ因テ
 決定ヲ異ニス、或ル一派ノ學者ト共ニ我刑法ハ無形ノ文書偽造罪ヲ
 認メストセハ前者ニ決シ余輩ト共ニ無形ノ文書偽造罪ヲ認ムルモ
 ノナリトセハ後者ニ決セサル可カラズ、何レニシテモ余輩ノ信スル
 所ニ依レハ身分ナクシテ之ニ加効シタルモノモ身分アル者即チ管

掌ノ職權ヲ濫用シテ偽造又ハ變造罪ヲ犯シタル者ト共ニ共犯トシ
 テ有罪タリ唯前説ヲ採レハ身分ナキ共犯者ニ對シテモ亦身分アル
 者ト共ニ第二百五條ヲ引用スヘク後説ヲ採用セハ身分アル者ニ對
 シテノミ第二百五條ヲ引用シ身分ナキ者ニ對シテハ單ニ第二百三
 條又ハ第二百四條ニ依ルヘク第二百五條ヲ引用スルコトヲ得サル
 ノ差アルノミ

第二段 官文書毀棄罪

本罪ハ第二百二條第二百三條及ヒ第二百五條ノ各第二項ヲ以テ規定
 セラル、所ノモノニシテ詔書及ヒ第二百三條ノ官文書ニ對シテノミ
 成立シ第二百四條ノ官文書ニハ成立セサルモノナリ換言セハ偽造罪
 トハ些カ其趣ヲ異ニスルモノアルカ故ニ余ハ法律ノ規定ニ對スル觀
 念ヲ明了ナラシメンガ爲メ先ツ毀棄ノ何物タルヤヲ論定シテ變造ト

ノ異同ヲ説明シ以テ彼ト異ナリタル規定ノ因テ生スル所以隨テ彼ト異ナリタル成立要素ヲ認メサル可カラサル所以ヲ明ニセント欲ス
 毀棄トハ何シヤ、曰ク文書ヲ毀損スルヲ云フ文書ヲ毀損スルニ二法アリ、文書ヲ記載シタル物質ソノモノヲ有形的ニ毀損スルニ因リテ行ハレ若クハ記載シタル文書ノミヲ無形的ニ抹殺スルニ因リテ行ハル然ラハ後ノ方法ニ因ル文書ノ一部ノ毀損全部ノ毀損ニ付テハ比較ノ要ナシト同一ノ形式ニ於ケル變造トノ區別如何曰ク毀棄ハ文書ヲ毀損シ因テ文書ノ證據力ヲ滅却スルモノニシテ變造ハ證據力ヲ發生セシムルモノナルカ故ニ其間性質ノ上ニ於テ大ナル區別アリ更ニ例ヲ以テ之ヲ説明セハ金千五百圓トアル文字中墨ヲ以テ五ノ字ヲ抹消シタル外形ノ行爲ハ毀棄ト變造トニ通シテ相同シト雖モ若シ夫レ之ニ依テ千五百圓タラス千百圓タラス換言スレハ千何圓タルヤヲ明ナラサ

ラシメタルトキハ即チ其證據力ヲ滅失セシメタルモノナルカ故ニ文書一部ノ毀棄タリ然レトモ若シ之ニ反シ千百圓タラシメタルトキハ千五百圓ノ證據力ヲ變換シテ更ニ千百圓ノ證據力ヲ發生セシメタルモノナルカ故ニ文書一部ノ變造タリ夫ノ或ル學者カ毀棄ハ文書ノ全部ニ關シ變造ハ一部ニ關スト云フカ如キハ未タ其區別ノ存スル所ヲ知ラサルモノトス

右ノ如ク毀棄ハ證據力ヲ滅却セシメ偽造變造ハ證據力ヲ發生セシムルモノナルカ故ニ犯人ノ行爲全ク相表裏セリ、表裏スルカ故ニ其之ニ依テ直接ニ生ス可キ被害モ亦相表裏セリ換言スレハ一ハ之ヲ提示セラレタルモノ、確信ヲ害シ、他ハ之ヲ提示シテ證據ニ供セント欲スル者ノ利益ヲ害ス、確信ヲ害スルニ因リテ生ス可キ害ノ大小ハ證據力ノ大小ニ存シ、證據ヲ提供セント欲スル者ノ利益ヲ害スルニ因テ生ス可

キ害ノ大小ハ之ヲ提供セント欲スル者ノ性質如何ニ存ス(國家ノ被ル可キ害ハ一般ニシテ大ナリト雖モ一人ノ被ル可キ害ハ否ラズ) 雙方相對照シ同一ノ犯罪ニ付テ之ヲ云フナリ然ラハ偽造罪ニ於ケル官文書ト私文書トハ之ヲ作製ス可キ者ノ官吏タルト私人タルトニ因テ區別セラレ毀棄罪ニ於ケル官文書ト私文書トハ之ヲ提供セント欲スル者ノ國家タルト私人タルトニ因テ區別セラルハヤ論ヲ俟タズ法律カ第二百四條一私人ノ利益ノ爲メ一私人ニ下附ス可キ官文書ニノミ限リ官文書ノ毀棄罪ヲ認メス單ニ之ヲ第四百二十四條ニ屬スルモノトスル所以亦偏ニ茲ニ職由ス 本點ニ關スル立法上ノ論議ニ付テハ余輩亦說アリ今之ヲ說カス 附言法文中其官文書トアルハ前文ヲ承クタルノ語ニ非ス單純ナル助字ノミ詔書ニハ一アリテ二ナキニモ拘ハラズ第二百二條其詔書トアルヲ見ルモ之ヲ知ル可シ

以上説明スル所ニ因リ本罪ハ下ノ要素ヲ以テ成立スルモノタルコトヲ知ル可シ(意思ニ關スル點ハ省略ス) (一)官署カ證據トシテ保管スル文書(作製シタルモノ、官吏タルト私人タルトヲ問ハス)タルコト (二)毀棄即チ其證據ヲ滅却スルノ所爲アルコト是レナリ 處分ニ付テハ別ニ説明スヘキモノアルヲ認メサルカ故ニ之ヲ省ク 以上余輩ハ官文書偽造罪ニ關スル説明ヲ了リタリ第二百六條第二百七條ヲ剩スト雖モ屢々説明シタル他ノ條項ト同一ナルカ故ニ之ヲ省略ス尤モ官印ヲ偽造又ハ盜用シテ官文書ヲ偽造シ依テ財物ヲ詐取シタル場合ニ於テ第三百九十條第二項ト第二百六條ト其何レヲ先キニ引用スヘキヤノ疑ヲ生スヘキモ論議ヲ要ス可キ程ノモノニ非ラサルカ故ニ之ヲ省ク

又屢々説明セル如ク明治二十三年法律第百號ニ依リ公署公吏ハ官署

又ハ官吏ニ準セラル、カ故ニ茲ニ所謂官吏又ハ官文書ハ公吏又ハ公文書ニ適用セラル、モノトス

第二項 私印私書ヲ偽造スル罪

法律ハ第四節ニ私印私書ヲ偽造スル罪ト題シ私文書偽造罪ノ外別ニ私印偽造罪ヲ規定スルカ故ニ余ハ之ヲ二段ニ分チテ説明ス可シ

第一段 私文書偽造罪

甲 本罪ノ構成 本罪ヲ構成スル爲メニハ其偽造又ハ變造セラレタル文書カ私文書タルコトヲ要シ各條ニ該當ス可キ犯罪ヲ構成スル爲メニハ各條項ニ記載シタル文書タルコトヲ要スルカ故ニ本罪ニ付テモ余ハ先ツ私文書ノ何者タルコト次ニ其種類ヲ説明スヘキモ私文書ノ何者タルコトハ已ニ官文書ノ何者タルコトヲ説明シタルニ因テ之ヲ明ニスルコトヲ得ヘキカ故ニ本罪ノ構成ニ關シテハ單ニ其種類ノ

ミヲ説明ス可シ

法律ハ亦官文書ニ於ケルカ如ク私文書ヲ分チテ三種トセリ曰ク(一)流通證券(二)權利義務ニ關スル證書(三)權利義務ニ關セサル證書是レナリ

第一 流通證券 是レ第二百九條ニ規定スル所ニシテ法律ハ爲替手

形其他裏書ヲ以テ賣買スヘキ證書若クハ金額ト交換ス可キ約定手

形ト云ヘリ畢竟商法上所謂流通證券若クハ信用證券ヲ列舉シタル

ニ過キサシモノトス規定自体特ニ沿革ノ上ニ於テ明瞭ナリ

一 爲換手形及ヒ約定手形 共ニ商法ノ所謂爲替手形及ヒ約束手

形ニ該當ス二者何レモ金額ノ支拂ヲ目的トスルノ點ニ於テハ全

ク同一ナリト雖モ爲替手形ハ甲ナル振出人カ乙ナル支拂人ニ對

シ丙又ハ其指圖人若クハ手形持參人(即チ受取人)ニ一定ノ金額ヲ

支拂自己ニ代テフヘキコトヲ命令若クハ依頼シタル文言ヲ記載

第一編 公益ニ關スル重罪輕罪 第四章 信用ヲ害スル罪 第三節 文書偽造罪 五四三

シタル證券、約束手形ハ甲ナル振出人カ乙ナル受取人又ハ其指圖人若クハ手形持參人ニ一定ノ金額ヲ自ラ支拂フヘキコトヲ約束シタル文言ヲ記載シタル證券ナルカ故ニ爲替手形ニ在テハ振出人ト支拂人トカ二人ノ間ニ分レ約束手形ニ在テハ振出人カ同時ニ支拂人ヲ兼ヌルノ差アリ

此外商法上ノ規定ニ依レハ寄托其他ノ方法ニ依リ銀行ニ對シテ繼續スル信用ヲ有スル者カ其銀行ニ依頼シ之ヲシテ記名セラレタル人又ハ指圖セラレタル人若クハ所持人ニ其呈示ヲ受ケ次第或ル一定ノ金額ヲ支拂ハシムル信用證券即チ小切手ト名クルモノアリ刑法ノ所謂爲替手形若クハ約定手形ノ中ニ入ル可キカ將タ裏書ヲ以テ賣買ス可キ證券ノ中ニ入ルヘキヤ其金額ノ支拂ヲ目的トスル點ニ於テ其形式ニ於テ前二者ニ類スルカ故ニ前二者

ノ中ニ入ル可キモノトス然テハ爲替手形カ將タ約束手形ナルカト云フニ余ハ其第三者ヲシテ支拂ハシムルノ點ニ於テ爲替手形ニ酷肖スルカ故ニ爲替手形ノ中ニ入ル可キモノト決定ス——尙手形ニ關シ商法第五百三十六條ニ左ノ場合ニ於テハ振出人ハ五圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス一資金ナク又ハ信用ヲ得スシテ小切手ヲ振出シタルトキ二小切手ニ虛偽ノ日附ヲ記載シタルトキ三テフ明文アリ若シ廣シ無形ノ偽造ヲ認ムルノ主義ヲ採用セハ疎虞懈怠等ニ出テ惡意ナキトキハ商法ノ制裁ノミヲ科シ惡意アルトキハ商法ノ制裁ト刑法ノ所謂文書偽造罪ノ制裁トヲ合セ科スヘキモノト決定スルヲ當然ノ結果トス然レトモ余ハ先ニモ説明シタルカ如ク廣シ無形ノ偽造ヲ認ムルノ主義ヲ採用セサルカ故ニ惡意アル場合ト雖モ單ニ商法上ノ制裁ヲ加フルニ止ムヘキモ

ノト決定ス亦當然ノ結果タリ

二 裏書ヲ以テ賣買ス可キ證書 亦商法上ノ信用證券ノ一種ニシテ例ヘハ運送營業者カ交付スル貨物引換證、倉庫營業者カ交付スル預證券、質證券、船長カ交付スル船荷證券等ヲ云フ裏書ヲ以テ賣買ス可キ證書トハ佛文第一草案第二百四十條 *l'effet au porteur payable par endossement ou payable au porteur* (即チ裏書又ハ持參人拂ヲ以テ取引シ得ヘキ證書)ニ該當スルモノニシテ少ナクトモ商法上裏書ヲ以テ賣買交付シ得ヘキコトヲ認メラレタル性質ノ證書ト云フノ義ナルカ故ニ商法上明ニ之ヲ認メラレタル性質ノ證書ニ關スルトキハ其時ニ限り偶單ニ交付ヲ以テ移轉スルコトヲ得ヘキ方式即チ無記名式ヲ採リタルト將タ贈與セラレタルトニ論ナキモノトス裏書ヲ以テ賣買即チ權利ヲ移轉スルコトヲ得ヘキ

モノ即チ商法上ノ所謂流通證券タルコトヲ要スルカ故ニ例ヘハ漁車漁船ノ切符、劇場角力場運動會等ノ入場券又ハ酒、鯉節ノ切手等假令無記名式ヲ以テ發行セラレ事實上ニ於テハ交付ニヨリテ權利ヲ移轉セラル、コトアリト雖モ茲ニ所謂裏書ヲ以テ賣買ス可キ證券ト云フコトヲ得ス漁車漁船ノ切符、劇場角力場運動會ノ入場券等ハ畢竟輕微ナルモノナルカ故ニ省略シテ無記名トスルモノニシテ本來記名式タル可キモノナリ^花險テ如何ナル理由ヲ以テシテモ流通證券タルヲ得スト雖モ酒、鯉節ノ切手等ハ倉庫營業者カ交付スル預證券ト全ク同一ノ性質ヲ有スルモノニシテ唯普通商人相互ノ間ニ受授セラル、コト殆ソト之レアラサルト其目的物輕微ナルヲ以テ特ニ流通證券トシテ認メラレサルノミ本來ノ性質ハ一種ノ流通證券タルヘキモノナリ

第二百九條第二項ニ曰ク、其手形、證書ニ詐僞ノ裏書ヲ爲シテ行使シタル者亦同シト

法律ハ爲替手形約束手形、其他裏書ヲ以テ賣買スヘキ證書ソノモノヲ僞造スル行爲ノミナラス此等ノ手形又ハ證書ニ詐僞ノ裏書ヲ爲ス者モ亦之ヲ手形又ハ證書ソノモノヲ僞造變造スルモノト同一視セリ然ラハ法文所謂詐僞ノ裏書ヲ爲ストハ如何ナルコトヲ意味スルヤ沿革ニ因テ之ヲ案スルニ是レ恐ラク「通常文書ニ依テ自己ニ屬スルコトノミヲ僞ハルハ何等ノ害ヲモ生セサルカ假令之ヲ生スルコトアルモ例ヘハ債務者カ債權者ヲ詐害セシカ爲メ虛僞ノ賣買契約ヲ第三者ト取結ヒタルカ如キ民法上常ニ之ヲ無効トスルノ制裁アルカ故ニ文書ノ無形の僞造罪ヲ構成セスト雖モ爲替手形等ノ裏書ノ日付ノ詐僞ハ商業上特ニ信用ヲ重ス可キ證券ニ關シ最モ危險

ナルカ故ニ例外トシテ之ヲ嚴罰セサル可カラストノ理由ヲ以テ規定セラレタル佛國商法第百三十九條、裏書ノ日付ヲ溯ラシメタルモノハ僞造罪ヲ以テ論ス、トノ規定ニ胚胎シタルモノナルカ故ニ偏ニ破産者カ財産等ヲ脱漏セシメンカ爲メ破産以前ノ日付ヲ以テ手形又ハ證書ヲ裏書シテ第三者ニ交付スルノ行爲等即チ裏書ノ無形ノ僞造ノミヲ豫見シタルモノニシテ裏書ノ有形ノ僞造ヲモ包含セシメタルモノニ非スト主張スルモノアル可シト雖モ余ハ(一)佛文第一草案第二百四十條第一、二項ニハ明ニ有形ノ方法ニヨル僞造變造ヲ規定スルニモ拘ハラス其第三項ニ「à l'aide des mêmes moyens, aura frauduleusement endossé ni desdits actes ou en aura touché le montant」即チ前同一ノ方法ニ依テ前項ノ手形證書ヲ詐欺ニ裏書シ又ハ之ニ依テ金錢ヲ得タル者トアリテ有形的僞造ノ方法ヲモ之ヲ包含セシメタル

第一編 公益ニ關スル重罪輕罪 第四章 信用ヲ害スル罪 第三節 文書僞造罪 五四九

ト(二)明文ニモ廣ク詐僞ノ裏書トアリテ詐僞ノ裏書ト云フ字面ハ必
 シモ無形ノ偽造ニ限ルト云フヲ得サルト(三)有形ノ裏書ハ之ニ依テ
 手形、證書ニ虛僞ノ保證若クハ引受ヲ作製シ容易ニ他人ノ信用ヲ誤
 ラシメ其害寧ロ無形ノ偽造ヨリモ甚タシキモノアルトニ依リ茲ニ
 所謂詐僞ノ裏書トハ右ニ所謂日付ヲ溯ラシムルカ如キ無形ノ偽造
 ハ勿論甲ヨリ乙ニ宛テ、振出シタルカ如クニ偽裝シタル虚僞ノ手
 形、證書ニ乙ノ名義ヲ冒シテ自己ニ對スル裏書ヲ偽造シ以テ他人ヲ
 欺罔スルカ如キ有形ノ偽造ヲモ之ヲ包含スルモノト信ス然レトモ
 法律ハ單ニ虚僞ノ裏書ニノミ限リ此例外ヲ設クテ手形又ハ證書ソ
 ノモノ、偽造變造ニ準スルカ故ニ手形又ハ證書ソノモノニ附記セ
 ラレ其危険手形、證書及ヒ其裏書等ニモ讓ラサル引受文ノ偽造變造
 ト雖モ手形、證書ソノモノ又ハ裏書ノ偽造變造ニ非サルカ故ニ通常

ノ證書トシテ第二百十條第一項ニ依ル可ク第二百九條ニ依ルコト
 ヲ得サルモノトス(尤モ此等ノモノハ手形又ハ證書ト一体ヲ爲シ手
 形又ハ證書ソノモノナルカ故ニ直チニ第二百九條第一項ニ依テ處
 斷セサル可カラスト云フノ說アレトモ到底附會ノ論タルヲ免レス)』
 人或ハ手形其他ノ流通證券ハ紙幣ト同シク一定ノ形式ヲ有シ此形
 式ニ依テ流通スルモノ即チ商法上ノ有力ナル信用ヲ獲得スルモノ
 ナルカ故ニ通常ノ私文書ト異リ商法ニ規定シタル一定ノ形式タニ
 偽造セハ假令虚僞ノ人ノ名義ヲ以テスルモ尙ホ本罪ヲ構成スト主
 張スルモノアリト雖モ余ハ先ニ文書偽造罪ノ一般ノ成立要素ヲ說
 明スルニ當リ詳述シタル所ニヨリ之ヲ是認セス
 右ト反對ニ若シ犯人ニ因リテ偽造變造セラレタル流通證券カ商法
 上流通證券トシテ有效タル可キ要件ヲ欠如スルモ他人ノ署名タニ

之ヲ缺カサル場合ニ於テハ單純ナル私文書トシテ有效タルヲ妨ケ
 サルモノナルカ故ニ第二百十條第一項ニ依テ處斷セサル可カラス』
 終リニ尙ホ右ニ掲ケタル方式ノ問題ニ關シ人或ハ流通證券ハ皆ナ
 署名ヲ要シ其偽造ハ私印ノ偽造又ハ盜用ヲ想像スルモノナルカ故
 ニ流通證券ノ偽造ヲ以テ罰ス可キ場合ハ假令私印ヲ偽造シテ使用
 シ又ハ盜用スルモ數罪俱發ヲ以テ論スルコトヲ得ス、單ニ流通證券
 ニ關スル罪ノミナリト云フモノアリト雖モ流通證券ノ形式ヲ充タ
 スカ爲メニハ必シモ眞印ヲ要セス三文判ニテモ尙ホ之ヲ充タスコ
 トヲ得ルカ故ニ余ハ數罪俱發ヲ以テ論ス可キモノト信ス

第二 權利義務ニ關スル證書 人或ハ法文ニ賣買貸借贈遺交換其他
 權利義務ニ關スル證書トアリテ其例示スル所ノモノ皆財産權上ニ
 關スル契約事項ニ係ルカ故ニ第二百十條第一項所謂權利義務ニ關

スル證書トハ凡テ財産權上ニ關係ヲ有スル證書ノミヲ指スモノニ
 シテ財産權上ニ關係ヲ有セサルモノハ皆ナ同第二項ニ入ル可キモ
 ノナリト主張スルモノアリ成程佛文第一草案第二百四十一條ヲ案
 スルニ同條ニモ『Toute fabrication ou falsification d'autres écritures privées,
 commerciales ou civiles, portant aliénation, obligation ou libération de
 sommes ou de valeurs, sera puni d'un emprisonnement avec travail de 1. an à
 5 ans et d'une amende de 10 à 50 yens—Les autres faux et falsifications
 d'écritures privées non comprises dans les désignations précédentes seront puni
 d'un emprisonnement avec travail de 1 mois à 1 an et d'une amende de 2 à
 20 yens』(即チ其他ノ民事又ハ商事ニ關スル私書ニシテ金額又ハ有
 價物ノ讓渡シ債務免脱等ヲ記載シタルモノヲ偽造變造シタルモノ
 ハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ

附加ス、右ニ指定シタル以外ノ私書ヲ偽造變造シタルモノハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス、トアリテ亦財産權上ノ權利義務ニ關スル證書ノミヲ指スカ故ニ論者ノ説或ハ立法ノ趣旨ニ適スルカ如キモ(一)若シ法文ニ其他財産權上ノ權利義務トアレハ格別單ニ權利義務トアリテ權利義務ハ必シモ財産權上ニ限ラサルカ故ニ所謂賣買貸借ハ畢竟權利義務ニ關スル契約ノ主要ナルモノヲ例示シタルニ止マルト見ルヲ得ヘキト(二)苟モ權利義務ニ關スル以上ハ皆概ネ重要ナル利害ノ存スルモノニシテ財産上ニ關スルモノ、ミ稠リ重要ナリト云フヲ得ス、否ナ、人ノ自由榮譽等ニ關スルモノ往々ニシテ財産權上ニ關スルモノヨリモ重要ナルモノアルト(三)第一項ト第二項トハ刑罰著シク其程度ヲ異ニシ第一項ニ規定スルモノト第二項ニ規定スルモノトハ殆ント相比

較ス可カラサル程其重要ノ度ヲ異ニスルコトヲ表示セルトニ依リ余ハ茲ニ所謂權利義務ニ關スル證書トハ權利義務ヲ證明スルコトヲ目的トシテ特ニ作製セラレタルモノ例ヘハ諸般ノ契約證書、銀行又ハ會社ノ株券、汽車汽船ノ切符、商品ノ切手、受取書、貨物ノ送り狀、委任狀、一私人ヨリ發スル資格ノ證明書、委任狀及ヒ資格證明書ハ權能ヲ證明スルモノニシテ權能ハ體權利ハ用、畢竟人ニ附屬スル有樣ト人カ他ニ對スル有樣トノ區別ニ過キササルモノナルカ故ニ權利ヲ證明スルモノト云フヲ得)ヲ指スモノニシテ第二項所謂其餘ノ私書トハ最初ヨリ權利義務ヲ證明スルカ爲メ作製セラレタルモノニ非ス偶々權利義務ヲ證明スルノ用ニ供セラルヘキ文書例ヘハ書翰、宣言書、届書、願書、等ヲ指スモノトス

第三、權利義務ニ關セサル證書 第二百十條第二項所謂其餘ノ私書

第一編 公益ニ關スル重罪輕罪 第四章 信用ヲ害スル罪 第三節 文書偽造罪 五五五

ニシテ其何者タルコトハ前ニ説明シタルカ故ニ之ヲ省ク
乙 本罪ノ處分

- 一 流通證券ヲ偽造又ハ變造シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス刑重ク官文書ニ關スルモノト相同シキハ流通證券ハ紙幣等ト相同シク最モ信用ヲ重スルモノニシテ其偽造變造ニヨリテ生スル所ノ害官文書ト大差ナケレハナリ
- 二 權利義務ニ關スル證書ヲ偽造變造シテ行使シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
- 三 其餘ノ私書ヲ偽造變造シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス之ヲ區別スル所以ニ至テハ更ニ説明ヲ要セス

第二段 私印偽造罪

余カ茲ニ私印偽造罪ト命スル所ノモノハ第二百八條全體ノ規定ニ對スルモノニシテ(一)所謂私印ヲ偽造スル罪(二)私印ノ影蹟ヲ盜用スル罪ノ二ヲ包含スルモノトス

第二百八條ノ規定ハ第九十四條以下官印ヲ偽造シ又ハ其影蹟ヲ盜用スル罪ト全ク同一ニシテ唯偽造罪ト盜用罪ニ通シテ彼ハ官印タルモ之ハ私印タルト偽造罪ノミニ付テ彼ハ單ニ偽造シタルノミ又ハ使用シタルノミヲ以テ罪ヲ構成ストスルモ之ハ偽造シテ使用スルニ非ラサレハ罪ヲ構成セストスルノ差アルノミ而シテ余ハ已ニ官印ヲ偽造シ又ハ其影蹟ヲ盜用スル罪ヲ詳説シタルカ故ニ私印ノ何物タルコト偽造ノ何者タルコト影蹟盜用ノ何者タルコトハ自ラ明瞭ナルノミナラス偽造ノミ又ハ使用ノミヲ以テ罪ヲ構成スル場合ト偽造シテ使用スルニ非サレハ罪ヲ構成セストスル場合トノ異同ヨリ生スル結果

(例ハ他人ノ偽造シタル私印タルコトヲ知テ之ヲ使用スルモ罪ヲ構成セサルカ如シ)等ニ付テハ從來類似ノ犯罪ニ付テ屢々説明シタル所ナルカ故ニ本罪ノ規定ハ更ニ之ヲ説明ス可キ點アルヲ認メスト雖モ注意ノ爲メニ二三ノ説明ヲ試ミ以テ余カ見解ヲ明ニセント欲ス

第一 本罪モ亦文書偽造罪官印偽造罪ト同性質ノモノナルカ故ニ之ヲ構成スル爲メニハ(一)他人ノ私印ニ係ルコト(二)之ヲ偽造シテ使用シ又ハ其影蹟ヲ盗用スルコト(三)害ヲ生シ得ヘキコト(四)害ヲ生セシムルノ意思アルコトノ四要素ヲ具備スルコトヲ要ス就中注意ヲ要スヘキ點ニ付テノミ説明セシ

一 他人ノ私印ニ係ルコトヲ要ス(一)自己ノ印モ亦私印ナリ而シテ法律ハ他人ノ私印ニ係ルコトヲ要スルカ故ニ自己ノ印ニ付テハ罪ヲ構成セス(二)他人トハ廣ク自己以外ノ者ト云フノ義ト自己及或ル親

族以外ノ者ト云フノ義トニ用井ラル茲ニ所謂他人トハ二者何レヲ意味スルヤ第三百七十七條ノ如ク明ニ或ル親族ニ對シテ用井ラレサルカ故ニ前者ノ義ニ解スヘキモノトス隨テ一般ノ他人ハ勿論第三百七十七條特ニ限定シタル親密ノ關係アル親族ト雖モ亦茲ニ所謂他人タルヘシ他人タルカ故ニ其私印ヲ偽造シテ使用シ又ハ盗用セハ有罪タラサルヲ得サルヘシ(但シ次ニ所謂害ヲ生シ得ヘカラサルトキハ格別トス)(三)法律ハ單ニ印ト稱シ別ニ制限スル所ナシ故ニ印トシテ文書等ニ記載シタル事實ヲ證明スルモノタルトキハ實印ト認印タルト仕切判タルトニ論ナク罪ヲ構成ス

二 害ヲ生シ得ヘキコト及ヒ害ヲ生セシムルノ意思アルコトヲ要ス印ハ通常文書ヲ證明スルカ爲メニ用井ラル而シテ文書偽造罪ハ害ヲ生シ得ヘキコト及ヒ害ヲ生セシムルノ意思アルニ非スハ構成

セス然ラハ若シ夫レ偽造ノ文書ニシテ害ヲ生スルコトヲ得サルカ
 若クハ害ヲ生セシムルノ意思ナキノ故ヲ以テ無罪タラハ印ノ偽造
 使用ノミ豈ニ獨リ有罪タルノ理アラシヤ(尤モ之ハ共犯又ハ一人ノ
 犯人カ私書ノ偽造行使ト私印ノ偽造使用若クハ盗用トヲ兼ネタル
 場合ヲ舉クテ説明シタルナリ)第三者ノ惡意ヲ以テ作製シタル害ヲ
 生シ得ヘキ文書タルコトヲ知ラスシテ害ヲ生セシムルノ意思ナク
 之ニ他人ノ印ヲ盗用シタル場合、第三者ノ惡意ナク作製シタル害ヲ
 生シ得ヘカラサル文書タルコトヲ知ラスシテ害ヲ生セシムルノ意
 思ヲ以テ之ニ他人ノ印ヲ盗用シタル場合其他種々ノ場合ニ付テモ
 亦同一ノ理論ヲ應用シテ推究ヲ試ム可シ(其特別ノ適用トシテ第三
 百七十七條ニ記載シタル親族ノ印ヲ偽造行使シ又ハ盗用シテ其私
 文書ヲ偽造シ之ヲ行使シテ其財産ヲ詐取セントシタル場合ニ於テ

ハ先ツ法律ハ第三百九十八條ニ依リ其詐欺取財ヲ無罪トス之ヲ無
 罪トスルハ後ニ至リ財産ニ對スル罪ノ章ニ於テ説明スルカ如ク罪
 ナ構成セストスルモノニシテ罪ヲ構成セストスルハ畢竟害ヲシト
 スルモノナリ若シ夫レ財産詐取ノ行爲カ害ヲ生セサルモノトスレ
 ハ其之レカ爲メニ用井ラレタル偽造文書ハ害ヲ生シ得ヘカラサル
 モノナリ害ヲ生シ得ヘカラサルモノトスレハ文書偽造行使ハ無罪
 ナリ文書偽造行使ヲ無罪トスレハ印ノ偽造行使又ハ盗用モ亦害ヲ
 生シ得ヘカラサルモノニシテ無罪タラサルヲ得ス然ラハ假令私印
 ナリ偽造行使又ハ盗用シテ文書ヲ偽造スルモ其印其文書カ第三百七
 十七條ノ親族ニ係リ且ツ其害惡ト見ル可キ目的カ此等親族ノ財物
 ナ詐取スルニ在ルトキハ常ニ無罪ト云ハサルヲ得ス蓋シ最モ情理
 ニ適スルモノトス夫ノ普通學者又ハ實際家カ往々文書及ヒ印ニ付

テハ第三百九十八條ノ如キ特例ナキカ故ニ財産詐取ノ行爲ハ無罪
 タルモ文書及ヒ印ニ對スル犯行ハ無罪タルヲ得スト云フカ如キ論
 決ノ以テ忍フ可カラサルニ至ル所以偏ニ此等ノ法理ヲ推究セサル
 ノ罪ニ坐ス(但シ文書又ハ印ハ單ニ其形式ヲ偽造シテ之ヲ行使シタ
 ルノ所爲若クハ真正ノ文書又ハ印ナリト人ヲ欺クノ意思ヲ以テ事
 實又ハ印ノ眞實ヲ僞ハルノ所爲アレハ罪ヲ構成スルモノニシテ害
 ヲ生シ得ヘキコトヲ要セストノ主義ヲ採ルカ若クハ親族相盜ヲ罰
 セサルハ無罪即チ罪ヲ構成セサルカ故ニ非スシテ免刑スルニ過キ
 ストノ説ヲ採レハ格別トス)

第二 明文上特ニ異ル點ヲ除クノ外犯罪ノ形式及ヒ性質共ニ官印ノ
 偽造及ヒ盜用罪ト同一ナルカ故ニ凡テ官印ノ偽造及ヒ盜用罪ニ關ス
 ル法理ヲ適用シテ解釋ス可キモノトス隨テ或學者カ私印ノ偽造ハ官

印ノ偽造ト異リ必スシモ印類ヲ作ルコトヲ要セス其影蹟ノミヲ摸擬
 シテ使用セハ罪ヲ構成ス眞印ヲ摸擬スルコトヲ要セス第三者ヲシテ
 捺印者ノ眞印ナリト誤信セシメ得ヘキモノタレハ罪ヲ構成ス實際印
 主カ存在又ハ存在セシコトヲ要セス假設ノ人タルモ罪ヲ構成スト云
 フカ如キハ余輩ノ採ラサル所ナリ請フ聊カ之ヲ論セン

論者曰ク法律カ官印ニ付テハ偽造ノミヲ以テ直ニ罪ヲ構成ストスル
 ニモ拘ハラズ私印ニ付テハ偽造シテ更ニ使用スルニ非スハ罪ヲ構
 成セストシタルハ是レ官印ハ眞物ト誤認ス可キ影蹟ヲ現ハスニ足ル
 物品ノ存在スルヲ恐レ私印ハ之ヲ押捺シタル書類ニ容易ク信用ヲ置
 クヲ恐レタルニ職由スルモノニシテ官印ハ法律上漫ニ變改スルコト
 ヲ得サル規定ノ下ニ於テ一ニシテ數個アルコトナク其ノ大小形狀等
 モ亦一定セリ之ニ反シテ私印ハ實印ヲ除クノ外其ノ數、大小、形狀、文字、

肉色等ニ制限ナク又其ノ證據力モ實印ト敢テ異ナラス此二點ニ著シキ相違アルカ故ニ私印ハ官印ト異リ一、印類ヲ製セサルモ私印ノ影蹟ノミヲ摸擬シテ之ヲ信用セシムレハ罪ヲ構成シ二、真印ヲ摸擬セサルモ他人ヲシテ真印ナラント誤信セシムルニ足レハ罪ヲ構成シ三、偽造セラレタル人カ事實假設ノ人タルニ過キサルモ罪ヲ構成スト云ヘリ(岡田氏刑法論各論ノ部三五)夫レ然リ豈夫レ然ランヤ(一)官印ハ偽造ノミヲ以テ罪ヲ構成ストシ私印ハ使用スルニ非ラスンハ罪ヲ構成セストシタリトテ直チニ一ハ偏ニ現物ノ存在ヲ恐レ他ハ然ラストノ理由ハ果シテ奈邊ヨリ由來スルカ現ニ法律ハ詔書ト他ノ官文書トノ間ニ於テモ亦同一ノ差異ヲ設クルニ非スヤ詔書ニ付テハ現物ノ存在ヲ恐レ他ノ官文書ニ付テハ現物ノ存在ヲ恐レサルカ(二)現今ノ制度ニ於テハ官印ト雖モ敢テ紙幣等ノ如ク豫シメ官報等ニヨリテ其形象ヲ公

示スルニ非ス人ノ見テ以テ確信ヲ措ク所以ノ本體即チ形象ハ事實上官印ソノモノヲ目撃シタルモノニ非スンハ之ヲ知ルコトナシ故ニ人カ偽造ニ依テ欺カル、ノ形式ハ毫モ私印ニ於ケルト異ナル所ナシ論者ハ官印ハ一個ニシテ一定シ私印ハ數個ニシテ不定ナルカ故ニ差異アリト云フト雖モ余ヲ以テ之ヲ觀レハ一ハ單純ニシテ他ハ複雑ナルノミ其間法理上毫末ノ差異アルヲ認メス如何トナレハ一ハ一個ニシテ一定シ他ハ數個ニシテ不定ナリト云フコトハ一ハ從來使用セラル、モノカ真印ナリト云フコト、他ハ本人ノ使用シ又ハ使用セントスルモノカ真印ナリト云フコトニシテ論理的ニ比較セハ本人ノ使用シタル過去ノ印影ハ已ニ一定シテ官印ト異ラス唯數ノ上ニ於テ官印ヨリモ數多ナルノミ然ラハ剩ス所ハ本人ノ將來使用セントスル物カ官印ノ如ク一定ナラスト云フニ在リテ將來使用セントスル物カ不定ナ

リト云フコトハ官印ニ付テモ必スシモ變換セララル、コトナシト云フ
 ヲ得サルカ故ニ(摩滅其他ノ出來事等アリテ)亦之ヲ云フコトヲ得可ク
 結局程度ノ差異ニ歸着スレハナリ、(三)論シテ茲ニ至ラハ一ハ公ノ官府
 カ使用スル印ニ係リ他ハ一人ノ使用スル印ニ係ルト云フハ差アル
 ノミ之ヲ偽造シテ人ヲ欺クノ形式若クハ性質ニ於テハ毫末ノ差異ア
 ルコトナシ、此點ニ差異ナキカ故ニ毫モ論者ノ云フカ如ク其規定ノ適
 用ヲ異ニス可キ理由アルコトナシ其法律カ官印ニ付テハ偽造ノミヲ
 以テ罪ヲ構成ストシ私印ニ付テハ行使ノ所爲アルニアラスンハ罪ヲ
 構成セストシタルハ一ハ依テ生ス可キ害惡重大ナルカ故ニ特ニ害惡
 ナ未發ニ防止センカ爲メ未タ害惡ノ發生セサルニ先チ之ヲ罰ストシ
 他ハ普通ノ原則ニヨリ損害ノ生セントスルヲ待テ之ヲ罰ストシタル
 モノニシテ、要スルニ其依テ生ス可キ害惡ノ大小ヲ想像シテ寬嚴ノ差

ヲ設ケタルノミ、(四)又論者カ由ル可キノ根據ナキニモ拘ハラヌ漫然一
 ハ現物ノ存在ヲ恐レ一ハ書類ニ信用ヲ置クヲ恐レタルナリ云々ト云
 フカ如キ臆語ヲ發シタル所以ノモノハ畢竟其後段所謂官印ハ一個ニ
 シテ一定シ私印ハ數個ニシテ不定ナリト云フカ如キ漠然タル思想先
 入主ト爲リタルニヨルモノトス

以上論述シタル處ニヨリ余ハ彼等論者ノ認テ正スト共ニ官印タルト
 私印タルトニヨリテ偽造ニ關スル規定ノ適用ヲ異ニス可キ理由ナキ
 コトヲ説明シタリ、然ラハ官私印共ニ如何ナル程度ニマテ偽造セハ罪
 ナ構成ス可キカ(盜用ニ付テハ余カ官印盜用ニ付テ説明シタル所ニ依
 テ之ヲ知ル可シ)方圓大小ハ勿論其現出セラル可キ文字ノ形象ニ至ル
 マテ之ヲ眞印ニ類似スルノ程度即チ一見判明シ難キ程度ニ至ルコト
 ナ要スルカ將タ例ヘハ大藏省ノ印ナレハ大藏省ノ印、八兵衛ノ印ナレ

ハ八兵衛ノ印ト云フコトヲ現出シ以テ一應大藏省ノ印ナル可シ八兵衛ノ印ナル可シト誤信セシメ得ヘキ程度ニ達スレハ可ナルカ官私印ニヨリテ適用ヲ異ニス可シト論スルモノハ官印ニ付テハ前者ヲ要シ私印ニ付テハ後者ヲ以テ足ルトス余ハ從來屢々説明シタル如ク其欺カレタル者カ文書ノ中又ハ印ソノモノ、詳細ナル形体ニ付テ從來自己カ有シタル確信ヲ誤ラレタルノ點アルニ非スンハ憑テ欺カレタリト見ル可キノ點ナキカ故ニ文書又ハ印ニ憑テ欺カレタリト云フコトヲ得ルカ爲メニハ其之ヲ欺キタリト稱スル文書又ハ印カ前者ノ程度ニ達スルニ非サレハ罪ヲ構成セサルモノト信ス蓋シ後者ノ場合ニ於テハ其之ニ欺カレタルモノハ洋酒ノ外表ニ貼付ス可キ「バー」紙幣ナリト妄信シタルモノト一般文書又ハ印ソノモノニ憑テ欺カレタルニ然ラスシテ文書又ハ印ト云フ大體ノ形式ヲ妄信シタルモノタルニ

過キサレハナリ

斯ク論シ去ルトキハ人或ハ云ハン子ノ説或ハ正當ナラン然レトモ現今我國一般ノ狀況ヲ案スルニ一私人ハ皆ナ限定シタル一個ノ實印ヲ所有スト雖モ畢竟舊慣ニ依テ之ヲ携フルノミ眞ニ其要アルニ非ス隨機自己ノ欲スル所ノモノヲ使用シ以テ十分ナル證據力ヲ付與スルコトヲ得ルカ故ニ如何ナル印カ何人ノ印ナルヤヲ豫知スルコトヲ得ス茲ニ於テカ多數ノ者ハ遂ニ署名者ノ名ヲ表示シタルモノタルト否トヲ以テ之ヲ判別スルノ已ムヲ得サルニ至レリ然ルニ子ノ如ク論シ去ルトキハ滔々タル多數ノ惡漢ハ詐欺ヲ以テ天下ヲ横行スルニ至ラン是レ豈ニ寒心セサル可クンヤト然リ真ニ此ノ如キモノアリ然レトモ是レ其罪慣習ノ廢頽ト法ノ不備トニ在リ余輩解釋者ノ知ル所ニ非ス請フ聊カ之ヲ陳セン

嗜昔幕政ノ尙ホ未タ衰ヘサルノ時ニ當テヤ首ト引替ヘノ實印テフ諺アリ又同時ニ謀書謀判ハ死刑ニ處スルノ嚴刑アリ當時實印ニ對スル一般ノ觀念知ル可キナリ現ニ尙ホ明治ノ初年ニ至リテモ政府ハ令シテ金錢ノ貸借ハ必ス實印ヲ用ユヘキコトヲ以テシタルノミナラス戶主ハ必ス實印ヲ其管轄官廳ニ届出ルノ慣習アリキ證書ニハ必ス實印ヲ用井實印ハ必ス之ヲ管轄官廳ニ届ク迂ハ迂ナリト雖モ其ノ用意スル所豈ニ周到ナリシニ然スヤ然ルニ歐米ノ文化漸ク我國ニ浸潤スルニ至リ未タ彼ニ行ハル、署名ノ法ヲ採用セサルニ先チ我實印ノ良慣習ヲ捨テ、之ヲ土芥視シ之カ取締ニ關スル法令亦溟々ノ中ニ雲散霧消遂ニ印章ノ用ヲ重シテ制定セラレタル刑律ト相適合セサル不規律不整頓ナル社會ヲ現出シ其極法ヲ適用セント欲スルモ得ヘカラサルカ如キ多數ノ惡漢ヲ輩出セシムルニ至リシナリ、之ヲ是レ願ミスシ

テ妄ニ法ノ解釋ヲ曲ケ若クハ罪ヲ正當ナル解釋者ニ委セントス何ソ其無法ナル！然ラハ今ノ世ニ當テ之ヲ救済スルノ法如何？再ヒ明治初年ノ制度ヲ採用シ其當時ノ舊慣ヲ再演ス可キヤ將タ外國署名ノ法ヲ採用ス可キヤ曰ク完全ヲ希ハ、私印ニ付テハ二者共ニ之ヲ採用シテ印章ト署名ト其一ヲ欠カハ之ヲ無効トスルト同時ニ現今將ニ發達セントスル登記ノ法制ヲ採用シ或ル制限ノ下ニ於テ私人ノ用井ント欲スルタケノ印章ヲ登記セシムルヲ可トス然レトモ現今取引ノ頻繁ナル到底此ノ如キ迂遠ナル方法ニ依ルヲ得ス兩者何レカヲ採ラサル可カラサラン然ラハ何レヲ採用ス可キヤ曰ク印章ハ同一ノ手腕ヲ以テスルモ再ヒ同一ノモノヲ作製スルコトヲ得スト云フノ說アルノミナラス必シモ本人ニ依ルヲ要セサルノ便アリ之ニ反シテ署名ハ太古ノ遺俗ニシテ其觀念極メテ幼稚、本來變換シ易キヲ原則トシ其真偽極

メテ判別シ易カラサルモノアルノミナラス必ス本人ヲ要スルノ不便アリ、故ニ前者ヲ採用シテ之ヲ登記セシメ、商人ノ如キ取引ノ煩劇ナルモノハ豫メ多數ノ印鑑證明ヲ得之ヲ取引先ニ送付シ置カハ希クハ安全ニシテ且取引ノ敏活ヲ妨クルカ如キコトナカラシカ(官印ニ付テハ官報ニ掲載シテ公示スルヲ可トス)

以上余輩ハ私文書偽造罪ニ關スル規定ヲ説明セリ尙第二百一十一條第

二百十二條ノ規定ヲ剩スト雖モ例ニ依リ之ヲ省ク

第三項 特種ノ官私文書ヲ偽造スル罪

余カ茲ニ特種ノ官私文書ヲ偽造スル罪ト題スル所ノモノハ法律所謂第五節免狀鑑札及ヒ疾病證書ヲ偽造スル罪ニ相當ス、之ヲ稱シテ特種ノ官私文書ト云フ所以、畢竟免狀及ヒ鑑札ハ官府カ一私人ノ爲メニ下付スル所ノモノニシテ官文書中所謂公證文書ノ一種ニ屬シ疾病證書

ハ間接又ハ直接ニ人ノ利害得失ニ關スル事項即チ權利義務ニ關スルコトヲ證明セシカ爲メ特ニ作製セラル、モノニシテ私文書中所謂權利義務ニ關スル證書ノ一種ニ屬スルモ法律ハ其偽造又ハ變造ニ因テ生スル所ノ害惡甚タ輕微ナルヨリ特別ノ場合ニ非スノハ之ヲ罰セストシ特ニ之ヲ普通ノ官私文書ヨリ分離シテ特別ノ制裁ヲ付シタルニ因ル

右ニ説明シタルカ如ク特種ナルノ點ハ單ニ制裁ヲ異ニシタルニ在リテ文書タルノ性質ニ於テハ毫モ之ヲ缺クコトナキカ故ニ文書偽造罪タルニ必要ナル一般ノ成立要素ハ本罪ニ於テモ亦之ヲ具備スルコトヲ要スルモノトス隨テ本罪ヲ構成スル爲メニハ(一)免狀鑑札又ハ疾病證書ニ係ルコト(二)之ヲ偽造變造シテ行使シ又ハ官廳ヲ欺キテ之カ下附ヲ受クタルコト(三)害ヲ生セシムルコトヲ得ヘキコト(四)害ヲ生セシ

ムルノ意思アルコト詳言スレハ因テ法律ノ許サ、ル職業其他ノ行爲ヲ爲シ又ハ法律ノ要求シタル役務ヲ免レントシタルコトノ四要素ヲ具備スルコトヲ要ス
以下更ニ(一)免狀鑑札ヲ偽造スル罪ト(二)疾病證書ヲ偽造スル罪トニ分チテ説明ス可シ

第一段 免狀鑑札ヲ偽造スル罪

余カ茲ニ免狀鑑札ヲ偽造スル罪ト命スル所ノモノハ第二百十三條及ヒ第二百十四條、第二百十七條ニ對當ス

第二百十三條ニ曰ク、官ノ免狀又ハ鑑札ヲ偽造シテ行使シタルモノハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但官印ヲ偽造シ又ハ盜用シタル時ハ偽造官印ノ各本條ニ照シテ處斷ス

第二百十七條ニ曰ク、免狀鑑札及ヒ疾病ノ證書ヲ増減變換シテ行使シタル者ハ亦偽造ノ刑ニ同シ

第二百十四條ニ曰ク、族籍身分氏名ヲ詐稱シ其他詐僞ノ所爲ヲ以テ免狀鑑札ヲ受クタルモノハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ、二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

官吏情ヲ知テ其免狀鑑札ヲ下附シタル者ハ一等ヲ加フト
第二百十三條及ヒ第二百十七條ハ偽造變造シテ行使シタル者ヲ第二百十四條ハ詐欺ノ所爲ヲ以テ免狀鑑札ヲ受クタル者及ヒ官吏情ヲ知テ之ヲ下附シタル者ヲ規定ス通シテ免狀鑑札ニ係ルカ故ニ余ハ先ツ免狀鑑札ノ何モノタルコトヲ説明シ次ニ各條項ニ特殊ナル點ヲ説明ス可シ

第一 免狀鑑札ノ定義 法律ハ單ニ免狀鑑札トアリテ其如何ナルモ

第一編 公益ニ關スル重罪輕罪 第四章 信用ヲ害スル罪 第三節 文書偽造罪 五七五

ノタルヤモ尙ホ之ヲ例示セザルカ故ニ抽象的ノ説明ヲ以テ之ヲ確定スルコトハ極メテ困難ナリト雖モ今法律ノ明文ト他ノ條項トヲ對照シテ之ヲ案スルニ(一)先ツ明文ニハ官ノ免狀又ハ鑑札トアルカ故ニ其官文書タルコト論ナシ(二)然ラハ官文書トシテ如何ナル官文書ナルカト云フニ先キニモ説明シタルカ如ク免狀鑑札ハ一人ノ利益ノ爲メ其一人ニ下附スルモノナルカ故ニ公證文書ノ一種ニ屬スルモノタルコト亦疑ヲ容レズ(三)然ラハ第二百四條所謂公證文書ノ中ニ入ル可キモノト免狀鑑札トノ區別如何曰ク第二百四條ニ於テハ公證文書トシテ公債證書及ヒ地券等債權ヲ有シ又タ土地ヲ所有スルト云フカ如キ事實ヲ公證シタル文書ノミヲ列舉シタルニ依テ之ヲ見レハ第二百四條所謂公證文書トハ事實即チ同一ノ人ニ付テモ時ト場所トヲ異ニスル毎ニ變動ス可キ一ノ關係ニ付テ公證

シタルモノ隨テ其文書モ亦一樣ノ形式ヲ有ス可カラサルモノヲ總括シ免狀鑑札トハ事實以外即チ時ト場所トヲ異ニスル毎ニ變動スルコトナク常ニ一定ノ位地ヲ有スル人ニ付着スル一定ノ有様ニ付テ公證シタルモノ隨テ其文書モ亦一樣ノ形式ヲ有スルコトヲ得ヘキモノヲ總括シタルモノト信ス

然ラハ免狀ト鑑札トノ區別如何此點ハ刑罰ニ關係ナキカ故ニ格別ノ實益ナキノミナラス其區別尙ホ一層困難ナリト雖モ強テ之ヲ試ミテハ免狀トハ之ニ依テ法律カ一人ニ或ル行爲ヲ爲スコトヲ得ルノ資格ヲ付與法律カ必要ト認メタル者又ハ豫メ要求シタル條件ヲ充タシタル凡テノ者ニシタルモノニシテ例ハ醫師藥劑師獸醫又ハ蹄鐵工等ノ免許狀中小學教員免許狀西洋形船ノ船長運轉手機關手又ハ水先ノ免許狀旅行免狀狩獵免狀等及ヒ官公立學校又ハ官